武田双雲初となる現代アート「ピカソ、ごめん。」展に向けた必携ガイドブック!

Discover Japan

2020 January 1
2020年1月号（毎月6日発売）
12月6日発売／第2巻第1号／通巻9号



現代アーティスト・
Souun♡の
“読める”現代アート、
渋谷PARCOでも
買えます!

特集
書道家から現代アーティストに転身!
現代アーティスト・Souun♡が生み出す、世界で唯一の現代アート

◎Souun♡、なぜいまアートなんですか?◎現代アーティスト・Souun♡に魅せられて。レオス・キャピタルワークス 藤野英人さん／アカツキ 塩田元規さん◎アートプロジェクトの仕掛け人・高橋邦忠さんが語る、双雲アートのススメ◎リンクル 川崎祐一さんが見る、双雲アートの可能性◎ADHD（注意欠陥・多動性障害）をアートに高める!? Souun♡の“読める”現代アート……

Discover Japan 1
January 2020 Vol.99
ディスカバー・ジャパン 2020年1月号（毎月6日発売）12月6日発売 第2巻第1号／通巻9号 発行人:齋藤健一 編集人:高橋俊宏 発行・発売:（株）ディスカバー・ジャパン 〒108-0073 東京都港区三田3-4-18 二葉ビル11F 編集 tel:03-6812-9793 広告 tel:03-6812-9792 販売 tel:03-6812-9791（代表）

知っていますか？ あの書もこの書も武田双雲。彼の生き様に、人生のヒントが詰まっている！

Discover Japan

2020 January 1
2020年1月号（毎月6日発売）
12月6日発売／第2巻第1号／通巻9号

現代アーティスト・Souun♡の“読める”現代アート、渋谷PARCOでも買えます！



◎書道家・武田双雲はどう生まれ、どう生きるのか。著作60冊越え！ 彼のポジティブシンキングを世の中が求めているワケとは？ 1975～2020 ◎なぜ彼の書は、人々の心を躍らせるのか。 書の現場を定点観測／書道道具を解剖／“楽”しむ書道教室「ふたばの森」とは？ ◎双雲の書に魅せられて。ホテル ザ セレスティン京都祇園／エドウイン／閑山 中尊寺

速報！ 2020年に大規模個展を開催！

特集

いま世の中を元気にするのは、この男しかいない。

Discover Japan

●デジタル版には、表紙画像や目次に掲載している記事、画像、広告、付録が含まれない場合があります。
●掲載情報は原則として奥付に表記している発行時のものです。

以上をご理解の上、ご利用ください。

Topics 01

New Open

アートコレクターの家がモチーフ LOEWE旗艦店がオープン







スペインのラグジュアリーレザーブランド「LOEWE」の新たな旗艦店「CASA LOEWE Tokyo」が銀座7丁目に誕生した。「CASA LOEWE」はすでにロンドンやマドリードなど世界中で展開している店舗で、コレクターの家をイメージしてデザイン。コレクションのほか、彫刻や絵画、工芸品を展示しているのが特徴だ。東京の旗艦店では、家具デザイナー・ジョージ・ナカシマ、陶芸家の桑田卓郎と、芸術家・ユージ・アゲマツなど日本を代表するアーティストの作品も選出されており、フルラインアップの商品とともに飾られる。東京ならではのLOEWEの世界観を楽しみたい。

1・2）店内ではコンクリートを随所に採用、階段の手すり、天井のスラット、棚は日本産の天然木材を使用した。3）各フロアにはジョージ・ナカシマの「コノイド・クッションチェア」を配置

Data

CASA LOEWE Tokyo

住所：東京都中央区銀座7-5-4
Tel：03-5568-6191
営業時間：11:00～20:00
定休日：不定休　www.loewe.com

ディスカバー・ジャパンは毎月6日発売です

メイドインジャパンの鍋「バーミキュラ」の世界を体験

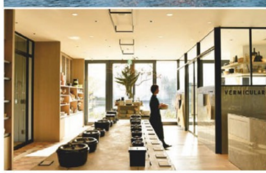
「世界一、おいしいご飯」のために生まれた炊飯器「ライスポット」などで知られる、鋳物ホーロー鍋ブランド「バーミキュラ」。そのブランド発信拠点として、12月3日（火）に体験型複合施設「バーミキュラ ビレッジ」が愛知県名古屋市にオープンする。施設はバーミキュラを使用した料理が味わえるレストランや、ベーカリーカフェを併設した「ダインエリア」と購入前に味や使い勝手を体験できる「スタジオエリア」のふたつに分かれ、バーミキュラの魅力に触れることができる。

Data

VERMICULAR VILLAGE

住所：愛知県名古屋市中川区舟戸町2、4運河沿い
Tel：052-355-6800（レストラン）、052-355-6801（フラッグシップショップ）　営業時間：レストラン／8:00～22:00（月・火・日曜は～21:00）、ベーカリーカフェ／10:00～18:00、土・日曜、祝日は8:00～、フラッグシップショップ10:00～20:00、土・日曜、祝日は9:00～
定休日：水曜（フラッグシップショップのみ）
www.vermicular.jp/village





上）場所は「バーミキュラ」を考案した愛知ドビーの創業地・名古屋市中川区の中川運河沿い。下）フラッグシップショップではビレッジ限定販売品や新製品の先行販売も行う

Discover Japan

Topics 02

New Products

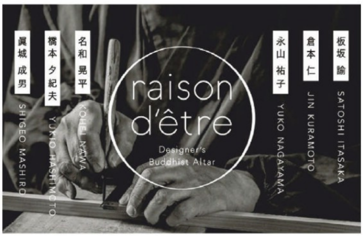
伝統を受け継ぎ進化も止まらない



写真界のパイオニア・ライカがミラーレスカメラ「ライカSL2」を発売。同製品は、2015年に誕生したライカSLの後継機。人間工学デザインを追求し、約4700万画素のフルサイズセンサーやボディ内手ブレ補正機能などを搭載。ライカの伝統を受け継ぎ、未来を担うカメラが完成。

Data
ライカSL2
価格：89万1000円
型式：フルサイズセンサー搭載ミラーレスシステムカメラ
サイズ：H107×W146×D42㎜　重量：約835g（バッテリー含まず）
問：ライカ カスタマーケア　Tel：0120-03-5508　www.leica-camera.co.jp

祈りのかたちも変化する時代



1830年創業の京都の仏壇・仏具メーカー若林佛具製作所が、新たな仏壇のスタイルを提案する「raison d'être」プロジェクトを始動。第1弾は6組のクリエイターが、"仏壇の在り方"を伝統工芸の技術をもって各視点で再構築。作品は受注生産で販売中。



Data
raison d'être（レゾンデートル）1stコレクション
価格：仕様により異なる
参加クリエイター：板坂諭、倉本仁、永山祐子、名和晃平、橋本夕紀夫、眞城成男（敬称略）
問：若林佛具製作所　Tel：075-371-3131
www.wakabayashi.co.jp

鉛筆に敬意を表して生まれたボールペン

「鉛筆とボールペンの中間のようなペンがあったら」。デザイナー、マイク・エーブルソン氏の想いから三菱鉛筆「uni」とつくった「LAYERED」。木の板で芯を挟む鉛筆に着想を得ており、インクは三菱鉛筆のJETSTREAMを採用。鉛筆の存在感とペンの使い心地が共存した逸品に。



Data
LAYERED
価格：2万2000円　色：Black、Navy、Burgundy、Green
問：ポスタルコ京橋店　Tel：03-6262-6338　https://postalco.net

Discover Japan

Topics 03

New Fashion

二人で着たい上質ニット



冬の訪れを告げる“干し柿づくり”から着想を得て、雪に覆われた冬の田畑をイメージしたワッフル柄が美しいニット。14番手という太い糸を2本撚り合わせ、その糸を3本取りで5ゲージの編み機にかけて編み立てられたニットは、ふんわりとした快適な着心地に加え、保温性も抜群。男女のサイズ展開があるため、冬の装いならではのニットスタイルを2人で楽しもう。

YASHIKI

Size：0、1、2、3　Material：Wool80%、Nylon20%
Color：WHITE、CAFE、NAVY　Price：3万4000円
問：alpha PR（アルファ PR）　Tel：03-5413-3546



Hender Scheme

Size：H90×W110×D20㎜　Material：calf leather、leather
Color：Black、Brown、Red、Yellow、Orange
Price：3万7800円　問：スキマ 恵比寿　Tel：03-6447-7448

ギフトにも最適なカラフルな財布

昨今では、キャッシュレス化が進み小さめの財布がトレンドになっている。そこでおすすめなのが、こちら。ベジタブルタンニンなめしによる発色のよさを生かしたカーフレザーの財布は、二つ折りタイプで、お札、小銭、カード類がコンパクトに収納可能。ユニセックスに使えるのでギフトにも喜ばれること間違いなし。

繊細なガラスジュエリーで冬を演出

クリアのガラス・白のガラスでつくられたチェーンネックレスは、雪のような透明感にクラシカルなデザインで、パーティシーンでのドレスアップ用に最適。皇太子妃雅子さまとキャロライン・ケネディ元駐日米国大使もお召しになった逸品だ。男性読者の皆さん、年末年始のギフトとして要チェック！



SIRI SIRI

Size：Free　Material：耐熱ガラス、チェーン／真鍮（金メッキ）、タグ／14KGF　Color：White、Green、Brown
Price：4万9000円　問：SIRI SIRI　Tel：03-6821-7771

文＝菅野茂雄　写真＝伊藤大作　スタイリスト＝杉浦 優　text: Shigeo Kanno　photo: Daisaku Ito　stylist: Yu Sugiura

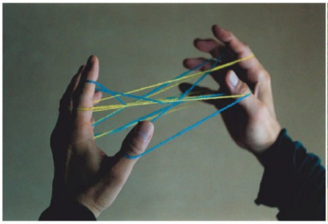
Discover Japan

Topics
04

Exhibition

ミナ ペルホネンの世界へようこそ

「特別な日常服」をコンセプトに服づくりを行ってきたブランド「minä perhonen（ミナ ペルホネン）」。デザイナーの皆川明氏が設立した同ブランドは、服にはじまりうつわや家具、近年では宿も手掛けるなどクリエイションの幅を広げる。本展では初期からの400着を超す衣服が並べられた空間や、図案の着想元の展示などから、25年にわたるブランドの歩みと皆川氏のものづくりの思想を垣間見ることができる。ブランド独自の世界観に浸ってみて。



© Photograph Yoshihiko Ueda

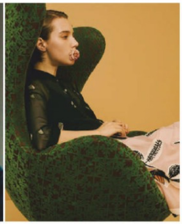


photo: Mitsuo Okamoto

Data

ミナ ペルホネン／皆川明 つづく

会期：～2020年2月16日（日）　会場：東京都現代美術館企画展示室3F　住所：東京都江東区三好4-1-1
時間：10:00～18:00（入場は閉館の30分前まで）　料金：一般1500円、大学生1000円、高中生600円、小学生以下無料
休館日：月曜（1月13日は開館）、12月28日～2020年1月1日、1月14日　Tel：03-5777-8600　https://mina-tsuzuku.jp

浮世絵スター集結



歌川広重　『名所江戸百景　亀戸梅屋舗』　江戸時代/安政4年（1857）、大判錦絵　東京都江戸東京博物館蔵
展示期間：2019年12月17日～2020年1月19日（東京会場）

誰もが一度は見たことのある、浮世絵の名作が一堂に会する展覧会が開催される。国内外で人気の高い5人の絵師が集結。美人画の歌麿、役者絵の写楽、風景画の北斎（P94～95）と広重に、勇壮な武者絵と機知に富んだ戯画の国芳と、それぞれの絵師の持ち味を堪能できる。

Data

大浮世絵展 歌麿、写楽、北斎、広重、国芳 夢の競演

期間：～2020年1月19日（日）※展示替えあり
会場：東京都江戸東京博物館
住所：東京都墨田区横網1-4-1
時間：9:30～17:30（土曜は～19:30）
※入館は閉館の30分前まで
休館日：月曜（1月13日は開館）、12月28日（土）～2020年1月1日（水）
料金：一般1400円、大学生1120円、高中小生・65歳以上700円
Tel：03-3626-9974　https://dai-ukiyoe.jp

展覧会名をAIが決める?

「未来と芸術展：AI、ロボット、都市、生命──人は明日どう生きるのか」。森美術館で開催中の本展覧会は、AI「IBM Watson」を利用し名づけている。多くの判断をAIに任せる未来を体現するような本展は、最先端のテクノロジーとそれに影響を受けて生まれた芸術を通し、近未来に起こり得る社会の課題をあらわにする。芸術とは何か？　人間の生きる目的とは？　本展の企画をもって館長を退く南條史生氏からの問いかけだ。



エコ・ロジック・スタジオ「HORTUS XL アスタキサンチン g」 年© NAARO



ディムート・シュトレーベ「シュガーベイブ」 年-

Data

未来と芸術展：AI、ロボット、都市、生命
──人は明日どう生きるのか

会期：～2020年3月29日（日）　会場：森美術館
住所：東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 53F
時間：10:00～22:00（火曜は～17:00）※12月31日、2月11日は22:00まで開館　※入館は閉館の30分前まで　休館日：なし
料金：一般1800円、大高生1200円、4歳～中学生600円、65歳以上1500円
Tel：03-5777-8600　www.mori.art.museum

文=編集部　text: Discover Japan

Discover Japan

Discover Japan
1 2020 January
表紙題字＝武田双雲　裏表紙写真＝近藤 篤
cover title: Souun Takeda　back cover photo: Atsushi Kondo

※掲載されている価格は、特に表記がない場合、すべて税込価格です。

連載●

隈研吾が暮らす神宮の杜

第九回　草月会館

東京・青山通りに面する「草月会館」は、いけばな草月流の拠点として　　年に竣工した。設計は国際的な建築家として日本のモダニズム建築を牽引した丹下健三（　　～　　）が手掛けた。外壁はハーフミラーガラスを使ったカーテンウォールで覆われ、周囲の風景をよく映す。館の前には青山通りを挟んで赤坂御所が広がっており、隣には高橋是清翁記念公園もある。外壁のガラス・カーテンウォールには青空も映え、赤坂御所の緑が映し込まれる。

会館内に入ると、石ならではの素朴な風合いを生かした、巨大な石の庭が目に飛び込んでくる。彫刻家・芸術家として世界的に名を馳せたイサム・ノグチ（　　～　　）による石庭『天国』だ。草月会館の建築主であり、いけばな草月流の創始者として世界にいけばなを広めた勅使河原蒼風（　　～　　）とイサム・ノグチという2人のアーティストに、建築家・丹下健三が出会って誕生した世界的なコラボレーション。

「カーテンウォールを使った丹下さんと、石庭を持ち込んだイサム・ノグチは、それぞれが自然をリスペクトしていながらも、自然に対するアプローチが違っていておもしろいのですよね」

自身に影響を与えた丹下建築を見ながら、隈研吾氏はアーティストと建築家の表現方法に注目する。「どちらかが相手に従属するのではなく、アーティストと建築家がそれぞれのフィールドで全力を出し切っていて、それが生み出している緊張感がおもしろい」

隈氏は、小学生のときに丹下健三が設計した国立代々木競技場を見て、建築家を志したことは、当連載でも何度か触れた。実際に会ったことはないが、丹下建築はつぶさに観察してきた。

「丹下さんと代々木競技場でいえば、吊り天井構造や屋根のかたちなどの建築的な側面から語られることがほとんどでしたが、僕は代々木競技場に入るときの石組みが非常に印象的でした。草月会館と石庭を見て、はじめて代々木で石組みを見たときに受けた衝撃がよみがえってきました」

隈氏も自身が設計した、「ロレックス」の米テキサス州ダラス支社ビル「ダラス・ロレックス・タワー」では、底部に石垣を配した。織田信長が安土城の石垣を築いたときから技術を継承してきた石工集団「穴太衆」と組んで積み上げた石垣は、自然と近代建築を調和させた好例として世界的に評価が高い。

「『石とガラス』というのは近代建築の大きなテーマ。草月会館で荒々しいままの石庭を組み込んで使った建築家は丹下さんがはじめてじゃないかな。意外に論じられていない部分ですが、すごく丹下さんらしい。世間に見せている〝丹下健三〟とは別の顔が出たのだと思っています」と隈氏は話す。

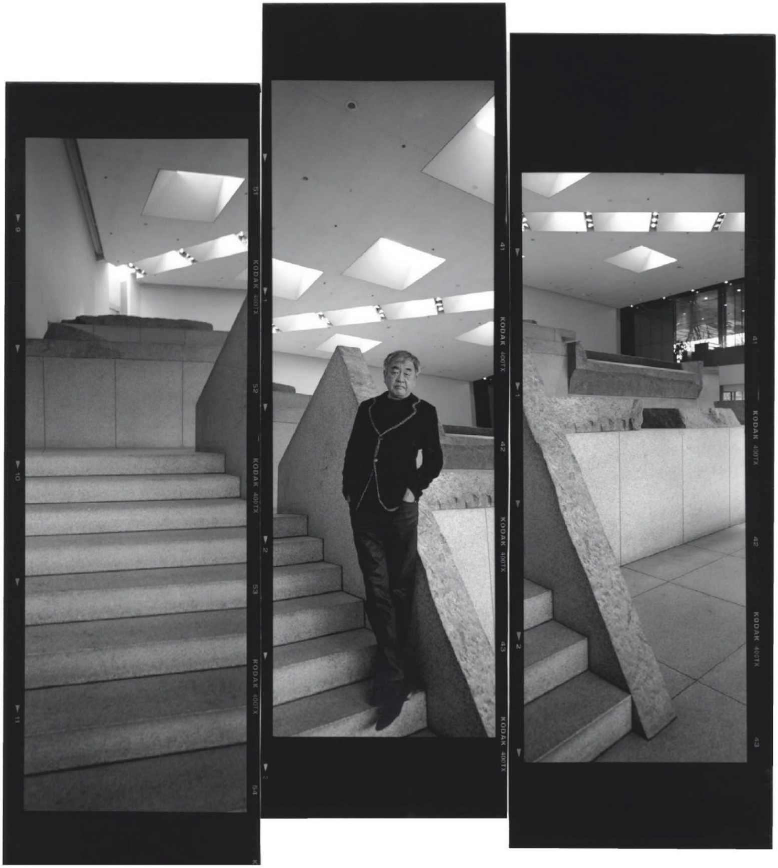
石垣の上に建てたダラス・ロレックス・タワーについても「ここは、丹下さんのそんな別の顔を引き継いでいるかもな、と思っている部分です」と、自分自身のことを分析している。



ベンジャミン・リー
（フォトグラファー、アーティスト）

カナダ・トロントで育つ。英オックスフォード大学で心理学を学んだ後、1977年、ロンドンにスタジオを設立。企業の広告写真を手掛ける一方で、彫刻家ヘンリー・ムーア等の著名人の肖像を撮影し、アート作品として評価を高めた。'80、'84年に英国のデザイン賞「D&AD賞」を受賞。その後東京に拠点を移し、各界の著名人を撮り続けている。主な写真集に『Odyssey』、『創造の現場。』など

文＝三河主門　写真＝ベンジャミン・リー　企画・オーガナイザー＝さかよりのりこ（L.STUDIO）
text: Shumon Mikawa　photo: BENJAMIN LEE　planning & organizer: Noriko Sakayori（L.STUDIO）



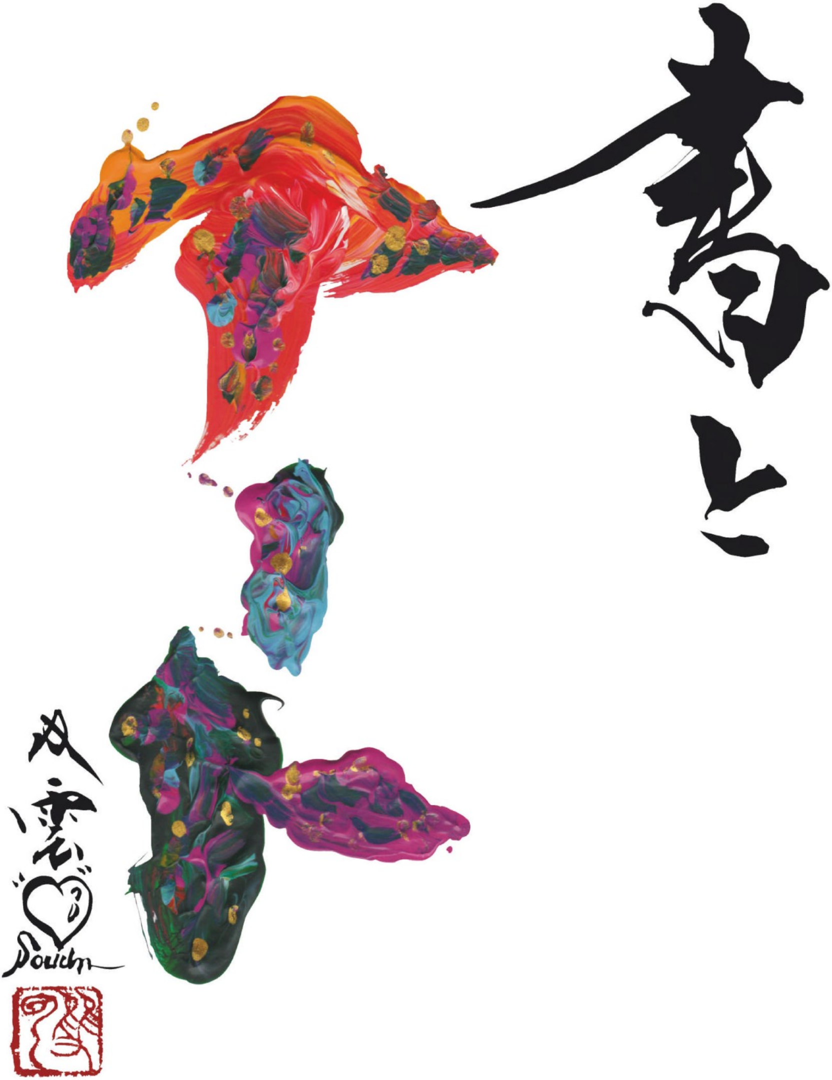
イサム・ノグチによる石庭『天国』にて。草月会館は、地下4階から11階からなり、多目的ホール、カフェ、資料室、ショップ等を有する

隈 研吾
くま・けんご

建築家。東京大学教授。東京大学建築学科大学院修了後、1990年、隈研吾建築都市設計事務所を設立。20カ国を超す国々で建築を設計し、日本建築学会賞、フィンランドより国際木の建築賞、イタリアより国際石の建築賞ほか国内外で受賞多数。土地の環境、文化に溶け込む建築を目指し、ヒューマンスケールのやさしく、柔らかなデザインを提案している。主な著書に『自然な建築』、『建築家、走る』など

草月会館

住所：東京都港区赤坂7-2-21
Tel：03-3408-1154
開館時間：9:30 〜 17:30
休館日：土・日曜、祝日
※催し物中の開館日については、お問合わせください
www.sogetsu.or.jp


寿と

書道家から現代アーティストに転身！

特集

いま世の中を元気にするのは、この男しかいない。

日本を代表する書道家・武田双雲――
NHK大河ドラマ『天地人』や世界文化遺産「平泉」をはじめ
誰もが一度は目にしたことのある題字を手掛けている双雲さんが、
年　月　日より開催される、自身初となる
大規模アート個展「ピカソ、ごめん。」展（P56）を皮切りに
現代アーティスト・Souun♡として生まれ変わります。
今回、我々は彼の新天地に向けて、「武田双雲」をW表紙にて特集いたします。
双雲さんが書と出合ったきっかけ、書への想いを作品とともに紹介しながら、
裏表紙からは、現代アーティストとしての魅力をいち早くひも解いています。
この一冊には、書道家・武田双雲さん、そして
現代アーティスト・Souun♡の「書とアート」の魅力がすべて詰まっています。

題字＝武田双雲　文＝編集部
title: Souun Takeda　text: Discover Japan

渋谷PARCO Discover Japan Lab.でのSouun♡作品の展示販売に併せてアートプレゼンテーションを開催します！

武田双雲さんとプロデューサー・高橋邦忠さん（P169）によるSouun♡アートの魅力を解説するプレゼンテーションを開催。世界唯一の作品、その深淵に触れられるチャンスだ！

日時：2019年12月24日（火）、25日（水）を予定
場所：渋谷PARCO「SUPER DOMMUNE（仮）」
住所：東京都渋谷区宇田川町15-1

※詳細は小誌ウェブサイトをチェック！
https://discoverjapan-web.com

書道家



1975

双雲さんが10歳のときの家族写真。左から競輪解説者の父・武田圭二さん、書道家の母・双葉さん、3男の双龍さん、次男の双鳳さん、右が双雲さん。兄弟全員が書道家とし活躍中

武田双雲の半生

日本を代表する書道家・武田双雲。彼はいかにして書と出合い、何を思い、何を考え、筆を執り続けているのか。そしてなぜ彼の書は多くの人々の胸を打つのか。歩んできた道のりに迫り、その理由を探っていく。

文＝大森菜央　写真＝工藤裕之（P17）
text Nao Ohmori　photo Hiroyuki Kudoh



2019–2020

185㎝という長身で、おおらかで伸びやかな人柄が人々を惹きつける。2020年にアメリカへ活動拠点を移すことを決意。胸に抱くのは現代アーティスト・Sounn♡としての作品

2001 ↓ 2008

会社員から書道の世界へ

双雲さんは大手企業に勤めていた元会社員。ある出来事をきっかけに書道家の道を進むこととなる。



武田双雲の人生の一文字

人生の一文字は「楽」。書道家として活動をする上で、大切な字となっている。「自分の中で絶対に譲らない軸をもとうと思って決めたんです」

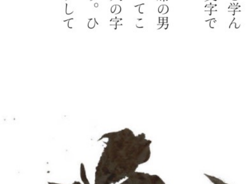
年6月9日、熊本市内の病院で一人の男児が産声を上げた。「大智」と名づけられた彼こそが、後の書道家・武田双雲その人である。

「両親は『光り輝いていた』と話していますね。絶対に勘違いなんですけど（笑）。それがきっかけで、僕を特別な人間だと思って育てたみたいです」

書道家である母・武田双葉さんの導きで、はじめて筆を執ったのは3歳のとき。書道の型を厳しくたたき込まれるも、書道以外では自由に伸び伸びと育てられたという。それは父・圭二さんも同様。何をしても手放しで肯定し、「大智は天才たい」が口癖だったとか。

母の字を模倣する臨書で書道を学んできたが、小学校へ上がると「文字で遊ぶ」ようになっていく。

「先生の字を模倣したり、隣の席の男の子の癖字をまねしたり。『字ってこんなにおもしろいんだ！』と、人の字に興味をもつようになったんです。ひとつの漢字を立体化したり、バラして



ショートショートムフィルムフェスティバル／2004年

アジア部門のロゴ「魂」を揮毫。インターナショナル部門審査員も務めた。「作品によって各国の文化の違いが感じられ、おもしろかった。世界に行きたいと思うきっかけのひとつかも」



双雲初個展「一文字展」／2002年

会場は独立後に借りた古民家。当時はここで書道教室を行っていた。「井戸に落とした書を、木に下げた鏡に映したり、色を使った書を展示したり。現代アート個展のようでした」



北方謙三『楊令伝』
『岳飛伝』／2006年

小説家・北方謙三氏のさまざま作品にかかわる。「北方さんも作中の登場人物を制御できないとうかがい、僕の人生は当然コントロールできるわけがないと気づかされました」



TBS『里見八犬伝』／2006年

TBS開局50周年記念新春スペシャルドラマとして2夜連続放送された『里見八犬伝』の題字。犬塚信乃 戌孝（しの もりたか）役は主演の滝沢秀明さんが演じている。

違った角度で構成したりもしていましたね。振り返ると、小学生の頃の落書きがいまのアートの原型になっているのだと思います」

　中学校へ進んで以降、書に親しむ時間は減っていくが、東京理科大学への進学を機にはじめた一人暮らしや、新卒で入社したNTTでの寮生活で、ふと暇ができると書道を行うようになっていた。そのうち会社のメモも筆と墨を使うようになり、社内でうわさが広がっていったという。転機が訪れたのはそんなある日のこと。

「『名前を書いてほしい』と言われて書いたら、一人の女性社員が涙を流して喜んでくれたんです。『自分の名前が嫌いだったけど好きになれた』って。それで『世界中の人を喜ばせたい！』と感じ、退職を決意しました」

　年8月にNTTを退社。'01年1月に書道教室「ふたばの森」を開き、ネットショップ「ふで文字com」をオープン、サックス奏者の坪山健一さんのストリートパフォーマンスに魅了され、空いた時間にはストリート書道も行っていた。

「ストリート書道を行ううちに、自分の心の中と、現実に起きることが、リンクするとわかったんです。そして自分の人生の一文字を『楽』に決めたんですね。世界中を楽にして、楽しませて、自分自身も楽しして、楽しく生きる。これは僕が一貫して伝えたい思いとなりました」

　'02年頃から双雲さんの活動は各メディアで取り上げられ、多くのキーマンの目に留まり、題字やロゴ、イベントでの書道パフォーマンスなど、多岐にわたる仕事が舞い込んでくる。



愛・地球博／2005年

121カ国4国際機関が参加した「愛・地球博」メインパビリオンの題字を手掛ける。「僕の活動を知ったプロデューサーの方からご連絡いただいて。徐々に活動の場が多くの人に見ていただける舞台になっていきました」

「美空ひばり」新題字
／2007年

昭和の歌姫・美空ひばりさんの生誕70周年を記念して発売されたカバーコレクション・アルバム。「昴」や「夜霧よ今夜も有難う」など、数々の名曲が美空さんの歌声で収録されている

「幼少期から文字で遊んでいました。当時の落書きがいまのアートの原型かもしれません」

2009
↓
2012

武田双雲の名が知れ渡っていく

注目度の高い作品の題字やロゴなど、「書道家・武田双雲」として活躍の場を広げていく。

書道家・武田双雲の名を広く響き渡らせたのは、NHK大河ドラマ『天地人』の題字であろう。プロデューサーからの熱烈なオファーにより実現したが、ほぼ無名の頃であったがゆえに、放送前は多くの批判が届いたという。

「あまりにも迷惑をかけているので泣きながら辞退を申し出たら、プロデューサーの内藤慎介さんが『僕が惚れた書なんです。このドラマには双雲さんの書がぴったりなんですよ』と矢面に立ち対策をしてくれたんです。クレームは初回の放送以降ピタリと止まり、感動の声を数多くいただきました」

双雲さんへのバッシングはこのときばかりではない。そのたびに深く傷つき、恐怖すら感じることもあったという。

「辞めようと思ったことは何度もあります。喜んでもらいたくて書道をしているのに、みんなが嫌がるのなら辞めたほうがいいかなって。でも感謝の手紙が届くんですよ。『双雲さんの書のお陰で自殺をやめ、いまは幸せに暮らしています』とか、『人生が変わりました』とか。批判と賞賛が同時に来るんです。書道教室の生徒さんはいつも笑顔で、『先生、そんなの気にするんだ』って感じ（笑）。たくさんの手紙や生徒さん、家族の存在に、本当に救われましたね」



NHK大河ドラマ
『天地人』／2009年

主演の妻夫木聡さんが演じたのは名参謀、直江兼続。「彼は優しい雰囲気がありますし兼続もゴツゴツした戦国武将という印象はない。ひとりの弱い人間の強さや信念を表現しました」



スーパーコンピュータ「京」／2011年

東京理科大学で情報科学を研究していた双雲さんにとってコンピュータは身近な存在。「コンピュータは硬いイメージがありますが、柔らかさというか人間味がある。あえてバランスを崩し、スピード感と人間臭さを意識」



世界文化遺産「平泉」／2011年

世界遺産の指定を目指していた平泉観光協会からの依頼を受けて制作（P50）。「穏やかに見えて、芯の強い人々、そして平和を強く祈る心と奥に眠るエネルギーを表現しました」



クリネックス ティシュー「至高」／2010年

厳選した原材料となめらかな肌触りを実現する加工技術を結集させた日本製紙クレシアの商品ロゴ（P28）。「日頃から身近なモノに感謝していたんです。『最高級のティシューをつくる』という企業の想いに感動しました」



映画『火天の城』／2009年

安土城建設に挑む宮大工・岡部又右衛門にスポットを当てた、同名歴史小説を映画化した作品の題字を手掛ける。主演は西田敏行さん。築城にかける熱い思いが伝わってくる

「いまだに武田双雲の実感はない。気持ちはいまも初心のままです」

その背景には、双雲さんが抱き続けている意外な思いがある。

「自分の書に自信があって、書道をしているわけではないんです。もちろん僕はいいと思っているけど、みんながいいと思うかはわからない。僕の美意識とみんなの美意識が一緒かどうかなんて、わからないじゃないですか。ひたすら改善に改善を重ね、ビッグデータを集めているイメージですね。だから僕の書は常に変化をしていますよ」

名が世間に認知されるようになり、自身に変化はあったのだろうか。

「独立当初といまの状況が僕にとっては同じなんです。気持ちは初心のまま。『変わりませんね』とよく言われますけど、〝調子の乗り方〟も知らないから（笑）。『書道家・武田双雲』の実感もないし、街で声を掛けていただいても『僕のことを知っているんですか？』って思いますし。人間に差はないと考えているからかもしれません」

双雲さんは、どんなときも、誰に対しても、いつも穏やかで温かい。あらゆることに感謝し、日々をワクワクしながら過ごしているという。それが魅力的な人々や楽しい出来事、素晴らしい仕事を引き寄せているのだ。



雑誌『Discover Japan』／2009年～

2009年に発売した日本茶特集の「茶」を皮切りに、「酒」、「武士道」、「禅」、「麺」、「令和」と、小誌『Discover Japan』の表紙を美しく彩る数々の文字を揮毫

すべての活動の基盤はここにあり

「『感謝』は数え切れないほど書いてきました」と語る双雲さんの「感謝」に込めた思いとは。



「　年くらいから自分の中に
〝感謝〟の気持ちが芽生えてきました」



双雲さんの自宅の襖に書かれた書。「書いたのは2007年。深夜、『感性、感謝、感動』の言葉が降りてきて、思い立って書いたんです。妻には結構な勢いで怒られました（笑）」

「僕は感謝オタクです。周りが引くくらい感謝好き。水道、電気、布団、洋服、食材など、僕たちの生活はさまざまな便利なものに囲まれています。これらはどのような努力のもとに成り立っているのかを想像すると、自然と感謝の心が込み上げてくる。『粗探しメガネ』ではなく『感謝メガネ』をかけるんですね。感謝の気付きが増えると、恵みが引き寄せられるんです」

双雲さんが感謝オタクになったのは、　年頃から。'11年に腹部の激しい痛みを覚えて入院し、翌年には胆嚢摘出手術を行った。倒れる以前から生活は多忙を極め、健康をむしばんでいたのだろう。体調の悪化が、当たり前の幸せに対する感謝の気持ちを育んでいったのかもしれない。

「幸せを与えること、幸せに気づくこと、幸せな言葉を発して幸せな態度をとること。この3つを実践してから、人生の幸福度は増しています」

自身を「ネオポジティブ」だと話す双雲さん。人を喜ばせたい、幸せにしたい、感動させたいという思いが双雲さんのエネルギーになっているという。

「その結果が、多くの素敵なご縁につながっているのかもしれません」







世界感謝の日プロジェクト／2011年

自身の誕生日でもある6月9日を世界感謝の日とし、世界中で感謝をするというプロジェクトを立ち上げる。「6月9日は人類の感謝力を一気に引き出すお祭り。毎年イベントも開催しています」

2013 → 2017

最先端を走り続ける

年を重ねるごとに目覚ましい活躍を見せる双雲さん。ロゴや題字が生まれていく背景を問う。



サントリー マスターズドリーム「醸造家の夢」／2017年

商品のテーマである「夢」の字はテレビCMやポスターで使用。CMのナレーターは野村萬斎さん、曲は久石譲さんというまさに“夢の共演”。商品発表会では書道パフォーマンスを披露

ケツメイシ ツアーロゴ／2016年

音楽グループ、ケツメイシの新毛筆ロゴ。ケツメイシの活動におけるさまざまな場面でこのロゴが使用されている。「ケツメイシさんのメローさと無邪気さの裏側にある誠意を表現」



双雲さんの書は、すべて一発。全神経を集中し、一画一画に念を込め、筆を走らせていく。

「〝降りてくる〟イメージですね。僕はどんな書体でも書けてしまうので、『こういう書にしたら、こういう風に伝わるかな、みんなの心はこんな風に動くかな』と、デザイナー的な考え方をしています」

頭の中には書におけるマーケティングが詰まっており、緻密な計算を瞬時に行っているという。

「ここはかすれ率を1％減らそう、滲み率を1％加えよう、線の太さ、隙間、かすれの数はこれくらいにしようなど、書きながら細かい計算をしています。事前に考えておくのではなく」

さらにロゴや題字などの仕事では、「自分をゼロ」にしているのだそうだ。

「書道家としてのこだわりなんていらないんですよ。僕は人が喜ぶことをしたいから。常にお客さま目線を意識しながら書いていますね。飲食店なら、とがらせずに丸みをもたせ、美味しそうに書く。雑誌の表紙なら、本屋さんやコンビニで並んだとき、人の目に留まる違和感をどこかにつくるんです」

誰かを思う気持ちが書に反映される。だからこそ双雲さんの書は人の心に響き、共感を呼ぶのだろう。

「喜んでもらえることが何より大切。だからデザイナー的視点でいます」

AKB48「前しか向かねえ」／2014年

アイドルグループ・AKB48のシングル曲。「秋元康さんから『力を入れたシングルなので、双雲さんしかいない』と直接お電話をいただいて。AKB48の勢いを表現しました」



個展「陰と陽」／2015年

アメリカ・カリフォルニアで開催した個展。「友人に連れていってもらったご縁で個展を開催したんです。由緒ある建物に60 ～ 70点の作品を展示。地元の方々も受け入れてくれて、毎年訪れるようになりました」



成田空港「迎」／2014年

成田空港の到着ロビーで、日本に訪れた人々を歓迎する「迎」の書。「海外から帰国したとき、自分でも驚きます。『迎』の前で波動拳をするポーズもはやったとか（笑）」



月桂冠 日本酒
「米と水の酒」／2013年

コシヒカリを100％使用し、京都伏見の名水で醸した純米酒。商品の品質に対する月桂冠の姿勢を、「米と水の酒」の書で表した。書を容器の正面と背面にそれぞれに大きく配している



ROKI新聞広告／2015年

フィルターなどの製造・開発を行うROKIの経営ビジョン「挑戦, 創造, ∞」を書き、新聞広告には双雲さん自身も出演。この広告は同社のテレビCMと連動し、「静岡新聞広告賞2015」地域広告賞を受賞した

2018 ↓ 2019

〝楽〟を世界に伝える

活動に大きな変化が生まれていく。それは信念を世界へ届けるために導かれた〝流れ〟といえよう。



出雲大社 奉納の儀／2018年

「感謝」と書いた出雲大社での奉納書の儀式。「書いた瞬間、ブワーッと風が吹き、龍のような虹が出て、光が差したんです。そこからいろいろなことが決まっていきました」

双雲さんは自身のブログで発達障害のひとつADHD（注意欠陥・多動性障害）の可能性があることを明かしていた。

「すごく楽になりました。特性を伝えておくと、周りも対策ができるだろうし。症状があることに救われたんです。ずっと自分を責めていたので」

年には専門医からADHDの特性があるとの診断を受けている。同年、出雲大社に「感謝」の書を奉納。実は出雲大社は双雲さんの両親の思い出の地でもある。そのことからも、〝いい波の流れ〟を感じたのだとか。

「ただ、出雲大社での奉納の儀の当日、見えない壁のようなものが立ちはだかったんです。いままで毎日ワクワクしていたのに、その日だけ未来にワクワクしなくなってしまって。そんな中、『感謝』と書いた瞬間、風が吹いたんですね。光が差し、心が晴れた。そのとき、僕にとってとても大事な書道教室をたたもうと決めたんです」

そして同時にアメリカ・カリフォルニアへの移住を決意する。書道教室では尊敬し合える生徒に囲まれ、仕事にも恵まれてきた。安定した世界を閉じることは大きな決断であったという。

「生徒さんも僕も大泣きだし、家族もつらかったはず。こんなに悲しい思いをしてまでどうして書道教室を辞め、活動の拠点を移すのだろうとも思いました。だけど出雲大社で感じたのは、大いなる導きのようなものなんです」

アート作品の制作に取り組むように



ネットマーブル
『ブレイドアンドソウル レボリューション』／2019年

新作モバイルMMORPG作品に向けて書いた「武」。書を書く様子などを撮影した映像も公開中。「ゲームから感じられるパワー、東洋風の『武』をいかに引き出すかを意識しました」

「書道は自分の礎。文字がもつ力を信じています」



科楽 サイエンスフェス2019 in大分／2019年

双雲さんの出身校である東京理科大学が開催した「サイエンスフェス2019in大分」に出演。題字も揮毫した。フェスの最後には「楽」を書くパフォーマンスを披露

なったのも、ちょうどこの頃である。
「アートの世界にいけばいくほど、書道のすごさを感じます。書道は自分の礎。書道に対する感謝の気持ちが大きいですね。書道がなければ、僕はなんでもないただの人。書道は僕と社会をつなげてくれる、糊のような存在です。僕は文字がもつ力を信じている。概念を言葉にし、言葉を文字にし、文字をアーティスティックに創作することで、莫大なエネルギーが生まれるんです」

活動の場を世界へ広げることで、伝えていきたい思いとは何か。
「独立した　年、アメリカ同時多発テロが起きました。そのときから僕は世界平和を訴え、人生の一文字でもある『楽』を届けたいと考えるようになったんです。戦争は『楽』と真逆。悲しくて、苦しくて、つらいじゃないですか。アメリカでの活動をきっかけに、みんなが楽に、楽しく生きられる世界をつくっていきたいですね」





武田双雲×令和 フレーム切手セット／2019年

新元号「令和」を記念する切手。双雲さんによる「令和」が載った82円切手（5枚組み）は、2万セット販売された。「素晴らしい機会をいただけたことに感謝しています」



〝チーム一丸〟となって紙に命を込める

日本製紙クレシア

高みに至る使い心地を実現した至高の逸品。究極の原材料と紙づくりの職人技から生まれた最上のティシューは、双雲さんの書とともに世に送り出された。

品質と世界観を表す双雲さんの書

究極の柔らかさを実現したクリネックスティシュー「至高」。双雲さんがしたためた書をパッケージにデザインしている

文=成田美友　写真=杉能信介　text: Miyu Narita　photo: Shinsuke Sugino



今回話をうかがったのは、日本製紙クレシア 参与 営業推進本部長兼 eコマース部長・高津尚子さん（左）と、日本製紙クレシア 営業推進本部 マーケティング部長・坂本陽子さん（右）





<化粧箱>





クリネックスティシュー「至高」

価格：550円（1箱）
種類：白色/ WABI、金色/HARE

パルプを厳選し、独自の割合で配合。薄く仕上げた紙を3枚重ねて、柔らかさ、ふっくら感、安心感を兼ね備えた、高みに至る使い心地を生み出した

クリネックスティシュー至高「羽衣」詰合せ

価格：3300円（3箱）
内容：クリネックスティシュー 至高 羽衣（星）2箱／羽衣（霞）1箱

最高品質のクリネックスティシュー至高シリーズの最上位品。究極に薄く仕上げた紙を4枚重ね、天女の羽衣を思わせる軽やかさと絹のような柔らかさを実現した

「クリネックス」や「スコッティ」などのブランドで知られる日本製紙クレシアは、家庭紙業界のパイオニア。そのフラッグシップ商品がクリネックスティシュー至高シリーズである。

「弊社が日本ではじめてティシューを製造販売して　年で55年。ティシューが生活に浸透したこともあり、業界全体として、価格に見合った品質を実現する傾向にあります。一方で、これまでに弊社が培った技術力、開発力の高さには自負があります。そこで、価格は度外視し、世界一の品質のティシューをつくりたいという想いから生まれたのがクリネックスティシュー至高です」（高津尚子さん）

　高みに至ることを目指して挑戦を続け、生み出したティシューは柔らかくなめらか、しなやかで安心感もある。

「箱に詰めて販売しますので、商品化にあたっては、パッケージのデザインが重要です。上質さを伝えるにはどうしたらいいかを考えた結果、商品名である至高の2文字にすべてを託したいと思い至りました」（坂本陽子さん）

　文字で世界観を表現するとなったとき、高津さんの頭にふと浮かんだのが武田双雲さんだった。

「その少し前に、テレビ番組で見た双雲さんの書の素晴らしさが知らず知らずに頭に残っていたんだと思います。双雲さんにお願いしてみようと直感的に思いつきました」（高津さん）

　高津さんは、当時は無名に近かった双雲さんの起用を社内で説得し、半ば押し掛けるように双雲さんを訪ねた。

「双雲さんは、ティシューを手に取って『これ、すごくいい　』と、子どものような無邪気さで感動してくれました。そして、書いていただいたのがパッケージにある至高の文字です。品質の素晴らしさはもちろんですが、薄墨の文字には、紙の感触まで表現されているように感じました」（高津さん）

　さらなる高みを追求して生まれた「羽衣」のパッケージにある文字も双雲さんが手掛けたほか、彼が毎年6月9日に開催している「世界感謝の日69」に日本製紙クレシアは初年度から協力するなど、両者のつき合いは10年以上にわたる。

「目指す品質の紙ができたとき、一緒に喜んでくれる双雲さんは、もはやプロジェクトチームの一員といっても過言ではありません」（坂本さん）

　最上のティシューを生み出す職人技と、書道家として活躍する双雲さんに通じる伝統的な匠の心。その絆で結ばれた〝チーム〟の高みを目指す挑戦はこれからも続いていく。

書と家電の相反するコラボレーション

日立

武田双雲さんが「家電をアートにする」という斬新な作品を生み出した。「初の取り組み。すごくワクワクしました」と話す双雲さんに、作品への思いをうかがった。







家電を用いた
はじめての作品

黒い部分の素材は墨汁とアクリルを混ぜた塗料。真剣なまなざしで作品を仕上げていく。つくりながら、完成形をイメージするという

文=大森菜央　写真=工藤裕之　text: Nao Ohmori　photo: Hiroyuki Kudoh

年2月4日から「代官山ヒルサイドフォーラム」にて開催される「ピカソ、ごめん。」展（P56）では、ユニークな現代アートも多数展示。そのひとつが、ここにある電子レンジをベースに制作したアートピースだ。

「なぜ家電を作品に？」と問うと、「僕は家電に感謝をしているんです」と満面の笑み。双雲さんは常に「感謝メガネ」をかけ、いつもの当たり前に感謝しながら日々を過ごしているという。

「妻は辛抱するタイプというか、最新の家電を欲しがらないんです。でも僕は妻の家事の負担を減らしたいから、家電をいろいろ買うんですよ。そうしたら妻がすごく喜んでくれて。僕は楽しそうに家事をしてくれる妻の姿を見るのが好きだし、妻のテンションも上がる。ありがたいなぁと思い、どんどん〝家電ラブ〟になっていきました」

今回作品をつくる上で、数ある家電の中から、なぜ電子レンジだったのか。

「ある科学者の方から『電子レンジは、温める際に水分子の集団が共鳴する音楽を流しているようなものなんです』と聞いたとき、感動したんです」

「家電には、いつも感謝しかありません」

電子レンジと向き合った双雲さんはおもむろに筆を執り、なめらかな動作で丁寧に作品を仕上げていく。

「実際に書いてはいませんが、『お陰さま』をテーマに、『陰』という見えない存在に『お』と『さま』を付けて感謝の意を示しています。電子レンジの製作に携わった方々の見えない努力、すなわち『陰』を黒色で、そしてその功績を見出す希望を金色の花マルで表現。さらに全体で『楽』の文字を体現していて、上部の鉄製パーツは未来へのトンネルと一画目を表し、側面には水の象徴となる水差しを配置しました。愛情を込めて押したいスイッチは、赤い愛の種。ドアには『水が楽しい波ありがとう』と書いています」

双雲さんはこの作品を通じて、何を感じてほしいと思ったのだろう。

「『電子レンジってすごい存在じゃないですか？』ということかな。ご飯やおかずなどを温めてくれる上、機能も年々進化し、まるで魔法の道具みたい。それを毎日使えるなんて素晴らしい恵みだよね、ということを伝えたかったんです」



双雲さんの作品の壁紙が無料でダウンロードできます！

日立の家電品サイトでは、マイページ（日立の家電品お客様サポート）に登録（無料）すると、双雲さんが書き下ろした3種類の作品のオリジナル壁紙がダウンロードできる



東京オリンピック 未来のレガシーをつくる

NTT

東京オリンピック・パラリンピック競技大会のゴールドパートナーのNTT。NTTグループ全体を象徴する統一デザインとして、双雲さんが筆を執った。



書の可能性を広げる新たな漢字の誕生!?

「“NTTらしさ”を全面に出しました」と双雲さん。NTTのロゴを彩る止めの書の部分も双雲さんによるもの。五輪カラーもポイントだ





NTT 常務取締役
新ビジネス推進室長 2020担当
栗山浩樹さん

1985年、NTT入社。中期経営戦略推進室担当部長、経営企画部門担当部長、総務部門秘書室担当部長などを経て、2014年より新ビジネス推進室長を務める

次代が希望をつなぐメッセージ

東京　オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京0）をゴールドパートナーとしてサポートしているNTT。　年7月に公開されたスペシャルムービーでは、双雲さんが力強い書道パフォーマンスを披露しており、そこで書かれた「希望」、「光」などの言葉をはじめ、全33競技50種目のスポーツピクトグラムを躍動感あふれる書で表現した。NTTグループは双雲さんが新卒入社した縁深い企業。東京　の開催へ向けてNTT内での陣頭指揮を執る栗山浩樹さんとの対談を通じ、今回のプロジェクトに懸ける思いを探っていく。

――NTTグループ統一デザインの、制作の背景をお聞かせください。

栗山：現在NTTグループでは「One NTT」としてグループ各社の強みを結集し、さらなるグローバルビジネスを見据えたケイパビリティの拡充を推進しています。そんな中で東京0をひとつの契機とし、One NTTの考えを視覚化できるデザインが必要だと考えました。それが今回、双雲さんに書いていただいた書なんですよ。

双雲：NTTのすごさは、辞めてからのほうがより立体的に見えてくるんです。通信インフラを守り、ソフトウエアを開発し、さまざまな情報サービスを提供するNTTグループって、めちゃくちゃカッコいい。いよいよグループ一丸となり、国際化を進めようという大切なときに、僕を抜擢してくれて、飛び上がるくらいうれしかったです。

――なぜ双雲さんに書を依頼することとなったのですか？

栗山：書は日本の文化伝統であり、普遍的な芸術性を有しています。双雲さんの書道家としての実力はもちろん、元NTT社員ですから、我々の思いを理解しかたちにしてくれるはずだと確信し、オファーさせていただきました。加えて私は双雲さんが題字をお書きになったNHK大河ドラマ『天地人』が大好きなんです。天地人の言意は、世界中の人々が日本を訪れる「天の時」、日本から世界へ発信する「地の利」、スポーツを通じた平和の祭典である「人の輪」という東京　そのものだという解釈もできる。

双雲：すごい、完全一致！　NTTグ

「我々の想いが、書によって可視化されました」

—栗山さん



全33競技50種目を書で表現！

スポーツピクトグラムを書くのは、双雲さんにとってはじめての試み。払い、止め、跳ねといった書道ならではの筆遣いが用いられている

ループには恩返しをしたいとずっと思っていたので、僕の夢もかないました。

栗山：双雲さんには当初「希望」と「光」をお願いしていました。今後、光サービスに注力していきたい考えと、我々が目指す新しい世界という意味での「光」。「希望」は次の世代に希望の襷（たすき）をつないでいきたいという思いを込めています。　　年は我々の出発点。未来へレガシーをつくろうと。

双雲：安定した日本の大企業がチャレンジングな取り組みを行うことも希望ですし、その姿勢がやっぱりカッコいい。NTTは紳士的なんですよ。だから書も正統派でいきたいと考えました。しっかり読める、楷書に近いもの。誠実さと気品を感じさせ、挑戦的な迫力を表現しようと思ったんです。

栗山：スポーツピクトグラムも素晴らしい。

双雲：「僕に書かせてください」とお願いしたんです。実際の競技映像やさまざまな資料を参考にしたのですが、とても難しい作業でした。

栗山：新しい漢字の創造ですよね。イラストや絵ではなく書だと思うんです。

双雲：さすがだなぁ。僕は書道家ですから、スポーツピクトグラムを文字として書いたんです。書道家が勝負するのは線質。払いや止めといった書道の筆法を、用いているんですよ。

——双雲さんの書は東京　　　　どのように展開されていくのですか？

栗山：NTTは東京　　　　オリンピック聖火リレープレゼンティングパートナーでもあるので、伴走車両のラッピングやグッズのデザインなど、あらゆるシーンで展開していきます。今回の書を目にした瞬間、「これだ！」と感じました。我々の先進的な挑戦を見事に体現してくれている。まさにNTTグループのシンボルです。

“希望”と“光”が生まれるムービーも公開中！



YouTubeのNTT公式チャンネルでは、双雲さんが登場するスペシャルムービー「一人ひとりの希望をつなぐ」を配信している。ダイナミックに筆を執る迫力満点の映像だ





武田双雲 1 書道の現場

定点観測

双雲さんにとって、書とは心を整えるものだという。その世界観に迫るべく、硯で墨をするところから、書き終えるまで、双雲さんが書をしたためる一連の様子を追う。



「手の力で書くのではなく、身体の流れで書く。書けば書くほど気持ちよくなるのが正解。筆の毛の最後の一本まで気を抜かないことが大切です」

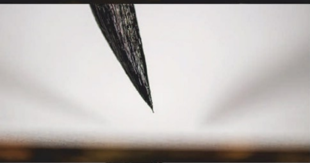


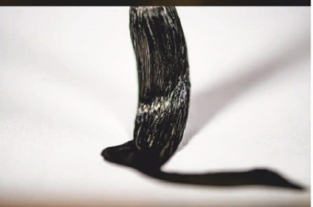




文=成田美友　写真=近藤 篤　text : Miyu Narita　photo : Atsushi Kondo



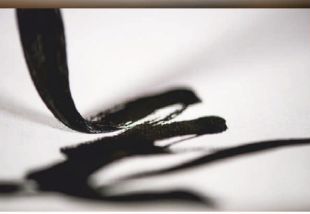



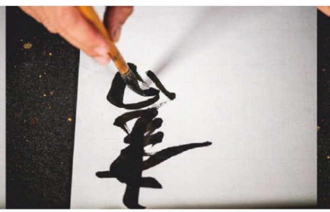



表紙候補の書が完成!!



書道家として独立する際、人生におけるビジョンとして“楽”を掲げた。目指すは、自分が楽で楽しくて、世界中の人にも楽をさせて楽しませせること。「書道家として注目してもらえるようになったのも、“楽”に絞ったからこそだと思う。絞っていなかったら、個性的な字は書いていたかもしれないけど、軸がぶれていたでしょうね。“楽”に絞ったからこそのオンリーワン、僕の個性だと思います」





書道道具

筆、紙、墨など、書に欠かせない道具の数々。日頃、双雲さんが使っている道具の中から、思い入れのあるもの、代表的なものを紹介してもらった。

双雲 筆を選ばず 一期一会の書が感動を生む

「弘法 筆を選ばず」。真に才能ある名人は、どんな道具でも使いこなし、立派に仕事を成し遂げる。このことわざは、双雲さんのためにあるといえるかもしれない。

「もちろん愛着のある道具はあるけれど、筆、紙を含め、こう使い分けようといった基準はありません。本当に気まぐれ。その場にあるもの、ふと手に取ったものを使って書く。書の道具に限らず、僕の人生は探さない人生。何事も一期一会。そのとき出会った人や物に感謝し、大切にする。というより、ここぞというタイミングでこれという人や物に出会う運が強い。僕に天才性があるとしたら、この運の強さでしょうね。とにかく僕の周りは幸せの青い鳥だらけなんです（笑）」



江戸筆職人・亀井正文さんによる
武田双雲 オリジナルモデル

軸際まで墨をつけて使うのが江戸筆（さばき筆）の特徴。亀井さんは、江戸時代以来の伝統の技を守る数少ない江戸筆職人

双雲さんが愛用する書の道具たち

水差し



かつて、おもしろいものを見つけてはコレクションをしていたという水差しは、素材もデザインも多彩

篆刻印



書道家としてはじめての印を彫ってもらった、熊本の篆刻家・辰巳幸男さんのものを愛用している

文鎮



熊本の伝統工芸品である肥後象嵌の文鎮。母であり、書の師である武田双葉さんから贈られたもの

和紙



紙によって墨ののり方は変わる。福井の老舗和紙問屋・杉原商店の杉原吉直さんが取り扱う越前和紙を愛用

硯



硯そのもの、そして墨をする音と感触を楽しむ。写真は熊本の硯職人・中村広和さんによる長崎・対馬の石の硯

墨



三重の伝統工芸品である鈴鹿墨の職人・伊藤亀堂さんとともに開発した双雲墨。独特の滲みを生み出す

筆



太さや長さ、素材もさまざまな筆。オーダーメイドをはじめ、江戸筆職人・亀井正文さんの筆を愛用している



ふたばの森

〈書道教室〉

双雲さんが湘南で主宰する「ふたばの森」書道教室。5歳から中学3年生までの子どもが2割、10代から70代の大人が8割、合わせて約　人が在籍している。

ふたばの森には、会話と笑顔が絶えない。双雲さん自身、教える立場というよりも、一緒に楽しんでいる感覚だという

個性を書で表現するために 生徒と一緒に〝楽〟しむ

書道教室というと、生徒は手本を見ながら黙々と筆を動かし、先生はその様子を見ながら指導する、静かで落ち着いた空間をイメージする人は少なくないだろう。そのイメージをもって双雲さんが主宰する「ふたばの森」書道教室に足を運ぶと、あまりのギャップに驚いてしまう。集中して筆を動かしている人もいれば、話に花を咲かせているグループもある。先生である双雲さん自身、書とは無関係の話で生徒と盛り上がったり、現代アートの作品をつくったりしている。教室全体がとにかく自由、そして笑顔にあふれている。

「基本を覚えたり、字を上手に書いたりすることは手段であって、ふたばの森の目的はそれぞれの個性を書で表現すること。そのためにも、書ってこんなに楽しいんだよということを心から感じてほしいと思っています」

その想いを強く表しているのがワークショップ。生徒は、毎月の課題に取り組む一方で、双雲さんが思いついたさまざまなお題に取り組む。チームに分かれ、一人一画ずつ書いて漢字を完成させる「リレー書道」、自分で漢字をつくる「創作漢字」、書の力を使って、苦手を得意に書き換える「ネガポジ変換」、中にはオリジナルの妖怪を描いたり、干支の文字と絵を組み合わせて年賀状のイラストを描いたりと、文字を書くという、いわゆる書とはかけ離れたものもある。

「『これ楽しい！』と思いついたお題は全部、提案します。提案しているというより、一緒に楽しんでいるだけなんですが（笑）。そもそも、書道教室自体、教えているという感覚はなくて、楽しむ同志を募って、一緒に楽しんでいるだけ。ある意味、リアルクラウドファンディングといってもいいかも」

実は、ふたばの森は来年2月末で閉室となる。だが、双雲さんが育んだ書を楽しむ心は、生徒たちが受け継ぎ、その輪はどんどん広がっていくに違いない。





生徒もマイペースに
自分がやりたいように……

課題に取り組むもよし、おしゃべりを楽しむもよし。それぞれが好きなように書を楽しむ

ふたばの森

実況中継!!

ある月曜日の昼下がり、「ふたばの森」に取材班が潜入！ その雰囲気を実際に体験してきました。

あれ？ 双雲先生はどちら？



もちろん双雲さんの席はあるが、ここは無人状態がデフォルト

いつもご機嫌な先生



授業開始から30分。双雲さんは立ちっぱなしで、生徒と音楽の話に花を咲かせ続けている



先生、最近はまっているアートに夢中に……

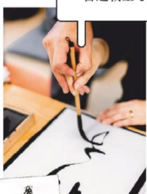


アート作品の出来上がり



生徒の隣に座った双雲さん。おもむろにアート作品の制作を開始

書道教室でワークショップ??



ワークショップのお題は双雲さんの思いつき次第。この日のお題は「自分の名前をカッコよく書く」



「○、△、□で文字を書く」というお題に対する小学生の作品。自由な発想で書を楽しむ様子が伝わる

取材なので、書道風景もお願いします！



門下生はなんと約300人！



上）生徒の筆、墨、紙を使って、課題を書いてみせる双雲さん。下）ふたばの森が所属する「ふたば書道会」で、これまでに授与した雅号の一覧

Q. 双雲さんにとって、書道教室とは?



自分が楽に楽しく、そして人を楽に楽しませることが双雲さんの人生におけるビジョン。書道教室もまたしかり

A. やっぱりこれにつながるんです。この文字は僕自身みたいなものです。



書道家・武田双雲に魅せられて

多くの作品を生み出した双雲さん。現在進行中の「ホテル ザ セレスティン京都祇園」、「エドウイン」「中尊寺」を例に、その魅力を双方の視点から考えていく。

文=山本章子　写真=山北 茜
text: Akiko Yamamoto　photo: Akane Yamakita

ホテル ザ セレスティン京都祇園
統括総支配人 柴田律幸さん

2017年のオープン時から総支配人を務める。京都太秦出身。生粋の京都人にとっても特別な町である祇園で、国内外のゲストにここでしかできないステイ体験を持ち帰ってもらう



〝記憶に残る美人画〟として揮毫！

京都のど真ん中、白黒で表現する日本の美

「ホテル ザ セレスティン京都祇園」に飾られる双雲さんの作品。人と文化が行き交うホテルのための書とは？



ロビーに飾られる「迎」

吹き抜けになっているロビーのどこからでも見上げることができる大きな迎の文字。人が胸の前で手を合わせているかたちにも見える

空間との調和を目指した、〝イケメン〟ばかりの作品を揃えました



滞在そのものが旅の目的となるデスティネーション型ホテル「ザ セレスティンホテルズ」。現在、「銀座」、「東京芝」、「京都祇園」の3館を通してゲストに日本文化の体験企画を提供する「ザ セレスティンホテルズ×日本伝統三道」のプログラムを実施している。「銀座×華道」、「東京芝×茶道」と並び、京都祇園では書道をテーマに、双雲さんの書道作品を展示。ホテルという世界中の人や文化が行き交う空間に、書を飾ることにより、同ホテルならではのおもてなしの心を表した。

　ホテルという空間が大好きで、宿泊した際は必ず「部屋をきれいに掃除してくれてありがとう」と、お礼の手紙を書き残すという双雲さん。今回のコラボレーションも、普段の感謝が連れてきてくれた縁かもしれないと語る。「ホテルファンとしては、ホテルとい

控えめな上品さが店の雰囲気にマッチ

ホテル内のレストラン「八坂圓堂」の入り口に飾られた寿の文字。薄墨に見えるが、よく見るとラメの入った特殊な墨で書かれている





伝統を楽しんでいただく、そのスタートが「書」で切れました

う空間を一緒に演出できることや、ホテルのおもてなしのサポートができることがうれしいです。今回、書く言葉を決めるにあたってセレスティンのイメージを考えたときに、まず『雅』という文字が浮かびました。雅といってもいろいろな雅がありますが、セレスティンは派手なラグジュアリーではなく、上品さや謙虚さのある雅。そこで、憂いに人が寄り添っている『優』の文字をつけた『優雅』という言葉を選びました（P44掲載作品）。書くときはまず、キャラクターを考えます。漫画家が登場人物のキャラクターを考えるように、どんなキャラクターの文字にしようかと考えるのですが、今回はホテルのイメージも踏まえ、立ち居振る舞いの美しい超イケメンのキャラクターを揃えました。どこからでも、振り返ってつい目で追ってしまう、そんな作品になっていると思います」

黒一色で表現する書の世界。世の中は非常にカラフルなため、モノトーンのアートである書は、どこにあっても非常に目立つ。それだけで日本を感じることができ、空間にいい意味での違和感を与えることができる。とはいえ、ホテルのロビーやレストランが「作品の展示スペース」になってしまっては意味がない。空間と作品を調和させ、共鳴振動を起こすことが企業コラボレーションの魅力であり、双雲さんにとってのメリットでもあるという。

「僕はアートを、エネルギー調整機だと思っています。空間のエネルギーや波動を決めるもので、音楽のタイトルのように、空間の世界観を決定づける。ですから単に僕の作品を置くことがコラボレーションではありません。セレスティンという場のために書いた作品はこの空間に飾られるからこそ化学反応が起きる。僕の力だけではなし得ない相乗効果が生まれるというのが、コラボレーションの魅力です」

今回の取り組みはホテル側にとっても、初の試み。総支配人である柴田さんによると、書を飾ることで目には見えない〝おもてなしの心〟をゲストに感じ取ってもらうことができるという。

「ゲストに楽しんでもらうために何ができるかと考え、銀座、東京芝、京都祇園の全館を通して進めている日本伝統三道のプロジェクトですが、京都祇園は双雲さんとのコラボでとてもいいスタートが切れました。海外からのお客さまに対しても、書というアートを見て少しでも日本の伝統を知っていただきたいですし、『なんて書いてあるの？』など、お客さまとのコミュニケーションのきっかけにもなります」

年1月25日には、双雲さんによるロビーでの書き初めデモンストレーションも予定している。双雲さんが「希望を感じさせる言葉」として選んだのは、新年にふさわしい「飛躍」のふた文字。ラテン語で「天空」を意味するセレスティンに、どんな「飛躍」の文字が浮かび上がるのか。両者による共鳴振動が、楽しみだ。

自然の恵みに感謝を込めて

双雲さんの好きな言葉のひとつでもある「山紫水明」はチェックインカウンターに。自然に感謝しつつ、調和することの大切さを表現



ホテル ザ セレスティン京都祇園　武田双雲作品展示

作品展示期間：～ 2020年2月23日（日）
場所：ホテル ザ セレスティン京都祇園
Tel：075-532-3111
住所：京都府京都市東山区八坂通東大路西入る小松町572
www.celestinehotels.jp/kyoto-gion

書き初めデモンストレーションも開催予定！

日時：2020年1月25日（土）予定

ホテルのロビーで双雲さんによる書き初めのデモンストレーションを実施。やり直しの利かない一瞬芸である書の醍醐味を体感できるまたとない機会。宿泊ゲスト以外の見学も可



ものづくりの向こう側を見せる書道

ジーンズの歴史を紡いできたエドウィンのものづくりと書に共通するものとは？　その背景にある流儀を探る。

文＝加藤孝司　写真＝中村彰男、六本木泰彦
text: Takashi Kato photo: Akio Nakamura, Yasuhiko Roppongi

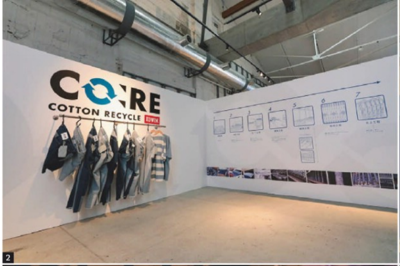


エドウイン

代表取締役社長 林 史郎さん

1961年、兵庫県出身。1983年に伊藤忠商事に入社。繊維経営企画部長などを経て、2015年4月に執行役員ファッションアパレル第一部門長、'18年4月に現職就任









エキシビションでは、来訪者を楽しませるさまざまな仕掛けが！

1）江戸時代の衣服の主要素材「大麻布」を使用したジーンズを展示。2）生産過程で出た端材を使ったCOREシリーズ。3）秋田の工場からミシンを移設。4）小誌とのコラボレーションで実現したインスタレーション

年のブランド設立以来、世界中のデニムフリークを唸らせるジーンズをつくり続けているジーンズメーカー「エドウイン」。

年代に日本ではじめて、独自製法により本格的にジーンズを製造販売したことでも知られるエドウインは、　年にブランド設立60周年を迎える。それに先立って　年8月に天王洲アイルB　C HALLで行われた「THE LIVE　MADE BY EDWIN」は、彼らのものづくりの神髄を余すところなく披露したスペシャルなエキシビションだ。

そんなエドウインと双雲さんの、ものづくりに対する想いが共鳴。エドウイン代表取締役社長の林史郎さんとのトーク及び、ライブでの書によるスペシャルインスタレーションが実現した。エキシビションでは、秋田県にあるエドウインの旗艦工場にある50台のミシンのうち16台を移設。ジーンズづくりの匠である5名の職人が手掛けるスペシャルなジーンズ工場「EDWIN TOKYO FACTORY」が登場。一からデニムを制作する工程を完全に再現した。林さんは「エドウインの流儀にこだわった、ものづくりの向こう側を見てもらいたい」と語った。

会場では会期中、限定　本の「M



“レインボーセルビッチ”を用いたエドウインの初代デニムにも揮毫

今回エキシビジョンで披露した「儀」と別に、あらたに「エドウインの流儀」も揮毫。エドウインの初代デニムに施された、双方にとっての特別な作品ができあがった









双雲さんのライブパフォーマンスも披露！

対話の中で出てきた流儀という言葉。今回書き下ろした「儀」ははじめて書いた文字だとか。「書家はもともとシャーマン。宇宙のエネルギーで書いている。書いた後はお腹がすきます（笑）」

ADE IN TOKYO」ジーンズを製作。トークではエドウインの技術を目の当たりした双雲さんが限定ジーンズをその場でオーダーした逸話も披露された。「はじめて自分で買ったジーンズは、いま思えばエドウインでした。書もそうですが、何十年も一生懸命にやってきたことには誰もかなわない。今回、エドウインのものづくりを目の当たりにして、想像力が追いつかないほどに感動しました。これまでジーンズはどれも全部同じだと思っていましたが、あらためて見て、思わずその場でオーダーしてしまいました」と興奮気味に話した。

双雲さんの書とエドウインのものづくりに共通するのは、作品の背景に宿した「流儀」。大量生産大量消費の時代を経て、これからの時代のものづくりで大切になってくるのは表面的なものではなく、流儀をもったものづくりのスピリットだろう。

時を積み重ねてきたものづくりへの想いと技は「イズム＝流儀」あってこそと意気投合した二人。エドウインのものづくりに自らの書を重ね合わせ、互いに共通するクリエイトの向こう側にあるものを「儀」で表現した双雲さん。書とものづくりが共鳴し、新たな地平を切り開いていく。





想いを可視化し、平和の心を伝えていく

双雲さんが手掛けた世界遺産「平泉」のロゴには平和への深い祈りが込められている。その根底にある思いとは。

文＝大森菜央　写真＝六本木泰彦
text: Nao Ohmori　photo: Yasuhiko Roppongi

平和と幸福が人類の悲願です。
双雲さんのような方が
世界中にいなくてはいけません。

中尊寺
貫首 山田俊和さん

1943年、東京都生まれ。1957年、得度受戒。2006年、天台宗東北大本山中尊寺貫首に就任。天台宗国際平和宗教協力協会などの団体顧問も務める。天台宗海外伝道事業団理事長

牛宝山明王院 最勝寺
住所：東京都江戸川区平井1-25-32
Tel：03-3681-7857

「平泉の文化遺産」の世界遺産登録を目指す平泉観光協会から依頼を受け、双雲さんが「平泉」のロゴを書いたのは　年。一度は落選したものの、'11年に「平泉─仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群─」として世界文化遺産に登録された。構成資産のひとつである中尊寺の貫首、山田俊和さんとの対話を通じ、書にまつわる背景をひも解いていく。

──お二人の出会いはいつですか？

山田：　年ですね。テレビの対談企画ではじめてお会いしました。私は書家の殿村藍田氏に師事をしていたこともあり「お若いし、どんな方なのだろう」と思っていたわけですよ。

双雲：当時は32歳でしたね。殿村藍田先生は書道界の本筋中の本筋ですから。

山田：お会いしたら、ご自身の書に対するお考えをきちんともっていらっしゃる。「こういう方が日本の書道界を背負って立つのだろうな」と感じましたね。昔は「書はこうでなければならない」と型にはまっていたのです。ところが双雲さんのような方が現れた。本来、書道とは人間の感性で書くもの。その人そのものが書なのですよ。

双雲：僕が独立をした'01年に、アメリカ同時多発テロ事件が起きたんです。あまりにもショックな出来事で、そのときから平和を祈る気持ちが強くなっていったんですね。とはいえ僕にできるのは書道しかありません。山田貫首は若造である僕を全力で受け止めてくれました。平泉は浄土思想の考え方に基づき、寺院や庭園によって「この世の浄土」をつくり出そうとしたもの。まさに平和の理想郷なんですよ。

──双雲さんが「平泉」の書に込めた思いをお聞かせください。

双雲：穏やかな雰囲気の中に芯の強さをもつ人々、そして平和を強く祈る心と奥に眠るエネルギーを伝えたいと思いました。隷書の個性を生かし、落ち着きや安らぎを表現しています。

山田：平和とは何かを真摯に考え、柔軟性をおもちであることも感じ取れる。「平泉を世界遺産に」と願うみんなの気持ちがこの書に表れていますし、平泉を象徴しているなと思いますね。

双雲：東日本大震災の後、何か力になりたくて、'11年6月23日に岩手県陸前高田市を訪れたんです。そこで書道の授業をやらせてもらったんですね。地震の話は一切しない、楽しい内容。そうしたら親を亡くしたお子さんも先生方も、みんな笑ってくれたんです。僕自身も励まされましたし、僕の役割は平和な心を届けることなんだなと、あらためて思いました。

山田：人類の悲願は平和と幸福です。しかし人類は平和と幸福を求めて戦いを繰り返してきました。それを食い止めようとつくられたのが平泉なのです。痛みから得たものを忘れず、お互いに助け合える社会になるといいですね。



隷書体で落ち着きを表現！

隷書の個性を出し、流麗な線質で平和への祈りを表現。「隷書に堅いイメージを抱いていたため、拝見して驚きました。書には人間の奥底にある思いが表れる。双雲さんの優しい人柄が伝わります」と書に精通する山田貫首は話す





2021年には、中尊寺で双雲さんの特別展示を予定！

2020年4月に落慶供養法要が行われる中尊寺の修養道場「光勝院」。諸行事をはじめ、坐禅や写経体験、奉納演奏などができる施設で2021年に双雲さんの個展を開催予定

中尊寺

住所：岩手県西磐井郡平泉町平泉衣関202
Tel：0191-46-2211　**受付時間：**3月1日～11月3日／8:30～17:00、11月4日～2月末日／8:30～16:30　※拝観受付は10分前まで　**拝観料：**800円
www.chusonji.or.jp

書道家から現代アーティストに転身するまでの

武田双雲の半生を振り返る

最先端を走り続け、変わらぬ信念をもつ双雲さん。　年には現代アーティスト・Souun♡に転身。そんな彼の半生を代表的な出来事とともに年表にした。

1975 昭和50年

6月9日、熊本県熊本市で誕生

1978 昭和53年

母である書家・武田双葉（そうよう）さんに師事し、**3歳から書の道を歩む**

1997 平成9年

東京理科大学を卒業後、**NTT東日本に入社。**会社のメモ書きなどを書にしたためる

2000 平成12年

NTT東日本を退社。母・武田双葉さんにあらためて書を学ぶ。横浜でストリート書パフォーマンスをはじめる

武田双雲として、25歳で独立

2001 平成13年

1月、神奈川・湘南にて**書道教室「ふたばの森」**を開講

2002 平成14年

双雲辻堂アトリエで初個展「一文字展」を開催

当時から現代アートの面影あり？

2003 平成15年

武田玲子さんと結婚

フジロックフェスティバル、パフォーマンス書道アーティストとして出演

2009 平成21年

NHK大河ドラマ**『天地人』の題字**を揮毫（P20）。江ノ島水族館にて、いのちにありがとうをテーマに個展「しょぼん展」を開催

書籍『武田双雲にダマされろ』（主婦の友社）を刊行

日本製紙クレシアの**クリネックス ティシュー「至高」の題字**を揮毫（P28）

2010 平成22年

映画『山本五十六』、世界文化遺産「平泉」、世界一を奪還した**スパコン「京」**の題字を揮毫

2011 平成23年

TBS舞台の題字「十三人の刺客」を揮毫。成田空港リニューアル記念映像を制作

2012 平成24年

文化庁から文化交流使に任命され、ベトナム〜インドネシアで活動

月桂冠 日本酒「米と水の酒」、映画『舟を編む』記者会見などの題字を揮毫

書籍『ポジティブの教科書』を刊行

2013 平成25年

AKB48シングル「前しか向かねえ」（P25）、成田空港 電飾看板コルトンフイルム「迎」などの題字を揮毫

2014 平成26年

2004 平成16年

ショートショートフィルムフェスティバル日本代表国際部門審査委員を務める。アジア部門のロゴ「魂」を揮毫

成田空港アートギャラリーで個展「人生展」を開催

書籍『「書」を書く愉しみ』（光文社）を刊行

2005 平成17年

長男・智生さんが生まれる

伊勢神宮奉納祭
アマテラスオオミカミに書を奉納

「愛・地球博」メインパビリオン グローバルハウス各ブースの題字を揮毫（P19）

2006 平成18年

ホテルオークラで個展を開催し、5日間で約9　人の来場者数を記録

TBS50周年正月ドラマ**『里見八犬伝』**の題字及び劇中文字を揮毫

北方謙三**『楊令伝』**題字、**『水滸伝』**登場人物名を揮毫（P19）

2007 平成19年

「美空ひばり」新題字及び70周年記念 題字全般を担当（P19）

2008 平成20年

長女・みずきさんが生まれる

6月14日に開通した東京メトロ副都心線、**明治神宮前駅にパブリックアート**として「希望」を揮毫

岩手・平泉町の**「平泉観光大使」**に任命され、世界遺産登録を目指す（P50）

2015 平成27年

次男・大生さんが生まれる

カリフォルニア州オーハイにて個展「陰と陽」を開催

2016 平成28年

ADHD（多動性症候群）を自身の公式ブログ「書の力」で公表。

「ケツメイシ」ツアーロゴ（P24）、鹿児島県志布志市「志布志」ロゴなどの題字を揮毫

「CHIKYU FARM TO TABLE（旧：オーガニックカフェギャラリー地球）」をオープン

2017 平成29年

サントリー マスターズドリームCM、テレビ東京 開局記念日ドラマ『破獄』などの題字を揮毫

2018 平成30年

出雲大社に書「感謝」を奉納し、同日に海外移住を決意

「スーパーダディアワード　」、「スピーカーズアワード　」を受賞

書籍『武田双雲の水で書けるお習字 漢字』（幻冬舎）を刊行

2019 令和1年

第38回ベスト・ファーザー「イエローリボン賞」学術・文化部門を受賞

ネットマーブル『ブレイドアンドソウル レボリューション』コンセプトワード「武」を揮毫

サイエンスフェス　in大分「科楽」の題字を揮毫

書籍『波に乗る力』（日本文芸社）を刊行

現代アーティスト・Souun♡として本格始動！

2020 令和2年

2月5日、**代官山ヒルサイドフォーラムにて「ピカソ、ごめん。」展を開催予定（P56）**

書道家・武田双雲が、現代アーティストへと転身!

Souun♡初となる大規模個展を開催します!

ピカソ、ごめん。双雲 展

書道家として活動して約18年。2018年から書とアートを融合させた作品を生み出し、ついにSouun♡として本格始動。翌年2月に開催する「ピカソ、ごめん。」展では、彼の作品が結集。渋谷PARCO Discover Japan Lab.での先駆け販売と併せて、新生Souun♡に刮目せよ。



「ピカソ、ごめん。」展

会期:2020年2月5日(水)〜16日(日)
会場:ヒルサイドフォーラム
住所:東京都渋谷区猿楽町29-18
代官山ヒルサイドテラスF棟　入場料:なし

現代アーティスト・Souun♡による
イベントも開催します!

日程:2月11日(火・祝)14:00〜、
15日(土)14:00〜

※詳細は武田双雲ウェブサイトにて告知予定
www.souun.net

写真=近藤 篤　photo: Atsushi Kondo



一期一会の日光を求めて

世界遺産登録20周年「日光の社寺」をめぐる

「日光の社寺」がユネスコ世界文化遺産に登録されて20年。修復を経てよりいっそう美しく佇む日光東照宮、日光山 輪王寺、日光二荒山神社をはじめとする神社仏閣の魅力を訪ねる旅へ。

文＝山本章子　写真＝鈴木規仁　地図＝アルト・ディークラフト
text: Akiko Yamamoto　photo: Norihito Suzuki　map: Alto Dcraft

鈴木優香さん

山岳収集家／デザイナー。アウトドアメーカーの商品企画部を経て、山で見た景色をハンカチに仕立ててゆくプロジェクト「MOUNTAIN COLLECTOR」をスタート。登山・写真・テキスタイル・執筆など活動は多岐にわたる　www.mountaincollector.com

社の造形美と、自然との協奏







日光東照宮

江戸幕府初代将軍・徳川家康を神として祀る神社。日本全国にある東照宮の総本社的な存在だ。境内には国宝8棟、重要文化財34棟を含む55棟の建造物が並ぶが、そのほとんどが1636年に3代将軍・家光による「寛永の大造替」で建て替えられたもの。全国各地から集められた名工による繊細な彫刻、漆や金銀が施された豪華絢爛な彩色が特徴で、三猿、眠り猫など見どころも満載

data

住所：栃木県日光市山内2301
Tel：0288-54-0560
受付時間：8:00～17:00（4～10月）、8:00～16:00（11～3月）
拝観料：1300円
www.toshogu.jp

400年以上の歴史をもつ世界遺産・日光東照宮

年12月、世界文化遺産として登録された日光の社寺。20周年を迎えた現在も、国内外から多くの観光客が訪れている。今回、日光の社寺を訪れたのは山岳収集家・デザイナーとして活動する鈴木優香さん。アウトドアブランドのデザイナー勤務を機に、同僚に誘われ登山をスタート。山の美しさに魅了され、カメラを片手に国内外の山に登っているという。

「日光に来るのは大学生のときのゼミ旅行以来。当時は神社仏閣にそれほど興味がなかったのですが、最初に訪れた日光東照宮ではまず五重塔の大きさと美しさに圧倒。陽明門や本殿で、目に留まった細かい装飾や細工をじっくり見ていくと、なかなか前に進まないほどでした」

徳川家康公を祀る日光東照宮は、2代将軍・徳川秀忠によって建設。江戸城（現在の皇居）の鬼門にあたる真北に造営することにより、家康を江戸城の守護神として祀ったとされている。すべての建造物は、風水や陰陽師などさまざまな手法を駆使して導き出した、運気のよい場所に建てられている。

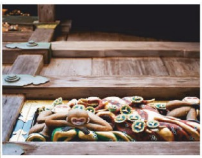
五重塔は高さ36m、極彩色の華麗な塔として知られるが、特筆すべきはその工法。塔を支える心柱は塔の躯体からは独立しており、免震の機能を果たすと考えられる。この工法は、東京スカイツリー®の制振システムにも応用されているといわれている。

表門をくぐり境内を進むと、宮中正門の名を冠した国宝「陽明門」がそびえる。陽明門には「魔除けの逆柱」があることでも知られる。12本ある柱にはグリ紋と呼ばれる紋様が彫られているが、1本だけその紋様が逆さに描かれている。これは、「建物は完成すると同時に崩壊に向かう」という意味合いの諺から、あえて不完全な柱を設け、未完成としたという。現地へ足を運び、逆柱を探してみよう。



建物の全景や遠景よりも、細部の模様や彫刻といったディテールが気になるという鈴木さん。陽明門や周囲の装飾が映り込んだ、貯水スペースの水面をパシャリ







Yuka Suzuki Photo!

上）日光東照宮で有名な三猿の木彫。下からのぞくとどんな顔をしているのかと思い撮影。ちょっと不満げ？　それとも寂しい顔なのか。左上）道標が好きで、山でもよく撮影。横書きの「ENTRANCE」と縦書きの「右側通行」の書体の違いと、おでんのように重ねたかたちがいい感じ。下：きらびやかな門の装飾が映り込んだ水面。水の中には硬貨が投げ込まれていて、玉ボケのようにも見えておもしろかった

日光開山の祖
勝道上人ゆかりの地へ

続いて向かったのは日光東照宮とともに世界文化遺産に登録されている日光山輪王寺と日光二荒山神社。日光山（二荒山、男体山）は　　年に勝道上人によって開山された土地で、空海の来山伝説も残る。江戸時代に日光東照宮が建立されてから東叡山、比叡山と並ぶ天台宗三本山のひとつに数えられ、関東の一大霊場として栄えていたのだ。

日光山輪王寺はお堂や塔、15の支院全体の総称。平安時代に創建された、3体の大仏さま（千手観音、阿弥陀如来、馬頭観音）を祀る三仏堂や、3代将軍・徳川家光公の墓所である大猷院だけでなく、中禅寺湖畔にある中禅寺 立木観音なども含まれる。大猷院は日光東照宮同様に美しい装飾でも知られるが、祖父の家康を凌いではならないという家光の遺言によって、日光東照宮に比べて落ち着いた佇まいになっている。2体の金剛力士像が立つ仁王門や竜宮城を思わせる「皇嘉門」など見どころも多く、入り口から拝殿、本殿まで上がるにつれ、現世から天空に向かうような錯覚を覚える。

日光二荒山神社は日光山信仰のはじまりとなった古社で、縁結びのご利益でも知られる。もともと日光という地名は、男体山の古称である二荒山を音読みにし、日光の文字を当てたといわれている。

2日目は、いろは坂を抜けて中禅寺湖へ足を延ばすことに。中禅寺湖の北岸には、勝道上人が男体山の登頂に成功して頂上に建立した日光二荒山神社 奥宮と、山の中腹にある日光二荒山神社 中宮祠がある。山を御神体として祀る神社で、現在も修行として山に入る信者もいるそう。夏季は一般でも登頂することができるが、今回は中宮祠でお参りすることに。

「日本は山岳信仰の根づいた国なので、山に登ると、ふもとや中腹に神社が多くあることに気づきます。私も山に登るときは神社があれば必ずお参りしますが、次回は男体山にも登ってみたいです」

さらに中禅寺の立木観音へ向かう。ここには、もともと中宮祠に根をはっていた桂の立木に彫られた「十一面千手観世音菩薩」が祀られている。明治時代に台風によって倒され、中禅寺湖に沈んだ観音菩薩だが、折れることなく現在の中禅寺のある浜に流れ着いたのだとか。奇跡的に流れ着いた観音さまをたたえたという。

「神社と仏閣の成り立ちや建造された経緯を知ることで、日光という土地をより深く楽しめました。これだけの規模の建造物が近い距離にあり、1泊2日で見て回れるのも日光の魅力。古くから信仰深い土地ならではのエネルギーがあり、日光が元祖パワースポットであることを感じました」

日光山輪王寺

奈良時代の末に勝道上人によって開かれた日光山。その後、鎌倉時代に発展した神仏習合の考えにより、山岳修行をする山伏が盛んになる。江戸時代に徳川家康公を東照大権現とする日光山として包括されると、天皇家から輪王寺の称号が勅許。神仏分離が発令される明治の時代を経て、お堂や支院の総称である現在の輪王寺が存在する

data

住所：栃木県日光市山内2300
Tel：0288-54-0531
受付時間：8:00 ～ 16:30（4 ～ 10月）、8:00 ～ 15:30（11 ～ 3月）
拝観料：輪王寺券（三仏堂・大猷院）／900円、単独拝観券（三仏堂）／400円、単独拝観券（大猷院券）／550円、単独拝観券（宝物殿・逍遥園）／300円
www.rinnoji.or.jp





日光二荒山神社

勝道上人が開いた日光山信仰のはじまりとなった古社。男体山を御神体とし、古くから下野国の一の宮として敬われる。主祭神には招福や縁結びの神さまである大己貴命（おおなむちのみこと）が祀られており、現在では縁結びの神さまとして人気。同神社の建造物である木造朱塗りの美しい橋「神橋」は、日光の社寺の玄関口になっている

data

住所：栃木県日光市山内2307
Tel：0288-54-0535
受付時間：8:00 ～ 17:00（4 ～ 10月）、9:00 ～ 16:00（11 ～ 3月）
拝観料：200円（本社神苑入園料）
www.futarasan.jp





かつて山ひとつだった日光の原点へ





日光二荒山神社 中宮祠

中禅寺湖の北岸、男体山山麓に鎮座し、頂上にある奥宮創建（784年）の2年後に中禅寺とともに建てられた。もとは中禅寺と神仏習合の存在だったが、明治の神仏分離令によって分かれる。お皿に厄の文字を書いて投げる「カワラケ割り」も行っている。中宮祠と中禅寺はバスですぐの距離にあるので、併せて参拝するのがおすすめ

data

住所：栃木県日光市中宮祠2484
Tel：0288-55-0017
受付時間：8:00 ～ 17:00（4 ～ 10月）、9:00 ～ 16:00（11 ～ 3月）
拝観料：なし
www.futarasan.jp





日光山　中禅寺 立木観音

男体山山頂を極めた後、勝道上人が建立し、修行の場とした寺。二荒山神社から流れ着いた立木観音や、波之利大黒天（秘仏）など、特徴的な仏像が祀られており、坂東十八番札所としても知られる。寺内では、15分ほどで完成する写経や写仏の体験も可能。写経後は、納経参拝した証しとして特別御朱印をいただくことができる

data

住所：栃木県日光市中宮祠2578
Tel：0288-55-0013
受付時間：8:00 ～ 17:00（4 ～ 10月）、～ 16:00（11月、3月）、8:30 ～ 15:30（12月、2月）　拝観料：500円
www.rinnoji.or.jp/temple/chuzenji







Yuka Suzuki Photo!

右）日光山輪王寺の手水舎で撮影。暮れかけた陽に照らされて、クモの巣がキラキラと輝いていた。中央）こちらも同じく日光山輪王寺の手水舎の内部写真。普段はじっくり見ないけれど、少し空いた時間があったので気づけた美しい装飾。左）後厄が終わる年末まで、無事に過ごせますようにという願いを込めて、日光二荒山神社 中宮祠で「厄」と書いたお皿を思い切りたたき割った

自然の遺産に包まれる夜



モダンな洋館の雰囲気をそのままに残す本館。1936年には、地下だった部分を1階にする改築工事を行う。もともと1階にあった元エントランスは、現2階のレストランになっている







1）2面に大きな窓を備えた、見晴らしのいいコーナーツインルーム。2）シングルモルトを200種類以上揃えたバー「デイサイト」。大谷石でつくられた暖炉はフランク・ロイド・ライトの設計とも伝えられる。3）館内の至るところに日光東照宮を意識した意匠が施される

日光金谷ホテル

明治6年創業、日本最古のクラシックリゾートホテル。和洋折衷のクラシカルな建物は、ゲストルーム、レストラン、ロビーなどどこでも当時の趣をそのままに感じられる。館内には、ホテルの歴史を展示した歴史館もある。クリスマスシーズンには生木としては日本一の高さを誇るヒマラヤ杉のクリスマスツリーもお目見え

data

住所：栃木県日光市上鉢石町1300　Tel：0288-54-0001
客室数：71室　料金：2万4200円～
（2名利用1泊2食付1名料金、税・サ込）
カード：AMEX、JCB、VISAなど
IN：15:00　OUT：11:00
www.kanayahotel.co.jp/nkh



明治から変わらぬ味で提供される名物「日光虹鱒のソテー 金谷風」。ワインではなく日本酒を使ったバター醤油味の和風のムニエル

明治創業、日本を代表する外国人向けリゾートホテル

　鈴木さんが旅の宿に選んだのは、「日光の社寺」から徒歩10分の位置にある日光金谷ホテル。創業　年の歴史をもつ老舗で、避暑地として多くの観光客が訪れていた日光に外国人向けの宿泊施設がなかったことから、日光東照宮の楽師だった金谷善一郎氏がゲストハウスを開業したのがはじまりだ。現在のホテルは　年に建てられた本館と、　年築の新館、'35年に建てられた別館などからなり、それらの建物はすべて国の登録有形文化財として登録されている。本館の回転扉を抜けると、贅を尽くした明治の空間にタイムスリップしたような気分に陥る。「日光の山々が窓の外に広がるゲストルームは、広々として開放感があります。壁や障子の柄や家具などインテリアはモダンで品があり、最近のホテルにはない雰囲気でゆったりと過ごすことができました。朝食はブッフェではなくオムレツなどの卵料理を選べる贅沢なスタイルで、パンがとっても美味しかったです」

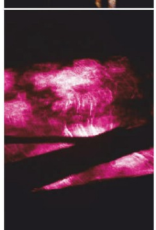
　日光金谷ホテルといえば、金谷ホテルベーカリーが独立するほどパンの美味しさに定評がある。外国人文化を受け入れ、西洋流のマナーやサービスを学ぶことで多くの外国人VIPをもてなしてきたため、当時は日本に馴染みのなかったパンも昭和の頃から製造。ゲストに合わせてパンの種類や焼き方を変えるなど本格的な味とサービスが評判を呼ぶようになったという。

　ホテル内のショップには朝から焼きたてパンが並び、宿泊客以外でも購入が可能。大正時代のレシピを再現した「百年カレー」をパイで包んだ「百年カレーパイ」は絶品だ。

　賑やかな日光の街中にありながら、神社仏閣と歩んできたからこその厳かな雰囲気を味わうことができる日光金谷ホテル。その唯一無二の趣を五感で堪能したい。



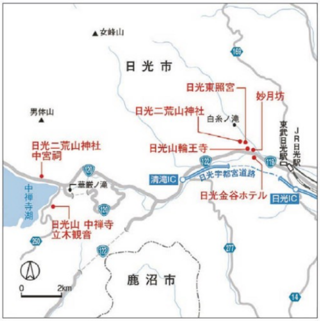




Yuka Suzuki Photo!

左上）日光金谷ホテルのルームキー。最近は多くのホテルがカードキーを採用しているが、老舗ホテルのレトロでかわいらしいデザインのルームキーは魅力的。被写体としても好きなアイテム。右上）車窓から見えた赤薙山。山が見えたなら、撮らずにはいられない。この日は天気もよく、稜線もくっきり見えた。右下）金谷ホテルの館内にて撮影。ワインレッドのじゅうたんに、朝の光が差し込んできれい

「日光の社寺」世界遺産登録20周年記念イベントも開催！





20周年を記念した特別御朱印が登場

日光東照宮、日光山輪王寺、日光二荒山神社では、「日光の社寺」が世界文化遺産登録から20周年を迎えたことを記念し、2020年3月31日まで、世界遺産登録20周年記念御朱印がいただける。日光山輪王寺大猷院では、同期間に、開創1250年を記念して初開帳された御本尊の特別拝観も実施

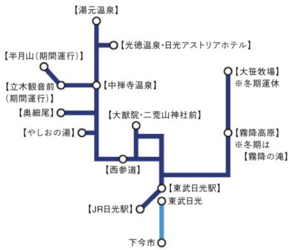
行きは特急リバティで乗り換えなしで目的地へ!

行きは特急リバティでスムーズな移動を。帰りは特急スペーシアの個室（平日3150円、土・日曜、祝日3770円／1室）でゆったりと帰宅





日光旅で利用したいフリーパスの利用可能区間



東武鉄道フリー区間

東武バス日光フリー区間

【　】はバス停

※関東自動車、旅館巡回ダイヤルバス、日光市営バスの路線バスには乗車できません。

data

まるごと日光 東武フリーパス（12〜3月利用の場合）

有効期間：4日間
発売額：浅草から大人4220円、春日部から大人4010円
発売箇所：東武線各駅（東上線、押上、渡瀬、治良門橋、相老、赤城、野州大塚、板荷、下今市〜東武日光間・新藤原の各駅及び駅員無配置駅は除く。一部の駅では発売していない時間帯あり）、浅草駅旅行センター、東武トップツアーズ、JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行の各支店
問：東武鉄道お客さまセンター　Tel：03-5962-0102
営業時間：8:30 〜 19:00（年中無休ただし年末年始は除く）

「ザ・リッツ・カールトン日光」開業！栃木のうつわと料理の共演が実現

data

妙月坊

住所：栃木県日光市山内2381
Tel：0288-25-5025
営業時間：11:00 〜 19:30（L.O.）
定休日：水曜

ザ・リッツ・カールトン日光

住所：栃木県日光市中宮祠2482
客室数：94室
www.ritzcarlton.com/en/hotels/japan/nikko
※2020年5月22日開業予定





右）益子の陶芸家・松崎健さんとザ・リッツ・カールトン日光 総料理長の早坂心吾さんが対談。左）松崎さんとGENDOのメンバー（伊藤剛俊さん、萩原芳典さん、西山奈津さん、竹下鹿丸さん、宮田竜司さん）が早坂さんとともにつくり上げている試作品の一部

対談の様子はウェブで！

栃木に根ざした料理とうつわが互いの魅力を高め合う

2020年5月22日開業予定の「ザ・リッツ・カールトン日光」の和食のレストランでは、栃木の食材を使った料理を益子焼のうつわでも楽しめる。益子焼のうつわには、陶芸家・松崎健さんが若手育成のために立ち上げた新ブランド「GENDO」のものも。土地に根ざし、自分の世界を表現する作家と料理人の情熱をかたちにした、栃木ならではの料理とうつわの共演がはじまる。



Discover Japan デジタルコンテンツ続々発信中！

http://discoverjapan-web.com

いま知りたい日本のコトを発信！

Discover Japan WEB

この冬おすすめの名宿など旬の情報を、ウェブサイトにて公開中。いますぐブックマークして、日常的にDiscover Japanを楽しもう。

http://discoverjapan-web.com



最新記事をチェック！

最新号やバックナンバーが買える！

Discover Japan公式オンラインショップ

Discover Japanが独自運営するショッピングサイト。こちらでご購入いただいた方には、送料無料（国内）にてお届けします。

https://discoverjapanmag.myshopify.com



増刊・カレンダーも購入できる！

リアルタイムで情報をキャッチ！

SNS

ウェブ記事やイベント情報など、Discover Japanの最新情報をリアルタイムで発信。Instagramでは誌面と連動したフォトコンテストも毎月開催。

Facebook @DiscoverJapan

Twitter @Discover_Japan

Instagram @discoverjapan

今すぐフォローを！



嬉野、三拍子紀行。

「嬉野茶時」に端を発し、斬新な観光のスタイルを生み出した嬉野。その根底にあるのが温泉・茶・肥前吉田焼だ。三位一体の魅力に触れる旅へ。

文＝諫山 力　写真＝林 和也、大塚紘雅
text: Tsutomu Isayama
photo: Kazuya Hayashi, Hiromasa Otsuka

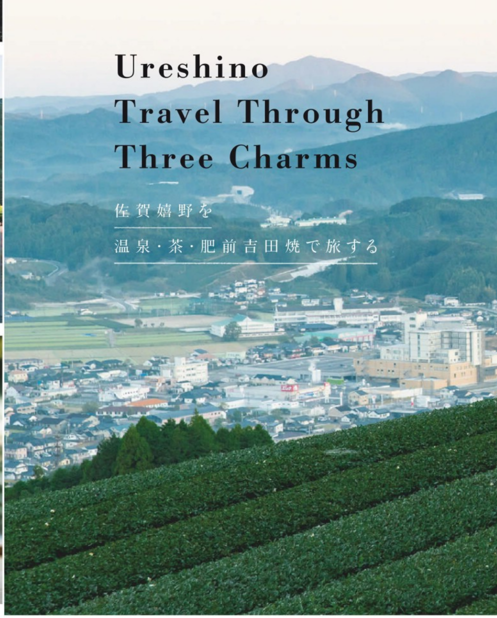
嬉野という地名を聞き、何を思い浮かべるだろう。多くの人は温泉と言うかもしれない。　年につくられた『肥前国風土記』には「東の辺に湯の泉ありて能く、人の病を癒す」と記され、江戸期には長崎街道の宿場町として栄えた。街には　（天保元）年に創業した老舗旅館・大村屋（P68）が現存し、　（文政9）年には、医師・博物学者のシーボルトが訪れた記録も残っている。嬉野はそんな長い歴史を刻む、九州有数の湯処だ。

さらにその間、重要なふたつの産業を得る。明の陶工がもたらした焼物文化と茶の栽培だ。焼物文化は、「肥前吉田焼」、茶の栽培は「嬉野茶」として現在に受け継がれ、温泉と合わせて嬉野が誇る三大産業を形成している。茶の産地









Ureshino Travel Through Three Charms

佐賀嬉野を 温泉・茶・肥前吉田焼で旅する

1）1300年以上前から嬉野に湧くといわれる温泉。源泉温度は85℃程度と高く、湧出量も豊富。2）1600年代に嬉野茶の祖といわれる吉村新兵衛が、茶の栽培を奨励した当時の1本が残ったと伝わる「大茶樹」。嬉野の茶栽培の歴史を伝える。3）肥前吉田焼を代表する青地に白の水玉模様。最近ではドット柄にデザイン性をプラスしたモダンなうつわも生まれている

天茶台　by副島園

住所：佐賀県嬉野市嬉野町大字下野甲427
料金：1名1万円（お茶、お菓子付、完全予約制、税別）
※1名利用の場合2万円（税別）
時間：予約の際に問い合わせ
予約方法：ウェブページより受付（P71）

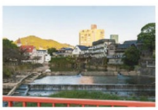
標高約200mの高台に位置し、嬉野市街を見下ろす「天茶台」。「嬉野茶時」の茶農家のリーダーを務める副島仁さんの茶畑にある

であるため、焼物の文化が広まったという見方もできるだろう。

ただ、長い間、嬉野はその3つの長所を、単に〝足し算〟しかしてこなかった。〝掛け算〟をすれば相乗効果は何倍にもなるのではないか。そんな考えを抱き、実行に移した人々がいる。それが「嬉野茶時（ちゃどき）」のメンバーだ。

年に開催した「うれしの晩夏」を皮切りに、毎年、新茶会を催すなど新たな挑戦を続けている。前述したように、同プロジェクトは温泉・茶・肥前吉田焼のすべてを融合させ、「ティーツーリズム」という新しい観光のかたちを生み出した。その知名度は広がりを見せ、いま全国的に関心が高まっている。今回はそんな嬉野を〝三拍子〟で楽しむコツを紹介していこう。

▸▸ 楽しみ方は次ページをチェック

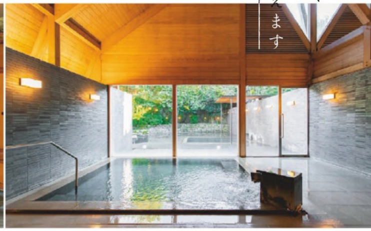


嬉野川に沿いに宿が建つ嬉野温泉街。とんがり屋根のシーボルトの湯が象徴

Point 1

▸▸［ 温泉 ］





常に新しい風を吹かせる名宿

嬉野温泉 和多屋別荘

嬉野を代表する湯宿。男女別浴場は全4つ、食事処は湯どうふと佐賀牛が味わえる「佐賀牛賓館」をはじめ2カ所と、2万坪の敷地でゆったり滞在できる。「なまずの寝床」（P71）発祥の宿で、館内でランタンアートも楽しめる。

DATA｜住所：佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙738　Tel：0954-42-0210　料金：2名1室1泊2食付1万5000円～（サ込・税別）　泉質：天然温泉、ナトリウム炭酸水素塩、塩化物泉（低張性弱アルカリ性高温泉）　泉温：約80℃　加温：なし　加水：あり　かけ流し：あり　日帰り：可　貸し切り風呂：あり　www.wataya.co.jp

右）浴場「湯殿心晶」。中）露天風呂付き客室「笹／ささ」。月見台など趣向を凝らしたつくり。左）牛しゃぶ湯どうふ。佐賀牛と嬉野名物の温泉湯どうふを楽しめる





江戸期から続く嬉野一の老舗宿

大村屋

1830年創業とされている老舗旅館。現在は“音楽と本”をテーマに上質な空間を創出しており、ラウンジ（P71）は宿泊者以外も利用できる。旬を重視した会席料理も魅力だ。伝統とモダンを一緒に楽しんでほしい。

DATA｜住所：佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙848　Tel：0954-43-1234　料金：2名1室1泊2食付1万3000円～（サ込・税別）　泉質：ナトリウム・炭酸水素塩・塩化物泉（低張性弱アルカリ性高温泉）　泉温：約92.5℃　加温：なし　加水：なし　かけ流し：あり　日帰り：可　貸し切り風呂：あり　www.oomuraya.co.jp

右）貸切湯のひとつ。檜づくりの樽風呂で、窓の外に嬉野川を望む。中）2017年にリニューアルした半露天風呂付き和洋室「芙蓉」。左）茶しゃぶなど全10皿の会席




DATA｜**大正屋**／住所：佐賀県嬉野市嬉野町下宿乙2276-1　Tel：0954-42-1170　料金：2名1室1泊2食付1万9000円～（サ込・税別）　www.taishoya.com　**椎葉山荘**／住所：佐賀県嬉野市嬉野町岩屋川内字椎葉　Tel：0954-42-3600　料金：2名1室1泊2食付2万3000円～（サ込・税別）　www.shiibasanso.com

泉質：ナトリウム―炭酸水素塩・塩化物泉（低張性弱アルカリ性高温泉）　泉温：90℃以上　加温：なし　加水：あり　かけ流し：なし　日帰り：可　貸し切り風呂：姉妹店「清流」のみあり

系列宿の湯めぐりを楽しもう

大正屋／椎葉山荘

いずれかに宿泊すれば、専用のバスで湯めぐりができる。「椎葉山荘」の「しいばの湯」など、日帰りで利用できる大浴場もあり、カジュアルに嬉野の名湯を楽しむのもいい。自然を感じる浴場は、夜の静寂がおすすめ。

右）「椎葉山荘」の露天風呂「しいばの湯」。温泉街からは少し離れた渓流沿いにあり、せせらぎと野鳥のさえずりだけが響き渡る。左）1925年創業の嬉野の老舗旅館のひとつ「大正屋」の大浴場「滝の湯」

Point 2

▸▸［ 茶 ］



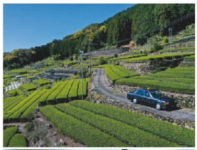


茶農家の想いも一緒に味わう

茶話（さわ）

2017年の「うれしの晩夏」で初開催し、2018年から一般客に向けて毎月開催。基本は3種の茶、2つの菓子、"三茶二菓"を楽しむスタイルで、茶師との会話も楽しい。茶業が繁忙期の4～6月は休止。

DATA｜料金：1名5000円（お茶、お菓子付、完全予約制、税別） 時間：11:00～／14:00～ ※各60分程度 予約方法：ウェブページより受付（P71）





ティーツーリズムに特化した移動手段

茶輪（ちゃりん）／歩茶（ほちゃ）

タクシーで茶畑をめぐる「茶輪by佐賀タクシー」は寒い時期や荷物が多いときも安心。「歩茶」は散策しながら飲めるテイクアウト用の嬉野茶。嬉野は茶を切り口に移動も楽しめる。

DATA｜**茶輪 by佐賀タクシー**／問：佐賀タクシー Tel：0952-24-4311 www.sagataxi.co.jp **歩茶**／料金：300円 ※肥前吉田焼窯元会館にて購入可

Point 3

▸▸［ 肥前吉田焼 ］



窯元めぐりの前に立ち寄ろう

肥前吉田焼窯元会館

協同組合に加盟する8社のうつわが集まるセレクトショップ。各窯元の工房の一角にあるショップ「えくぼとほくろ」の拠点で、ティースタンドも併設している。絵付けや手びねりなど体験メニューも充実。

DATA｜住所：佐賀県嬉野市嬉野町大字吉田丁4525-1 Tel：0954-43-9411 開館時間：8:30～16:30 ※体験受付時間は～15:00 休館日：年末年始 入館料：無料 ※体験は別料金 www.yoshidayaki.jp



掘り出しものが見つかるかも？

えくぼとほくろ

小さなへこみ（えくぼ）や点（ほくろ）がある、いわゆるB級品の販売を行っていることが名の由来。6窯元がそれぞれ営むショップで、工房に併設しているため、うつわづくりの様子も見学できる。

DATA｜予約方法：電話またはウェブページ 問：肥前吉田焼窯元会館 Tel：0954-43-9411 www.yoshidayaki.jp

嬉野は茶の名産地ではあるが、嬉野茶は全国シェアで見ると生産量はわずか1・5％。それでも、九州を代表する茶処として名を馳せているのは、純粋に味わいのクオリティの高さあってのことだろう。そんな嬉野では現在、「ティーツーリズム」の一環として、茶を知り、楽しむ時間を観光資源ととらえた「茶話（さわ）」「茶輪（ちゃりん）」といった取り組みも行っている。嬉野を訪れたら、特別なシーンで茶を楽しめる、これらのコンテンツをぜひ体験してほしい。

肥前吉田焼の里の雰囲気もいい。「肥前吉田焼窯元会館」、6つの窯元に併設する直売店「えくぼとほくろ」が徒歩圏内に点在し、買い物を楽しみながら散策するのにピッタリ。窯元会館に併設するティースタンドで買った茶を片手に、「歩茶（ほちゃ）」しよう。吉田地区はトレッキングの九州オルレのスタート地点でもあるので、歩ける範囲で挑戦してみるのもおすすめだ。

締めくくりは温泉。そのとろけるようになめらかな質感が一番の特徴だ。ナトリウムを多く含む重曹泉のため、角質化した皮膚をなめらかにしてくれ、泉質のよさは温泉天国の九州でも随一。「日本三大美肌の湯」のひとつに数えられているのも納得である。

年には新幹線も開通予定。絶品の茶を楽しみ、窯元をめぐり、温泉に浸る。そんな嬉野ならではの観光を満喫してほしい。

Let's Go

嬉野は“夜の観光”も楽しい



Snack-1

スナック 女喜里(めきり)

以前、医療関係の仕事をしていたママが営むだけに女性客も多い。特に時間は定めていないが、1セット女性2000円、男性3000円が基本。ボトルキープなどで料金は変わるので、「3000円で飲ませて」でOK。

DATA | 住所：佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙1077-2　Tel：0954-43-3920　営業時間：20:00～翌1:00　定休日：日曜

「ティーツーリズム」のような最先端の観光がある一方で、嬉野には昔ながらの雰囲気が漂う場所もたくさんある。夜の温泉街を数十メートル歩けば気づくはずだ。サインが灯る店の多くがスナックだということに。もちろん、外から中の様子をうかがい知ることはできないし、店前に明朗会計をうたう看板はない。知らない土地で、情報ゼロとあっては、なかなか入りづらい。ただ、「嬉野の神髄はスナックにこそある」と酒好きは言う。そう、嬉野はナイトタイムエコノミーも楽しい街なのだ。

　常連客が日常的に通うスナック

Delivery

大信

温泉街からやや外れた場所にある焼肉店。スナックの出前のお馴染みの店で、名物はカルビ雑炊（900円）。地元の呑んべえたちのソウルフードだ。

DATA | 住所：佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙2207　Tel：0954-43-3030　営業時間：17:30～翌0:30　定休日：不定休

ソウルフードのカルビ雑炊をデリバリー







Snack-2

スナック シュール

地元民が“カオス”、“エンターテイナー”と語るように、ママのキャラクターが強烈で、酔っ払っているのがデフォルト。チャージ1000円で、瓶ビール800円など単品注文が基本。たらふく飲むならキープを。

DATA｜住所：佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙612　Tel：0954-42-4717　営業時間：20:00～翌2:00　定休日：火曜



大村屋1階にある「湯けむりラウンジ」。JBLのスピーカー、マッキントッシュのアンプなどヴィンテージオーディオが揃う。宿泊者外利用は15:00～24:00。ビール700円～。

には、ローカルの雰囲気が色濃く漂い、それを体験することもまた、観光の醍醐味。そして、何より嬉野のスナックは懐が深い。小腹がすいたら出前を注文できるし、人数分の取り皿を出してくれたりもする（優しい！）。「今夜は静かに過ごしたい」なら、大村屋のラウンジを利用するのもいい。ヴィンテージオーディオから流れる心地よいサウンドが、贅沢な一夜を演出してくれる。

偶然隣に座った常連客と意気投合して、はしご酒をしたり、再訪を誓ったり。何気ない会話、交流、予想外の出会い……。リアルなローカルに触れた旅の思い出はずっと消えない。

Check

アクセス

飛行機：福岡空港から車で約1時間
高速道路利用）、
佐賀空港から車で約1時間、
長崎空港から車で約30分
（高速道路利用）

問い合わせ

［観光全般について］
嬉野温泉観光協会（Tel：0954-43-0137）
［宿泊について］
嬉野温泉旅館組合（Tel：0954-42-0240）
［ティーツーリズムについて］
www.tea-tourism.com

新幹線が開通します！

2022年度中の開通を目指している
九州新幹線西九州ルート。
それに合わせて嬉野市内にも
「嬉野温泉（仮称）駅」が新たに
開業予定

冬ならではの楽しみも待ってます！



うれしのあったかまつり～宵の美術館～

ランタン作家と市民が共同制作したアート作品で彩られる、日本最大規模のランタン空間作品「なまずの寝床」は必見。

DATA｜会期：2020年1月25日（土）～2月11日（火・祝）　会場：嬉野市体育館　時間：17:00～22:00（最終受付21:30）　土・日曜、祝日15:00～　入場料：一般500円、高中小生100円
www.yoinobijutsukan.com



東一
雫搾り大吟醸



五町田酒造
代表取締役社長
瀬頭一平さん

嬉野温泉酒蔵まつり

隣市で行われる鹿島酒蔵ツーリズム®との同時開催イベント。両市合わせて9つの蔵めぐりが楽しめる。中でも「東一」が全国的に人気の五町田酒造はぜひ。

DATA｜会期：2020年3月28日（土）、29日（日）時間：10:00～17:00　問：嬉野市観光商工課0954-42-3310

HOKUSAI×

次に行きたいのはテーマのある旅

北斎で旅する新ニッポンツーリズム

江戸時代、庶民の間で名所観光が大流行していた。葛飾北斎の代表作『冨嶽三十六景』は、そんなブームの火つけ役だった？　北斎作品の魅力に迫る。

文＝編集部　text: Discover Japan

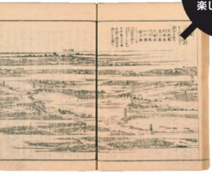


栃木県日光の「霧降ノ滝」を描いた本作。岩肌をなめる触手のように流れ落ちる滝の水は、おどろおどろしいほどの迫力。『諸国瀧廻り』（1833年頃）は多様な水の表現も見どころ

葛飾北斎「諸国瀧廻り 下野黒髪山きりふりの滝」島根県立美術館蔵

絶景かな〜!

江戸時代から
バーチャル旅を
楽しんでいた！



江戸時代、本は高価で貸本屋で借りて読むものだった。旅へのハードルも高かったため臥遊の楽しみで「諦めた妻が見ている　名所図会」という川柳も残る

『江戸名所図会 7巻』
国立国会図書館





日光三名瀑のひとつ
霧降ノ滝

高さ75mのこの滝は、上下二段に分かれるのが特徴。下段の滝で、岩に当たった水が飛び散り、霧が降っているかのように見えることからその名がつけられた。華厳ノ滝、裏見ノ滝とともに日光三名瀑のひとつに数えられる

NIKKO

「よい景色を見たい」

これはいまも昔も変わらない、人が旅に出る理由のひとつだ。現代人がガイドブックで下調べをし、SNSのタイムラインに流れる絶景写真で期待を高めるように、江戸時代の後期、まだ旅へのハードルが高かった頃の人々は、「名所絵図」という名所案内地図を眺めては、彼の地へ想いを馳せていた。

「庶民が経済的に成長した江戸時代末期、人々の間に観光ブームが訪れます。そんな時流から、浮世絵に『風景画』というジャンルを確立したのが葛飾北斎でした」

そう話すのは、浮世絵研究の権威、国立歴史民俗博物館の大久保純一さんだ。

北斎といえば日本のさまざまな場所から見える富士山を描いた連作『冨嶽三十六景』が有名だ。いまや世界的に浮世絵の代名詞となるこの作品は、当時大変〝売れた〟という。正確な数こそ不明だが、エポックメイキングな出来事だった。それまで美人画や役者絵が主流だった浮世絵に、この北斎のヒット以降、歌川広重の『東海道五十三次』などの風景画が多く描かれるようになっていく。

「当時も『写真（しょううつし）』といって写実性はセールスポイントでした。北斎は広重に比べ、リアリティという観点ではある意味劣るのですが、今日の造形的評価を見れば圧倒的です。あえて中景を描かず、手前・奥の近景と遠景だけで遠近感を表現する独自の手法は、西洋で新鮮に映ったはずです」

構図の大胆さやデフォルメの妙など、北斎ならではの視点で描かれた浮世絵は、現実に忠実でない分むしろ、どんな風景なのか行ってみて見たくなる。

年に出版された『旅行用心集』に、「よい風景を見つけたらスケッチしたくなるけれど、色を塗るのは家に帰ってからにしなさい」という一説がある。

旅先で思わず写真を撮るように、よい風景を手中に残したい気持ちは江戸時代の人々も同じ。今回の旅は北斎の絵をきっかけに、まだ見ぬ日本の美景を探してみては。





HAKONE

箱根の山々と富士山を
一望できる芦ノ湖

箱根は江戸時代から人気の湯治場所。『冨嶽三十六景』（1831年頃）に描かれる芦ノ湖から箱根神社越しに富士山を望む元箱根港近くは、いまもビュースポット

葛飾北斎『冨嶽三十六景　相州箱根湖水』
The Metropolitan Museum of Art





IWAKUNI

国内屈指の木造橋
錦帯橋

山口県岩国市にある日本三名橋のひとつ「錦帯橋」は、伝統工法による木組みが見どころ。本作『諸国名橋奇覧』（1834年頃）は北斎風景画の最後の作品

葛飾北斎『諸国名橋奇覧　すほうの国きんたいはし』
島根県立美術館蔵



教えてくれた人
大久保純一さん

1959年、徳島県生まれ。国立歴史民俗博物館研究部教授。専門は浮世絵、江戸後期の風景表現。著書に『カラー版 浮世絵』（岩波書店）や『広重と浮世絵風景画』（東京大学出版会）など

INFORMATION

『冨嶽三十六景』を成田国際空港で体感！



成田国際空港（国際線到着口）では『冨嶽三十六景』をテーマにした映像インスタレーション『360°Around Mt. Fuji ～NAKED meets 北斎～』を展示。
※国際線制限区域内の展示のため到着機利用者のみ閲覧可能

約400年前に誕生した
ニッポンの磁器を求めて

有田焼ホッピング

日本を代表する伝統工芸・有田焼。佐賀県有田町には、産地ならではの多彩な楽しみ方ができる場所が充実。うつわ好きならぜひ訪れたい町だ。

文=吉永美代　写真=大塚紘雅
text: Miyo Yoshinaga　photo: Hiromasa Otsuka

うつわラバー必見！ 五感で楽しむ有田焼の旅

白くなめらかな地肌をもつ有田焼。白磁や青磁、染付など多彩な表現があり、柿右衛門様式や金襴手様式に代表される華麗な色絵作品は古くから人気を集めてきた。その歴史は17世紀初頭、朝鮮人陶工の李参平が佐賀県有田町の泉山で原料の陶石を発見し、日本初の磁器を制作したことにはじまる。泉山磁石場はいまも大切に守られ、採掘跡には言葉を失うほどの荘厳さが漂う。町を歩けば、国の保存地区に選ばれた風情豊かな通りや点在する窯元の煙突などにも焼物の里らしさが感じられる。「今村製陶 町屋」を筆頭に、店での買い物を楽しんだり、スタイリッシュな空間での滞在と有田焼で供されるフレンチが新しい「arita huis」や金継ぎ体験ができる「庵久」など、有田焼に触れられるスポットも充実。うつわ好きの心を躍らせる旅がここにある。

【買う】

優しい白が特徴の「JICON 磁今」を

今村製陶 町屋

端正な造形と温かな生成り色が特徴の「JICON 磁今」のうつわ。創業約350年の「陶悦窯」13代の次男・今村肇さんがデザイナーの大治将典さんを迎えたブランドだ。全製品が揃う直営店では今村さんセレクトのうつわや大治さんデザインの日用品も販売。

DATA

住所：佐賀県西松浦郡有田町岩谷川内2-4-13
Tel：0955-43-4363
営業時間：11:00 ～ 17:00
定休日：火曜、不定休
www.jicon.jp



築90年の家屋を改装。川口武亮さんら有田の作家の作品も扱う。2階ギャラリーでは企画展も年数回開催



1



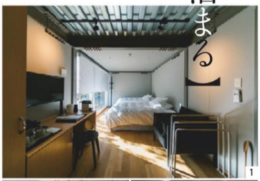
2



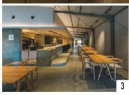
3

磁器の素材感を生かした優しい白が魅力。1）新作の「花瓶 大 しのぎ楕円」（7700円）。2）「マグカップ小」（2530円）は150mℓ入る。3）「八角輪花 中深皿」（2640円）は1人分のおかずにも

【泊まる】



1



3



2

1）フラットツインタイプの客室。メゾネットタイプもある。2）全国からセレクトした生活道具も販売。3）オープンキッチンのレストラン。コースは3スタイルの有田焼が選べる



佐賀和牛など地元食材の豊かさも楽しんで

シェフ
橋口 聖さん

モダンな空間が美しいオーベルジュ

arita huis（アリタハウス）

2018年に開業したオーベルジュ。館内デザインは『2016/arita』を手掛けた柳原照弘さんが監修。11の客室があり、レストランでは佐賀近隣の食材を使うモダンフレンチを有田焼で提供。1泊朝食付き1万円～

DATA

住所：佐賀県西松浦郡有田町赤坂丙2351-169 アリタセラ内
Tel：0955-25-8018
（受付9:00 ～ 22:00）
営業時間：ランチ11:30 ～ 15:00（L.O.14:30）
ディナー 18:00 ～ 22:00
（アラカルトL.O.21:00）
定休日：なし
http://aritahuis.com

【体験する】



2



1

1）1900年頃に建築された趣ある町家。鶴田さんの作品や骨董のギャラリーもある。2）化粧筆を使って継いだうつわに金粉をまく作業。薄く、まんべんなくまくのがコツ

有田で“金継ぎ”ができるのはここだけ

庵久（いおりひさし）

唐津焼作家・鶴田純久さんの指導で金継ぎや蒔絵などの体験ができる工房。金継ぎは手に入りやすいエポキシ樹脂を使用。用意されたうつわで手順を学べる3時間9000円の体験のほか、愛用のうつわを持ち込んで金継ぎする2日間コースも。いずれもサイトから要予約

DATA

住所：佐賀県西松浦郡有田町泉山1-28-23　Tel：0955-43-2764
営業時間：予約時のみ　定休日：不定休　https://hisasih.com

世界も注目！
あたらしい仕事を
つくるひと

カオスに潜む欲望をかたちに

自由な組織形態を含む、クリエイティブスタジオKonelの欲望に迫る。

文＝田村十七男　写真＝中村彰男
text: Tonao Tamura　photo: Akio Nakamura





Konel

出村光世
荻野靖洋

Konel

右がプロデューサーの出村光世さん。左がテクニカルディレクターの荻野靖洋さん。大学時代の音楽仲間であるクリエイティブディレクターの宮田大さんと3人で2011年にKonelを創業。「欲望を形に。／Shaping desire.」をキーメッセージに、アート、広告、プロダクト開発など特定の領域にとらわれない制作活動に取り組む。東京と金沢、そしてベトナムの大学内にも拠点を構える多国籍クリエイティブスタジオ



「二足の草鞋時代は広告代理店が120でKonelが100」

Konel Office

東京を拠点とする「日本橋地下実験場」は、プロトタイピングに特化した実験設備を豊富に備える



Amazon Bar

Amazonの酒類事業の認知度向上を目的に来店者のＱ＆Ａに応じて味覚分析を行い、いまの気分にあう酒をレコメンドする「メニューのないBar」を東急エージェンシーと共同でプロデュース。期間限定で銀座にオープン

「右脳フル回転の仕事がしたかった」

「SHAPING DESIRE
欲望を形に。」

これがデザインとテクノロジーの融合に力を注ぐKonelのキーメッセージだ。創業から10年未満の若い集団だが、領域にとらわれない話題作を発表し続けている。そしてまたKonelの特徴としてよく紹介されるのは、職種や国籍を越えた組織形態の自由度だ。元より雇用形態にこだわりがないことから、フリーランサーや副業者が数多く参加。Konelの名刺を持つ者は40名を超えるものの、フルタイムメンバーは10名のみという。出勤の制約はなく、しかもオフィスは東京以外に金沢とベトナムにもある。そんな環境に対してメディアは、昨今の働き方改革に絡めた話題に収める向きもある。

しかし彼らの話を聞いてわかったのは、現在の組織形態は彼らの活動においてもっとも無理のないかたちであること。そして言うまでもなく、創造物ありき。それを生む働き方がどう見えようと、すべては彼らのクリエイティブに不可欠な欲望に従った結果だ。何より最初の仕事からして欲の押し出しが強かった。

「当時住んでいた家の前に、オシャレで美味しいハンバーガー屋ができたんです。けれど食べログに載っていないし、ホームページすらなかった。本当に素晴らしいお店だったので、頼まれてもいないのに僕らが勝手にウェブサイトをつくって納品しました」

そんな素朴な欲求からビジネスをはじめたのが創業メンバーの出村光世さん（プロデューサー）、荻野靖洋さん（テクニカルディレクター）、宮田大さん（クリエイティブディレクター）だ。3人は大学時代からの音楽仲間で、在学中から価値観をぶつけ合う間柄だったという。

「当時、僕はアクセンチュアというコンサルティング会社に勤めていました。クライアントが国の機関や大手企業だったので、激しく左脳を使っていた時期だっただけに、事業規模に関係なく右脳フル回転の仕事がしたかったんです」

この頃の荻野さんはウェブ制作のフリーランサー。今回会えなかった宮田さんは故郷の金沢を拠点に映像クリエイターとして活躍していた。そうしてハンバーガー屋のサイト制作を皮切りに、各々の仕事を両立させつつ　　　年にKonelを立ち上げた。

創業後間もなく、出村さんは広告代理店の東急エージェンシー／TOTBに転職し、Konelのプロデューサーとの兼業をはじめた。その理由は、インパクトのあるクリエイティブ制作に関わることが

PUPPY NEW YEAR

有志のクリエイターたちが実施した保護犬の里親探しプロジェクトで、Konelはアカウントプロデュースを担当。戌年の年賀状やSNSポストに利用できるデザインテンプレートを著作権フリーで配布した









Transparent TABLE

「手ぶらで話せる未来の会議テーブル」。パナソニックが持つ4名同時に接触認識ができるマルチタッチモニターと、会話を画像で可視化するTransparent APIを融合させたプロトタイプ

知財をクリエイター目線で再解釈する

Konelの成長に欠かせないと判断したからだ。「僕の実家は金沢で印刷業を営んでいるのですが、物心ついた頃から表現とコミュニケーションの仕事をしたいと思っていました。しかし最初から一番やりたい世界に入ると視野が狭くなる恐れがあったし、まずはビジネスを俯瞰できる経験を得たかった。それで多業種のクライアントと上流フェーズの仕事ができるアクセンチュアに入ったのです」

それを遠回りとは感じなかったのだろうか？

「いえ。大企業のメカニズムを理解した上でベンチャーを創業し、自分自身に経営者の感覚を沁み込ませていく過程はとても楽しいものでした。ですから広告代理店でクライアントワークに従事していた期間も充実していました。ただ、力の配分は広告代理店勤務が　%で、Konelの経営が　%。本当に合計　%超で働きました」

兼業の実体は世間が考えるほど甘くないのか？　この問いに出村さんは、間を置いて答えた。

「体力的に厳しかったし、家族にも負担をかけましたが、大好きなクリエイティブ領域だったので夢中で没頭できたと思います」

肩書は知財ハンター

さまざまなクリエイターが入り混じるKonelに最近よく舞い込むのが、先端技術のブランディングだ。マーケティングの観点を越え、研究者と膝を突き合わせ知財活用を考える仕事はとても未来的だという。それを背景に彼らが新たに提唱する肩書きが〝知財ハンター〟だ。

「アカデミックな領域でディープに盛り上がっている知財を、クリエイターの目線で再解釈し、世の中へのインストールを起案していくのが知財ハンターの役目です」

昨今の国の発表によれば、日本の研究開発費約19兆円は先進国第3位のレベルだが、投資回収率になると同じく先進国で最下位。そこに彼らは危機感を抱いた。

「国内には優れた研究知財がゴロゴロ転がっているのですが、その多くがアカデミックな世界に閉じられていて、何かを企画していく

「つくりたいのは、人間の感覚を拡張するような体験です」



知財図鑑

非研究者のための知財データベース。世界を進化させる知財をクリエイターの視点から再解釈して、活用の可能性を起案している

事業家やクリエイターになかなか届かない。そんな知財のハブになり、さまざまな技術を掛け合わせる活動に大きな使命を感じています。また、ビジネスとテクノロジーとクリエイティブを一貫して担っているKonelだからこそ価値を出せると思っています」

彼らにとって知財ハンターの原体験になったのが、　　年のパナソニック創業　　周年イベントで披露された『Transparent TABLE』だ。このプロジェクトは、パナソニックが保有していた4名同時に接触認識ができるマルチタッチモニターと会話をリアルタイムで可視化するTransparent APIを活用したものだ。荻野さんは、二つの技術の融合がKonelのターニングポイントになったと話した。

「僕らがつくりたいのは、さまざまな先進技術の解読によって誰も見たことがない、人間の感覚を拡張するような体験です。だからこそ優れたテクノロジーや知財の出会いが不可欠です。さらに、出会えた知財の有効性を示すため、爆速でプロトタイピングを行うこともKonelの心構えです。きれいな企画書よりかたちのあるプロトタイプのほうが本質的な議論を生んでいけるからです」

不がなくなると人間らしさが損なわれる

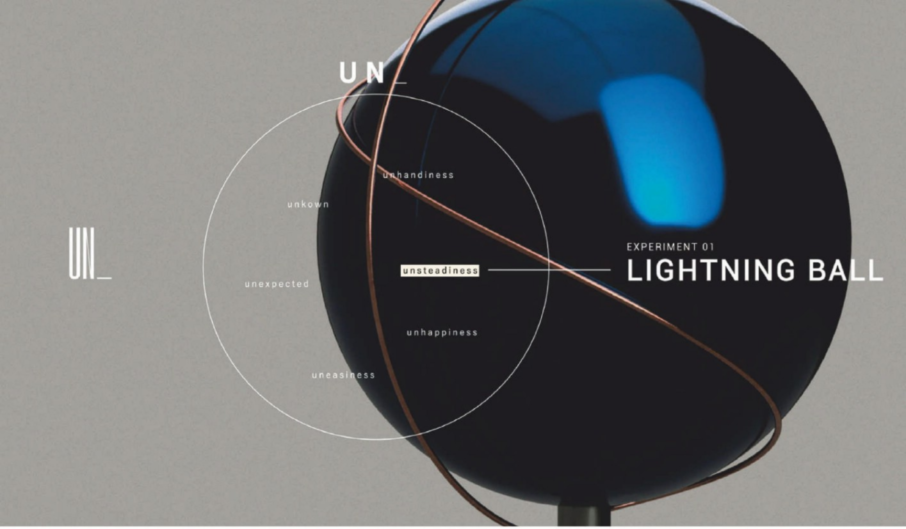
Konelのエポックメイキングとしてもうひとつ上がったのは『雷球』。これはNASAの気象観測データから落雷の緯度・経度・時刻を抽出し、地球を模した球体上でリアルな雷を再現する装置だ。彼らのオリジナルプロダクトだが、アート作品ではなくランダム家電と呼ぶそうだ。

「テーマは不です。テクノロジーの進化で不便や不条理がなくなる未来が近づいてきますが、それによって人間らしい感情や想像力が損なわれていくことに懸念があり



オノマトペのおやつたち

全国の生産者とオノマトペを商品名にしたおやつをつくる、バックオフィスメンバー主体の自社プロジェクト。コンセプトは「おやつの時間を最高のコミュニケーションに」。新商品開発や新規販路開拓のコラボをしたい生産者を随時募集している



雷球／LIGHTNING BALL

人が退化しないために「予定不調和」の必要性を問いかけた自主プロジェクト「UN_」のファーストプロダクト。NASAの観測データに基づき、球体の上で不規則に発生する落雷を再現する家電

便利にとらわれることなく発見のある体験を生み出す

ました。便利になりすぎていく生活空間に、あえて不な現象を起こす存在を注入するための第一弾としてつくったのが、不規則に起こる雷を再現するプロダクトです」

アート作品としなかったのにはこんな意図があった。

「自分の生活の中にインストールされるイメージが持たれにくいからです。家電と称したことで、いろんな人がそれぞれの想像を行い、多様なフィードバックや議論を起こすことができました。焚き火を眺める感覚に近いというコメントがたくさん寄せられました。実際、不規則に発生する雷を俯瞰すると、人々にぼぉっとする時間を与えてくれる。この作品をきっかけに、自然現象などランダムなデータを取り扱う依頼が増えましたね」

『雷球』という独自的な欲望をかたちにできたことで、荻野さんはKonelが目指す方向についてこんな思いをつぶやいた。

「僕らは便利や最適化から離れたところでデザインやテクノロジーを生かす仕事をしていくべきではないかと」

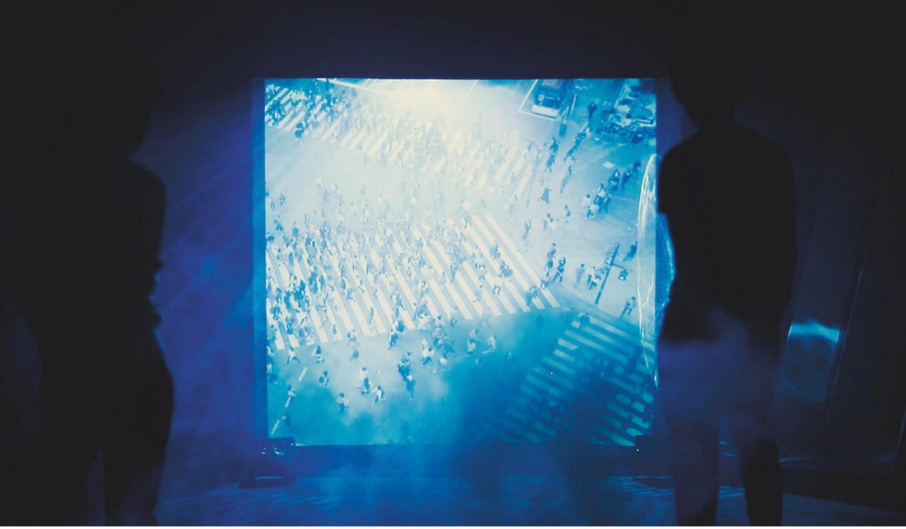
そして出村さんは、強烈なカオスを感じるチームの中に芽吹く共通言語が、Konelの高度なクリエイティビティにつながると話した。

「『欲望を形に』というキーメッセージを明文化したのは比較的最



大喜利印刷

日本の印刷会社の発想力やクラフト力を最大限に表現するために、Twitter上につぶやかれる欲望を、印刷会社が廃材でつくるプロダクトで解決する企画をプロデュースした



NO-ON

脳波から自動作曲するというSFのようなインタラクティブアート。言葉にできない感情を他人と共有することに挑んだ。MUTEK JP 2018 @日本科学未来館にて発表

近です。創業メンバーが阿吽で意思疎通できていたことが、フリーランサーや兼業の人、言語や文化が違う人間も仲間に加わってくると、価値観がぶつかって平行線になる機会が増えてしまった。そこでチームとしてのスタンスを共有するためキーメッセージを明文化しました。結果、スピーディで密度の濃いコラボレーションを続けることができていると思います」

出村さんたちが口にする欲望には、共に働く仲間を大事にする気持ちも含まれている。勉強機会が乏しいフリーランサーに定期的な講習会を開いたり、健康診断の受診を促したり、あるいは業績に連動したボーナス支給を実践しているのは、仲間の欲望も尊重する表れと言っていい。そうしたKonel流の器づくりに対して、「働き方にとらわれない向上心のある人にとってデメリットはない」と、自身も個人事業主だった荻野さんは断言した。最後に出村さんが新たな展望を語った。

「これまではスキルを価値に変換して多くの方々と仕事をしてきましたが、今後は僕らのスタイルを提供したい。Konelに所属する一人ひとりのクリエイターが、自身のスタイルを発信し、そこに共感するクライアントやパートナーと新しい価値をつくりたいです」

「これからはスキルではなくスタイルを提供したい」

Konelの心がまえ

◎プロトタイピングは爆速で

◎欲望に忠実に妥協せずかたちづくる

◎役割にとらわれず越境する



世界に誇れる豊かな海 ここから上質な魚が揚がる

湯河原から見渡す相模湾。魚の宝庫と呼ばれるのは季節ごとの魚類が豊富だから。晴れの日は手前に真鶴、奥に三浦半島がくっきり見える。入り江がいくつも重なる地形が、豊かな漁場を形成している

レストランジャーナリスト 犬養裕美子の

新✺ニッポンのレストラン名鑑

どんな小さな店でも、どんな辺鄙な場所でも、「ホンモノ」であれば、必ず人は引き寄せられる。今月も強烈な一店に出合いました！

文=犬養裕美子　写真=前田宗晃
text: Yumiko Inukai　photo: Muneaki Maeda

連載第27回

神奈川県・足柄下郡湯河原「カランク」

海と山が造り出す ブイヤベース&フレンチ



いぬかい・ゆみこ

東京を中心に世界のレストラン事情を最前線で取材する。新しい店はもちろん、実力派シェフたちの世界での活躍もレポート。また、日本国内各地にアンテナを張り、料理や食文化を取材。農林水産省表彰制度「料理マスターズ」審査員



オーナーシェフ 金野 茂 （こんの・しげる）

1966年、山形県生まれ。調理師学校卒業後、東京で修業。26歳で仏・マルセイユへ。3つ星レストランでの1年半を含む計3年修業。帰国後都内フレンチを経て、熱海「ヴィラ・デル・ソル」料理長22年。2019年独立

Restaurant Data

カランク （からんく）





住所：神奈川県足柄下郡湯河原町宮上374-1 ライオンズマンション第2 1F
Tel：0465-42-9360
営業時間：11:30 ～ 13:30（L.O.） 18:00 ～ 19:30（L.O.）
定休日：月曜、火曜の昼
料金：ランチ：3800円～、ディナー 4500円～ ブイヤベースコース1万円（税・サ別）

カランクのスペシャリテ「Bouillabaisse（ブイヤベース）」

沸騰したら　弱火にする

ロゼワインを合わせて

魚料理には白、だけじゃない。軽い赤も合うし、南仏にはボリュームある赤、すっきりした白のイイトコ取りしたロゼがある。シャトー・ヴィラン7500円

浸して食べたい

上の皿の、ルイユ（ニンニクと唐辛子を利かせたマヨネーズ）と、とろけるチーズを薄くカットしたものを、フランスパンの上にのせスープに浸して食べる



その名が物語る南仏を代表する料理

金野茂シェフとは、「ヴィラ・デル・ソル」の料理長だった3年前に取材でお会いした。当時も魚料理に的を絞ったフレンチをテーマにしていたが、独立に際して、メニューを魚主役の料理に絞り込んだ。というのも、ブイヤベースは南仏を代表する料理だから。

実は料理名自体がその特徴を表している。南仏のマルセイユの漁師たちは、捕れた魚を船の上で鍋に放り込んで煮込んでまかない料理にした。漁師たちはマルセイユこそがブイヤベースの正統であると主張し「ブイヤベース憲章」なるものをつくった。それによると、ブイヤベースの具に使う魚は白カサゴ、赤カサゴ、足長カニ、ホウボウ、マトウダイ、アンコウ、西洋穴子のうち最低4種類を使わなければならない。またスープを取る小魚も決められた種類を必ず入れなくてはならないのだ。



具の魚

写真は伊勢エビ、鬼カサゴ、赤ハタ、ホウボウ、カマス、それ以外には真ハタ、マトウダイ、ワタリガニも



スープの魚

石垣タイ、カワハギ、エボダイ、ヒメジ、カイワリ、ヤガラ



仕入れは「魚久」で

店から車で15分ほどの「魚久」はホテル時代から通っている鮮魚店。創業60年、別荘の人たちや料理人が立ち寄る。「金野さんの注文は量も増えて、質のいいものになってる」と2代目髙橋照幸さん

経験を重ねるほど奥深いブイヤベースで勝負！

年7月、湯河原に「カランク」という小さなレストランがオープンした。早速地元の美味しいもの好きの友人に、その評判を聞くと、「いいお店よ。ブイヤベースはおすすめね」。それもそのはず、オーナーシェフの金野茂氏は、22年間熱海の高級旅館内にある「ヴィラ・デル・ソル」の料理長を務めた。店は由緒ある建物（文化財）と、窓から海が見える、最高の魚介フレンチレストランだった。その店が本館とともにリニューアル閉店することになり、金野氏は熱海のお隣、湯河原で独立したのだ。シェフとソムリエ、忙しいときにはマダムが加わるというミニマムなチーム。料理はほとんどをシェフ一人が仕上げるのだから、その完成度が高いのは当然のこと。早速、足を運んで驚いた。ブイヤベースの魚は、具に7〜8種類、スープに6種前後。その充実度は以前より格段にパワーアップしている。「熱海と湯河原の間にある鮮魚店『魚久』さんには毎日行きます。昔からのつき合いですが、やはり毎日通うとよりいい魚が手に入ります」。毎日揚がってくる魚から最も美味しそうな魚を選ぶ。アベレージが高い秘密はそこにある。金野シェフのブイヤベースは、よりデリケートな料理に進化していた！

ある日のおまかせコース1万円

コンソメのジュレからはじまり、前菜が5品、スープ、メインディッシュにデザート2品、飲み物とミニャルディーズ。魚フレンチを軽く見てはいけない。結構量がある。ランチは3800円、6500円、ディナーはこのほかに4500円、7500円。



1.伊勢海老のコンソメジュレ

あっさりしたコンソメの後からリッチな伊勢海老の風味が広がる。高級寿司店御用達の北海道・羽立の紫ウニにブルーのボリジの花



2.帆立のスフレグラス

四角のキューブはホタテ貝の冷たいアイス。この塩味に対してマンゴーの甘みがよく合う。菊の花びらを散らした可憐なひと皿



3.活アワビ 檸檬と海藻の氷

コリコリとした新鮮なアワビ。磯海苔を固めてつくった海藻の氷で磯の香りと、レモンの皮を削り爽やかな香りをプラス



4.真鱈の白子とブルーチーズ

この日、入荷した真ダラの白子。組み合わせたのが塩味が強いブルーチーズ。クリーミーな白子に、ピリリとした塩味がアクセント



5.アオリイカとピーマン アーモンドオイル

サッと火を通したアオリイカの軟らかいこと！　フルーティな黄ピーマンと苦みのある緑ピーマン、香ばしいアーモンドオイル



6.スープ・ド・ポアッソン

魚のスープ。ブイヤベースのようにサラサラではなく、魚の身も骨もすべて一緒に漉すから、舌触りにざらつき感が出るのが特徴

日本に南フランスの風を届ける

「カランク」。この店名が南仏の美しい入り江のことだと知っている日本人がどれだけいるだろう。フランスの第2都市、マルセイユは古くから東西南北の文化・経済の交差点。かつては海運業で栄えた港が、近年は商業都市として様変わりした。それでも周辺の海岸沿いには、まだまだ美しい自然が残されている。「カランク」とは、このマルセイユの東の海岸線にある入り江のこと。地殻変動によってできた白い石灰岩の断崖絶壁が続く切り立った入り江は紺碧の海との美しいコントラストを見せ、訪れる人の心をとらえる。金野シェフは、1年半のマルセイユ修業時代、何度もカランクに足を運んだという。「その美しさを忘れたくなかったのと、ここがブイヤベースの発祥の地なので、迷わず店名にしました」。

独立に際して湯河原を選んだのは、自宅もあって土地勘があり落ち着ける場所だったから。何より海と山に囲まれた、南仏の修業時代を思い出させる土地だったからだという。「ちょっと車を走らせば、海の潮の香りと、山の木々の香りを嗅ぐことができます。魚と野菜に恵まれた、料理人にとっては理想的な場所です」。

金野シェフの一日は魚と野菜の仕入れからはじまる。「フランス





完全無農薬で育てる谷口農園

オーナーの谷口さんは野菜づくりが好きで農園をはじめた。珍しい野菜やハーブに積極的に取り組むのでシェフたちの頼れる存在。1）フレッシュハーブは毎日必要な量を摘んでいく。2）レモンは香りが鮮烈。3）カブは生食可能なみずみずしさ。4)ベルベイヌはすべて「カランク」のハーブティー用。5）野イチゴはデザートに。6）食用花もさまざまな色がある

毎日来るから旬がわかる!



8.和栗のモンブランとライム

アイスクリームとマロンペースト、生クリームと渋皮付きマロングラッセの4層になったモンブラン



7.鰆と茸のマトロート

魚のメイン料理。キノコと赤ワインソースでコースを締めくくる。サワラは春の魚といわれるがこの地域では10～2月に旬を迎える



ワイン好きならフルペアリングがおすすめ

たとえば1万円ディナーは8種8000円～で合計1本分の量を楽しめる。3種3000円、3～5種5000円のコースもある。グラスワインは1200円～



ワインは私にお任せを!

少数精鋭!　おもてなしにもこの店らしさがいっぱい

左から金野シェフ、マダムの由紀さん、ソムリエ＆メートル・ドテルの相川孝作さん。全員、笑顔がチャーミング



10.飲み物とミニャルディーズ

小菓子は、ヌガー・モンテリマール、メレンゲ・フランボワーズ、キウイのパート・ド・フリュイ



9.グアヴァと秋苺ココナッツのメレンゲ

グアヴァのフラッペ（果汁を凍らせたもの）に、イチゴとココナッツのメレンゲでトロピカルな仕上げ

で仕事をはじめた頃、シェフについて朝市に通っていましたが、彼は魚を見て、気に入れば買う。そこから料理を考えるんです」。日本では○○をつくるために必要な魚を注文する、という逆の手順だったし、料理も定番化していた。「そうか、料理は素材を見てから考えればいい。その日、最高の魚をチェックしよう」

　それがいまでは毎日の日課になった。

　金野シェフ、「魚久」ではその日の魚をひと通り見て次々と注文していく。おまかせコースのリピーターから一番多いリクエストがスープ・ド・ポアッソンだ。魚を丸ごと濾したスープ用にはブイヤベースとは違う魚を使い、インパクトのある食感を演出する。

　店から15分、野菜の仕込みも金野流。谷口農園に到着すると金野シェフは籠を抱えて、ビニールハウスに向かう。

「好きなものを好きなだけ採って持っていくんです」、支払いはざっくりと1カ月でいくらと決めてあるので、いわば「採り放題」！

「仕入れから仕込み、調理、後片づけ。すべて一人でやるのは大変ですが、　%自分の料理と言えるし、もっと完成度を高めていきたいと思っています。何より素材の説明などお客さまとのやり取りが楽しいですよ！」

　ベテランならではの技術や発想を生かした料理に期待したい！

橘ケンチの今宵のSAKE

Vol.27

Theme ▼ 陽乃鳥橋（ひのとりたちばな）②

世界に誇るべき日本酒＝SAKEの素晴らしさを、EXILE EXILE THE SECONDの橘ケンチが案内。新政酒造とのコラボ日本酒「陽乃鳥橋」を販売する「いまでや」小倉社長と対談した。



小倉秀一さん

1962年創業の酒販店「いまでや」2代目代表取締役社長。ビール会社を経て25歳で家業を継ぐ。全国各地の造り手のもとに訪れ、対話を重ねながら酒の魅力を発信し、新しい酒文化創造に邁進している

貴醸酒 陽乃鳥橋は大切な人たちとの時間に楽しんでほしい

小誌で報じてきた橘ケンチさん×新政酒造のコラボレーション日本酒「貴醸酒 陽乃鳥橋」がいよいよリリースされる。そこで今回、独占販売を担う〝プレゼン型酒販店〟「いまでや」代表・小倉秀一さんと日本酒の新しい価値創造について語り合った。

橘：いまでやさんは、　年代に創業されたときは、いわゆる街の酒販店だったんですよね。

小倉：そうですね、一般家庭への配達が中心の。私が家業を引き継いでから、ワインと日本酒、焼酎の三本柱で、お酒の文化をもっと広く楽しく豊かにするために、造り手一人ひとりと対話を重ね、その想いやプロダクトの本質を伝えることを大事にしています。

橘：すごくわかります。僕もさまざまな日本酒業界のキーパーソンとお会いして、刺激を受けながら、その魅力を伝えたいと常々思っています。

小倉：ケンチさんが愛情をもって発信して、いままで日本酒に興味がなかった若い方たちが体感するようになって、本当にありがたい。我々小売店は、ただ売るだけでなく、食文化のある飲食店を紹介したり、ブランディングのお手伝いなど、造り手が考えるビジョンを共有して「担う」意識がないと今後生き残れない。ですので、一年の半分以上は各地のさまざまな造り手に会いに行っています。



橘ケンチ（たちばな・けんち）

EXILEのパフォーマーであり、EXILE THE SECONDのリーダー兼パフォーマー。アジア拠点「LDH ASIA」の一員として、アジアに向けたエンタテインメントの構築も担う。EXILEのアルバム『STAR OF WISH』が発売中
https://exile.jp

熟成で日本酒の価値を高め 楽しさの選択肢を増やし ワクワクする文化をつくる

小倉秀一





上）4℃で管理され、約30歳前後のそうそうたる銘酒が貯蔵されている熟成庫で目を輝かせるケンチさん。「日本酒にヴィンテージという価値が定着してほしいですね」。下）約2万アイテムが揃う「いまでや」では日本ワインも充実。各種セミナーも開催している

橘：その造り手の方とのすてきなイベントも多彩に仕掛けられていますよね。最初にお会いしたのが、いまでやさんが開催された、焼酎の蔵元さんたちと著名なバーテンダーの方をつなぐイベントでした。集まった蔵元さんたちが、新しいことに挑戦している方ばかりで、その熱気に感銘を受けました。

小倉：うちの強みは、素晴らしい造り手や飲食店の力を借りて、新しいマーケット創造をすること。そのために店舗があるので、新しいトレンドを発信して一人でも多くの方に飲んでいただきたくて、各種イベントを開催しています。

橘：僕は酒瓶が並んでいる画が好きなのですが、いまでやさんをはじめ酒販店さんを訪れるときほどのワクワク感はほかにはないですよ（笑）。今回拝見させていただいた熟成庫も見たことない規模で驚きました。いつから熟成に取り組まれているのですか？

小倉：3年前からですね。

橘：はじめられたきっかけは？

小倉：うちは世界7カ国に輸出しているのですが、海外でいつも「日本酒はなぜ人気銘柄もほかと同じ価格なんだ？」と言われるんです。確かに世界の醸造酒のベースであるワインを見ると、ロマネコンティが代表的ですが、需要と供給のバランスで価格が上がる。それは造り手にとって大きなビジネスチャンスでもあります。でも日本酒にはそういったヴィンテージという文化がまだない。ですので、熟成によって日本酒に新しい価値を創造したいんです。

橘：日本酒自体が、日本人ならではの繊細かつ緻密な仕事で生み出される非常に価値のあるもの。そこに熟成をかけることで、表現が変わり楽しみ方も増えますよね。

小倉：そうなんです。お酒は嗜好品なので、我々は「熟成したら美味しくなる」とは言いません。たとえば、まろみや深みが出てきたり、ワインの加点法のようによい部分に気づいてもらって、同じ銘柄の新酒と飲み比べたり、価値を上げながら楽しみ方の選択肢を増やしたい。そうすれば、日本酒の文化がもっとワクワクするものになると思います。数十年はかかると思いますが。

橘：小売店さんがそこまで取り組まれているのは素晴らしい。そうすることで、フランスの特級畑のブドウのように、酒米の価値も上がって農業振興にもつながると思います。今回、陽乃鳥橘も熟成していただけると聞いて、いまから楽しみです。

小倉：仕込み水の代わりに日本酒で仕込む貴醸酒は、使用する酒によって表情が変わり、和食だけでなくフレンチやイタリアンのシェフにもプレゼンできる魅力的な酒です。熟成をかけてもおもしろい。

橘：これまで3種類の日本酒を造りから参加させていただいて、今回、新たな挑戦として貴醸酒をつくりました。

小倉：日本酒の構成の中で味わいの骨格をつくる酸が大事な要素なのですが、陽乃鳥橘は従来の貴醸酒ならではのリッチな甘みに加えて酸がしっかりしている。はじめて飲んだとき、これまでにないタイプの酒だと思いました。まさにケンチさんのようにつやのあるお酒だと思います。

橘：そう言っていただけるとうれしいです。これからのクリスマスや年末年始に、大切な人たちとの特別な時間に楽しんでいただける一本になってほしいですね。



貴醸酒 陽乃鳥橘

価格：5000円／500㎖
原料米：あきた酒こまち100％
精米歩合：麹米50％、掛米50％
アルコール度数：14度
問：新政酒造
Tel：018-823-6407
www.aramasa.jp

貴醸酒 陽乃鳥橘が買える店はこちら

販売店：IMADEYA GINZA（www.imadeya.co.jp）
販売開始：2019年12月7日（土）

文=藤谷良介　写真=上樂博之、鈴木規仁　text: Ryosuke Fujitani　photo: Jyoraku Hiroyuki, Norihito Suzuki



スタイリスト高橋みどり

食卓の匂い

「使ってみたい」そんな気分になる漆のうつわ

スタイリストであり、いち生活者でもある高橋みどりがうつわを通して感じる「食」のこと。五感を敏感に、どんな小さな美味しさ、楽しさも逃さない毎日の食卓を、その空気感とともに伝えます。

文・スタイリング＝高橋みどり
写真＝近藤 篤

漆のうつわ、「欲しいけれど何からはじめればいいのかわからない」、「高価であり、扱いが難しそうでハードルが高い」などの声を耳にします。「じゃあ、まずはお味噌汁を漆椀からはじめては」と勧めたら、朝ごはんはトースト派だったり、コーヒーだけだったり、ましてやお味噌汁はめったにつくらないと言われてびっくりしました。私も古き昭和の人間なんだなぁと自覚しましたが、いやいや、漆のうつわは使ってこそ、その温かみや優しさ、素晴らしさを感じるもの。漆のうつわに対してのイメージ、たとえばお正月のお雑煮のお椀やお節の重箱とか、一年に一回賑々しく使うことを想像するから面倒なのです。もっと自分にとって日常のシーンが浮かぶ物なら欲しくもなるし、使いたくもなる。

　杉田明彦さんの漆のうつわは、まさにそんなうつわなのです。前回の展覧会で思わず手に取った茶褐色の平皿は、うっすらとしたリムが配されていて、こっくりとしたカカオ純度の高いチョコレートでものせ、ウイスキーグラスの隣に置いたすてきなお酒の時間が浮かびました。いつ何時にでも使えるイメージがわくうつわ。

　つくっているご本人も、「きっかけは朝食のときにでも使えるようなリムのある平皿が欲しかったから。でもリムの境目がはっきりとした洋皿然とした物だと、大きさの割に使える面積があまりないのと、料理が限られてしまうという思いがあり、あえてリムをはみ出しても使えるように揺らぎを表現しました。スウェーデン等の使い込んで目減りした古い木皿を参考にしたのは、どこの国かわかりづらい不思議な存在感が合うのではないかと思って。塗りを入れて、さらに抽象的になったところが気に入っています」と。



石川県金沢市で活動する杉田明彦さんの漆の「リム皿」。杉田さんの手から生み出される絶妙な風合いは、不思議と日常に溶け込んでくれる。漆であっても高橋さんの食卓では、あらゆるシーンで活躍しているデイリーユースのうつわ。1万7600円
問：gallery yamahon　Tel：0595-44-1911

　私がチョコレートのように美味しそうな色と感じた茶褐色は、ベンガラの赤と黒を混ぜてつくり上げたオリジナル。スイスを旅したときに感じた中間色の美しさ、自然豊かな中で馴染んで見えるその存在を思い、新たに制作したそうです。ヨーロッパで使われてきた白皿と並べても違和感なく、染付の横に置いても似合う。家庭であっても、店であっても、洋にも和にも使われて、物がのっていてもいなくても、日常のどこにでも存在しているような、そんなうつわであってほしいと杉田さんは言います。

　今回、茶褐色のお皿には発色の美しいマカロンを。大人のティータイムを思わせる趣です。黒いお皿には、季節の料理を数点盛りました。ポイントとなるものを盛れば、それだけで絵のようなひと皿となり、漆ならではの品格も感じます。杉田さんのイメージのように、パンをのせての朝食を考えるだけでワクワクしてきます。毎日どこかのシーンで使われている、そんなすっと手の伸びる漆のうつわです。

　扱いは難しく考えることなかれ。本来木のうつわなので、水に浸けっぱなしではいけないし、柔らかい表面を金属たわしや硬いものでこすらない、やけどしそうに熱い湯では洗わないなど、自分が漆の身になって考えれば、されて嫌なことをしなければいいのです。

高橋みどり

スタイリスト。1957年、群馬県生まれ、東京育ち。女子美術大学短期大学部で陶芸を学ぶ。その後テキスタイルを学び、大橋歩事務所、ケータリング活動を経てフリーに。数多くの料理本に携わる。新刊の『おいしい時間』（アノニマ・スタジオ）が発売中

CLASKA Gallery & Shop "DO" 大熊健郎の R40的

東京名店探訪

第28回 大和屋シャツ店



日本最古のオーダーシャツ店。横浜で創業し、昭和33年から銀座へ移転

大和屋シャツ店

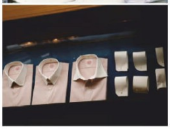
住 東京都中央区銀座6-7-8
TEL 03-3571-3482
営 11:00 ～ 19:30
休 なし



石川成実さん

創業143年の大和屋シャツ店6代目社長。大学卒業後、シャツメーカーを経て現職へ。「本物のシャツをお客さまにお届けしたいです」と話す





上）体型や着用時のシーンはもちろん、個々人の動作の癖も見極めて採寸、提案をしてくれる。下）袖や襟の形状、ボタンに至るまですべてオーダー可



今月の一品

オーダーシャツ

シャツのオーダーは2万円～。生地の糸は100 ～ 120番手が一般的だが、同店では330番手をも扱う。細く繊細な糸はシルクのような光沢となめらかさ

人が歳とともに成熟するというのは幻想だ。と最近つくづく感じるのはもちろん自分自身を振り返ってのことである。歳50にもなれば一体自分はどんな大人に成長しているのかと思いきや、ただその未成熟ぶりにがくぜんとするばかりの今日この頃……。

とはいえ、いや、だからこそせめて身なりや立ち居振る舞いはきちんとした大人でありたいと思うようにもなる。幸か不幸かこれまでスーツを着る仕事に恵まれなかった身としては、きちんとした身なりの象徴といえばシャツである。そろそろ自分の体型に合わせた見栄えも着心地もよいシャツをつくるなんて贅沢をしてもよい年齢ではないかと思っていたところ、格好の店が銀座にあるという。

みゆき通りと交詢社通りに挟まれた西五番街通り沿い。まさに銀座の懐にその店、大和屋シャツ店はある。黒を基調とした外観に金色のゴシック体でシンプルかつ力強く店名が表現されたファサードは実にモダン。日本最初のシャツ店として横浜に創業したのは　年。戦後現在の銀座6丁目の地に店を移したが、　年以上にわたってオーダーシャツをつくり続けている老舗だ。

店内に一歩足を踏み入れ目に飛び込んでくるのは左右の棚に整然と並ぶシャツ地の数々。カルロ・リーバ、アンダーソン、アルモといった世界屈指の高級メーカーの生地がこれほど揃う店は国内はもとより、海外でもほとんどないという。「小さな店ですが、ここにはそういったヨーロッパの高級生地メーカーのオーナーがふらりとやってきます」と話してくれたのは6代目社長の石川成実さん。店に並ぶ生地は長年の実績が生んだ生地メーカーとの信頼関係の証しであり、この店自体の信頼性を物語る何よりの証拠でもある。

オーダーの手順は、まずはじめに大体のデザインを決め、次は生地選び、そして襟型、カフス、ボタンなどのディテール決め、最後はメインイベントの採寸へと進む。ただ身体の寸法を測るだけではない。どういったシーンで着るのかといったことから、その人ならではの身体の動きの癖などをコミュニケーションを十分に取ることで見極める。そして待つこと約3週間。自分だけの着心地を手に入れることができるというわけだ。

各界の著名人にも愛用者が多く、近頃は20代、30代の若い世代や女性も増えているそう。既存のシャツでは味わうことのできない醍醐味を、贅沢としてではなく大人の嗜みとして楽しみたい。

大熊健郎
おおくま・たけお

「CLASKA Gallery& Shop "Do"」ディレクター。国内外、有名無名問わずのもの好き、店好き、買い物好き。インテリアショップ「イデー」のバイヤー＆商品企画、「翼の王国」編集部を経て現職
www.claska.com

写真＝鈴木真貴　photo: Maki Suzuki

おくだ健太郎の歌舞伎キャラクター名鑑〈第二十四回〉

演目

壇浦兜軍記（だんのうらかぶとぐんき）



イラスト＝瓜谷茜

大きな戦争の後には、東京裁判、ニュルンベルク裁判のように、戦後処理や責任追及の法廷が設けられます。勝者が裁く側、敗者が裁かれる側で、そこには、さまざまなせめぎ合いや人間模様が展開されます。

こういう硬質な題材を、歌舞伎は、美しい音楽劇に描いています。ヒロインは、阿古屋。京都の清水寺の門前町のくるわ・五条坂の遊君です。

阿古屋は、平家のつわもの・景清と深い仲で、身籠もっています。親子3人での平和な、楽しい暮らしを待ち望んでいますが、いとしの景清は、平家が源氏との戦に敗れたっきり、行方知れずになってしまいました。

ご無事だろうか、どこにいるんだろうか……寂しさと不安を胸いっぱいに抱えた阿古屋は、気の毒なことに、源氏が京都の堀河で開いたお白洲に連行されてしまいます。景清のありかを知っているはずだ、白状せよ、と問い詰められるのです。

阿古屋は、本当に何も知らないんです。知らないどころか、景清の行方を、安否を、誰よりも一番知りたいのは、阿古屋なのです。だのに、わからずやの役人は、吐け！　の一点張り。責め道具をたくさん持ち出して、これでせっかんしてでも聞き出してやるぞ、とすごみます。

ところが――取り調べ役のもう一人の侍・重忠は、様子が違う。阿古屋の表情を丁寧にうかがい、一言ひと言に誠実に耳を傾けてくれるんですね。

そして、こんな取り調べをはじめます。阿古屋は立派な遊君だから、音曲の演奏も得意なはずだ。これからこの場で、琴、三味線、胡弓、をそれぞれ演奏させよう。その音色に「曇り」がなければ、彼女の心にも偽りはなく、景清の行方を本当に知らない、と判断しよう、というまことにユニークで上品な詮議です。

重忠からの急な要求に、阿古屋は戸惑いますが、3種類の楽器を、ひとつずつ、心を込めて演奏します。琴と三味線は、自ら歌いながら弾きます。景清の名前が詞にちりばめられていたり、しとねで肌を重ねたときの甘美な思い出をつづったり……耳を傾ける重忠の胸にも、さまざまな情感を生じさせていきます。

そして、胡弓の曲は、鶴が子育てをするさまを、切ない調べにのせて描くものです。まるで阿古屋は、おなかに宿した子に語りかけるように、一心不乱に音を紡いでいきます……。

さあ、重忠は、いかなる判決を下すのでしょうか……。



おくだ健太郎
おくだ・けんたろう

歌舞伎ソムリエ。著書『歌舞伎鑑賞ガイド』（小学館）、『中村吉右衛門の歌舞伎ワールド』（小学館）ほか、TVなどで活躍　http://okken.jp

12月の東京・歌舞伎座で『壇浦兜軍記』が見られます！

義太夫狂言の名作『壇浦兜軍記』が「十二月大歌舞伎」昼の部の三幕で上演されます。楽器を奏でながら細やかに表現される阿古屋の心情に、ぜひご注目ください！

十二月大歌舞伎
期間：～ 12月26日（木）
時間：昼の部11:00 ～、夜の部16:30 ～
料金：
1等席1万8000円、2等席1万4000円、
3階A席6000円、3階B席4000円、
1階桟敷席2万円
問：チケットホン松竹
Tel：ナビダイヤル 0570-000-489

連載

HANEDAの未来

第11便

アートで日本茶の魅力を再発信

羽田空港の未来を考える連載。今回は、静岡県掛川市でアートという新しい切り口で日本茶の魅力を発信している活動を紹介する。

掛川市 文化振興課 湯澤智美さん



2017年よりかけがわ茶エンナーレ実行委員会事務局に所属。同年開催の茶エンナーレの運営に携わり、茶エンナーレ2020の開催に向けて活動中

グリーンディスプレイ 事業推進室 大塚淳一さん



大学卒業後、渡英しNGOで森の再生活動に従事。帰国後、掛川で植物園の園長を担当。現職では植物による都市と里山の新たな互恵関係を構築中

羽田未来総合研究所 地方創生事業推進部 中橋辰也さん



ウェディングプロデューサー職などを経て、現職。地方が抱える課題解決のために、羽田空港が果たす役割や新たな価値の創造に取り組む

羽田未来総合研究所 地方創生事業推進部 古藤大毅さん



羽田空港ターミナル管理会社にて店舗管理などに携わり2018年より現職。空港という場を生かして地方の魅力を「食」を切り口で発信すべく活動中

監修：羽田未来総合研究所ディレクター・石黒浩也

日本茶で人と自然のつながりを再発見

中橋 今回、羽田空港でお茶の木から人と自然のつながりを見つめ直す「オチャノキプロジェクト」や掛川市のアート活動「かけがわ茶エンナーレ」を紹介させていただきますが、その背景となった現代における日本茶の課題をお聞かせください。

湯澤 一番大きいのはお茶の需要の減少です。昔はのどを潤すにはお茶が主でしたが、いまは嗜好が多様化し、自動販売機やコンビニもあふれるようになって「お茶を淹れて飲む」機会が著しく減りました。そうなると必然的に生産者のお茶が売れなくなり、農家の跡継ぎもいなくなるという悪循環に陥っていきます。

中橋 結果、休耕地が増えてきているのですね。「オチャノキプロジェクト」がはじまったきっかけはなんだったのですか？

大塚 掛川の植物園に勤めていた頃は、身近な存在過ぎて、お茶の木を意識したことがありませんでした。いまの会社に入り、4年前に日本の文化と関連深い植物を考えたときにお茶の木を思い出して市の方に写真を見せてもらったところ、枝や幹の美しいうねりに驚きました。それと同時に休耕地問題も知り、お茶の木の埋もれている魅力を発信したい、と思ったのがきっかけです。

中橋 大塚さんの熱い思いからはじまったのですね。

大塚 ちょうど社内でも「モノがあふれている現代で、物語のある〝コト〟ってなんだろう？」と探していたのもあります。

中橋 その活動の中で、おもしろい取り組みを教えてください。

大塚 一番印象的なのは「ap bank fes '18」です。著名なアーティストが主体となって自然エネルギーをはじめとしたさまざまな環境プロジェクトの支援や推進を行う非営利組織のフェスが昨年、掛川で



文=藤谷良介　写真=林 和也　イラスト=yune　text: Ryosuke Fujitani　photo: Kazuya Hayashi　illustration: yune

開催されたのですが、　以上の会場のサイン（標識）をお茶の木で制作したり、お子さんや若い人にも知っていただこうと、花冠のレイのワークショップを開催しました。あと、たとえば渋谷発のアパレルブランド「HARE jp」さんの店内ディスプレイをしたり、都市部でも発信しています。

古藤　羽田空港の「エクセルホテル東急」でもお茶の木を展示していたことがあり、好評だったとうかがっています。欧米の空港ではアート展示が身近ですが、日本ではまだまだ根づいてはいないので、我々も日本の空の玄関口として日本独自のアートを発信していきたいと思っています。

中橋　その中で、掛川市の「かけがわ茶エンナーレ」とコラボした演出もありました。

湯澤　「かけがわ茶エンナーレ」は、お茶とアートを融合させて文化振興を行う地域芸術祭で、　年に30日間にわたって市内の各地をお茶のアート作品で演出しました。その一環で、今年　月からグリーンディスプレイさんから寄贈いただいたオチャノキアートで市役所前を演出したり、令和になった　月　日に、婚姻届けを出した方にお茶の花言葉「純愛」にあやかって願い事を書いて飾っていただく等、さまざまなイベントでご一緒しています。

中橋　「かけがわ茶エンナーレ」がはじまって、市民の方に変化はありましたか？

湯澤　自信や誇りをもてた、という声が多かったですね。これまで風景だったものをアートという切り口にすることで日本茶の魅力を再発見していただくきっかけになったと思います。その〝茶縁〟を今後もつなげていきたいです。

大塚　我々としても、まず日本の文化だからこそ生まれた必然の美として日本茶の魅力を再認識していただくこと、そして、空間デザインとしての再利用で生み出した利益を、休耕地や里山でお茶に関する新しい活動をしている人に再投資して、最終的には地域循環や活性化につなげていきたいです。







1）掛川市の日本茶生産量は5300t。品質の高さとともに日本有数の名産地だ。2）休耕地には、人の背丈よりも高いお茶の木が伸び、可憐な白い花を咲かせている。3）掛川市役所前にはオチャノキアートが展示されている

オチャノキアートを羽田空港で展示します。

期間：12月6日（金）～12月10日（火）
会場：羽田空港第2ターミナル5Fフライトデッキトーキョー　**観覧料**：無料

グリーンディスプレイによるオチャノキアートや「かけがわ茶エンナーレ」の活動のアーカイブを羽田空港で展示します。12月7日（土）、8日（日）は掛川茶のサンプルを配布予定。ぜひお立ち寄りください！



◆第65夜◆

建築は、カタチが先じゃない。



真夜中になると人は本音を語りたくなる……

丸の内発 26時

From (marunouchi) HOUSE AM 2:00

今回のゲストは、建築家の広谷純弘さん。
数々の賞を受賞される広谷さんが、
出張帰りに駆けつけてくださいました。
地方が大好き、食が大好きな紳士。
建築の楽しさ満載でお届けします。

Guest

建築家／アーキヴィジョン広谷スタジオ代表取締役　広谷純弘　ひろたに・よしひろ

一級建築士。和歌山県出身。1980年、東京理科大学工学部建築学科卒業後、戸尾任宏さんが創設した建築研究所アーキヴィジョンに入社。2006年アーキヴィジョン広谷スタジオ設立。東京だけでなく地方都市にも活躍の場を広げる。「能作新社屋・新工場」でDSA空間デザイン賞受賞。公共建築賞、グッドデザイン賞、キッズデザイン賞など受賞多数

Host

丸の内ハウス統括マネージャー　玉田 泉　たまだ・いずみ

三菱地所時代は、大手町ビル1階の大手町カフェを担当。その後、丸の内ハウス統括マネージャーに就任。現在は同職を丸の内ハウス事務局で、執行中

テーブルビート代表取締役　佐藤俊博　さとう・としひろ

かつてはツバキハウスやGOLDをプロデュース。現在は丸の内ハウスで蒸し料理レストラン「MUS MUS」のほか「来夢来人」、「現バー」を経営する

玉田　広谷さんの建築って、保育園とか道の駅とかが有名なんですけど、視線があったかくて、そこを使う人たちの気持ちに寄り添っていらっしゃる。ご出身は確か和歌山県、どんな少年時代だったんですか。

広谷　小学校6年のときは、カメラマンになりたかった。リチャード・アベドンというカメラマンの写真集を偶然見てカッコイイなあ、これからはカメラマンの時代だ！って。

玉田　小学生でアベドンは早熟過ぎます。カッコイイって思う少年の感性はすごいですけど。

広谷　それで自宅に暗室をつくって、中学1年のときは写真部。でも住んでたのが和歌山でしょう。それも50年前の。誰にも教われなかったし、どうやってカメラマンになれるのかわからなかった。マン・レイの写真テクニックを自分でやってみるんだけど、あまりにかけ離れていた。結局、中1であえなく挫折（笑）。

玉田　それで、建築家を志望。

広谷　いやいや、当時はやってたフォークソングに憧れて、何も知らずに友達と行った労音（全国勤労者音楽協議会）のコンサートがジャズトランペッターの日野皓正さん（笑）。新しいジャズの時代が来るなあと思って、ためていたお年玉で、ベースを買いました。

玉田　長続きしましたか（笑）。

広谷　自己流で、3年間でした。高校1年の頃バンドを組んでいたメンバーに僕のベースを貸したら、はじめて弾いたのに3年練習した僕より圧倒的にうまくて、また挫折（笑）。

玉田　好奇心が強くて、おませな青春時代の広谷さん、イケてますよ。アベドンに感動したことも、ベーシストへの憧れも後々必ず役に立つ。

広谷　それで、思ったんですよ。僕は自分の好きなことを仕事にするタイプじゃない。人のためになることを仕事にしようって。

佐藤　やっと気づかれましたか（笑）。

広谷　そうそう。高校時代は遊んでばかりだったから、当然浪人。東京で大学受験のために寮に入りました。そこに建築学科の女子大生がいまして。絵を描いたり、模型をつくったりして楽しそうに見えたから、建築家を目指して現在に至る（笑）。

佐藤　人との出会いが大切ってことですよ。遠回りじゃない。

広谷　そうですよね。彼女はいま、筑波大学の教授で、ユネスコ世界遺産の選定にもかかわっています。それから僕をジャズの道から挫折させたその友達は、バークリーに行って、いまは世界的なベーシストとして有名になってる。

玉田　挫折したかいがありましたね。

広谷　「お前がベーシストになれたのは俺のおかげ」って言うと、

建築家は、そもそも、人と話をすることから仕事がはじまるんです。

撮影＝堀田賢治



1



2



3

1）鋳物メーカー「能作」の社屋。オフィス、工場、体験工房等の機能を有し、富山・高岡における産業観光の拠点に。2）東京・足立区の「レイモンド花畑保育園」。3）富山の雨晴（あまはらし）海岸に面する、道の駅「雨晴」

「いや、お前のベースが下手だったおかげ」って突っ込まれる（笑）。

玉田　建築家を目指して、建築設計事務所に入られた。

広谷　40年以上経ちますね。

玉田　燦然と輝く受賞歴。それに建物の分野が幅広いのがすごい。

広谷　15人の仲間と、保育園、お寺、神社、いろいろやってますね。

玉田　私は保育園が大好き！　子どもたちもカッコイイ建築家になりたいって思うかも。

広谷　子どもたちにとっては、家とは違う個性的な空間がいい。

玉田　保育園は、想像力を掻き立てる空間。時計がいっぱいの部屋もありましたよね。

広谷　立体的な絵本のような空間をつくりたかった。時計が5つ並んでいて、ひとつだけ時間が合ってる。保育士さんが空想して自由にお話ができるキッカケになるようになってる。

玉田　いろいろな仕掛けをされていますが、保育士さんの目線が届くように要望されませんでしたか。

広谷　でも感受性の強い子どもって、見られてることをすごく意識するでしょ。すると家に帰って機嫌が悪くなる。だから適当に隠れる場所が欲しい。それで保育室の中に小っちゃい部屋をつくって、天井を高くして、上から自然光が入る空間をつくると、昼寝の時間は全員そこで寝たりする。

玉田　みんな集まってきちゃう。

広谷　ベテランの保育士さんも、大きな保育室の中に段ボールで小さな隠れ家をつくっていました。

佐藤　押し入れの中に隠れるような感覚。当時は楽しかったなあ。

玉田　でも子どもたちの習性って、建てる前にはわかりにくいですよね。

広谷　だから完成してから4カ月後に調査に行きました。すると、保育士さんは美術の専門的な授業を受けていないので、子どもができることを上手にする感じで、ものや作品をつくってしまうことがわかった。そこで徐々に感性を刺激するものを園内に増やしました。ある団地の中の保育園では、その団地に住んでいる老人たちがため込んでいたいろんなきれいな紙を提供してもらって、それで作品をつくる。するとおじいさんやおばあさんが展示会に来てくれた。



玉田　コミュニティが活性化する舞台に保育園がなる。

広谷　街の中で保育園がつながりをもつキッカケになった例ですね。僕らはアーティストと違って一人こもって仕事をする人間じゃなくて、そもそも、人と話をすることから仕事がはじまるんです。だからできるだけ多くの人とつながっている建築は価値があるんじゃないか、広がりがあるほうがおもしろいと思うようになりました。

玉田　広谷さんが手掛けられた道の駅もそうなんですか。

広谷　立山連峰が見える「雨晴」という道の駅は、アマチュアカメラマンがいっぱい来るので、1階、2階、階段の途中、人間の視点の移動を建築にしました。結局、船みたいな建物になっちゃった。カタチが先じゃなくて、いろんな人の視線で風景が楽しめるようにね。雨の日でも広がりのある景色が見えるような屋根を考えたり。

玉田　行ってみたいなあ。受賞された「能作」の新社屋・新工場もすごく評判になりましたよね。

広谷　能作の旧工場を最初に見に行ったときはボロボロだったんですけど、時間の澱、モノづくり感があっていい感じでした。新工場にすると、この感じがなくなってしまうから、いろいろ探したらカラフルな木型があったんです。設計のコンセプトは、その瞬間で決まっちゃいましたね。工場見学に行くと、入ったときに、鋳物の工程の最初に使う創業時の道具が飾ってある。その後ろには、モノづくりのまさに働く現場がある。

玉田　ベーシストよりカッコイイ！　今日は、建築の楽しさについて伺えて幸せでした！



丸の内ハウス

新丸ビル7階に、9店のレストラン＆バーが入るフロアとして2007年に開業。中心部には各種イベントが開催できるスペースを配置し、さまざまな情報発信も行う

住所：東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸ビル7F　営業時間：11:00 ～翌4:00
（日曜、祝日、連休最終日は～ 23:00）
※店舗により異なる　www.marunouchi-house.com

文＝吉永 淳　写真＝木内和美　text: Kiyoshi Yoshinaga　photo: Kazumi Kiuchi

vol.37 / 環境対策

人々の声と意識で歴史が動いた

スウェーデンとドイツの間にあり、九州とほぼ同じ面積の小さな国、デンマーク。環境対策が進んでいる国です。その歴史と、奈良ではじまろうとしているある計画について紹介します。

企画協力＝三浦雅之
文＝小久保よしの
写真提供＝ニールセン北村朋子、オフィスキャンプ
cooperation: Masayuki Miura
text: Yoshino Kokubo
photo: Tomoko Kitamura Nielsen、Officecamp



デンマーク・ロラン島南部の、1970年代に原子力発電所の建設予定地だった場所。現在は風力発電パークとなっている。穏やかなこの景色の背景には、国民の決意があったのだ

自立可能な暮らしをより発展させていきたい

神奈川県茅ヶ崎市出身のニールセン北村朋子さんは、　年からデンマークのロラン島に住んでいる。ロラン島は、再生可能エネルギーや農業、教育に関して国内でも先進的な取り組みを続けているところだ。北村さんは、日本からの訪問者のコーディネートや通訳、テレビ番組制作のコーディネート、スタディツアーの企画などを行っている。

その北村さんが奈良を訪れ、ロラン島やデンマークの状況を教えてくれた。「実は　年、デンマークのエネルギー自給率はわずか5%でした。転機は、オイルショックの後に出た原発計画に“待った！”をかけた人たちがいたこと。原発推進派の二大電力会社があったのですが、国民のこの運動に勝てなかったんです。その結果、国民の約80%が反対し、　年、原発に依存しないエネルギー計画が採択されました」と、北村さん。

国は　年に「　年までに全電力消費量の50%を風力発電で賄う。　年までに電力、熱、産業、輸送にかかるエネルギーのすべてを再生可能エネルギーで賄う」などと決めたという。「これらは政権が変わっても変えない、国としての目標です。これにより企業や教育機関は思いきった投資ができます」。国の方針の下、民間企業や国民も同方向を向いて歩みやすいのだ。

そうしていまや、エネルギー自給率は85%（　年現在）。風力発電や地域熱の供給が進んでいる。

一方、奈良県は新たなエネルギー政策「奈良県エネルギービジョン」を　年度末に策定し、積極的に推進してきた。再生可能エネルギーの設備容量についての目標値は大規模太陽光発電の導入が進んで2年でクリアしたため、目標値を上方修正したほどだ。　年には「第3次奈良県エネルギービジョン」の施策目標として、地域コミュニティ活性化などにつながる再生可能エネルギーの導入や水素ステーションの設置を発表している。

北村さんの話を聞いた奈良県地域振興部次長の福野博昭さんは、さらに踏み込んだ「奥大和スーパースマートソサエティ構想」という夢を語ってくれた。「県の南部には十津川村の果無(はてなし)集落など、自立可能な暮らしを実現している集落が多数存在します。だから奥大和は可能性を秘めているし、日本の新しい暮らしの実験の地に適している。テクノロジーと掛け合わせることで、奥大和や紀伊半島を持続可能かつ日本の環境最先端エリアにできたらと考えています」。

また、北村さんによれば、デンマークには都市と地方の関係性をデザインする「戦略デザイナー（ストラテジックデザイナー）」が自治体の中に存在している。たとえば、コペンハーゲン市とロラン市は世界初の協定を結び、都市がクリーンになるために地方がまちづくりに協力したり、エネルギーの地産地消について都市が責任をもって地方に協力したりするなど、都市と地方の対等な関係を目指しているのだ。「デンマークは人口の約1%である約5万人がデザイナーで、中でも戦略デザイナーが多いんです」と、北村さん。

福野さんはこう話す。「20、30年で国が変わるなんて可能性を感じました。戦略デザインとはおもしろい。デンマークのやり方は、自治体運営の参考になります。奥大和はチャンスやなって感じました」。



十津川村の果無集落（写真）や山天集落など、奈良県南部には食料や一部のエネルギー、水の自給を行い、自立可能な暮らしを実現している集落が多数存在する。災害が比較的多いエリアで、自給という課題に向き合った結果の財産ともいえる



教えてくれたのは……
福野博昭さん　ニールセン北村朋子さん

福野さんは、奈良県に関係人口を生むきっかけをつくる仕掛け人。北村さんは現在ロラン島で、食のインターナショナルスクールのプロジェクトを進めているが、奈良県をたびたび訪れている

event information

人と人の出会いを生む場所
奈良の「いま」を知るなら、coto cotoへ

小誌プロデュースの下、奈良市の観光の中心にある公共施設の一部を活用して誕生したcoto coto。大和野菜を使った料理や地酒、曽爾(そに)高原ビールなどが楽しめるほか、併設のギャラリースペースで展示やイベントを開催。10月には「環境対策」をテーマにトークショーを行った。



coto coto（コトコト）
住所：奈良県奈良市東寺林町38
（奈良市ならまちセンター 1F）
Tel：0742-22-6922
www.cotocoto.nara.jp



蓑虫山人

幕末から明治、家を背負った放浪の絵師

蓑虫山人のオン・ザ・ロード

MINOMUSHI-sanjin On the Road

第5回

蓑虫山人の東北漫遊日記 蓑虫山人のすべらない話

岩手と秋田の県境、朝もやから登場する蓑虫山人。ドラマチックに自分を描く

『蓑虫山人画記行』（部分）／秋田県立博物館所蔵

蓑虫、二度目の東北である。
明治20年9月4日、岩代国（現在の福島県の西側）から東北に入る。山形県鶴岡を経由して、この年中に秋田まで北上し、そのまま明治23年の3月までのほとんどを秋田県内で過ごすことになる。
蓑虫は各所に拠点となる（ごやっかいになる）家を決めてそこを中心に地域を見て回っていた。秋田県能代市でのその拠点のひとつだった山本家を訪ねる。現在の当主、山本達行さん（P　　）に蓑虫にまつわる逸話をうかがうことができた。「蓑虫はこの地に滞在中、同じ町内の長徳寺（P　　）の庭園と、近くの山の上にある私たち山本家の墓地庭園を造園していきました。造園中は現場に蓑虫庵と自ら名づけた小さな庵をつくり、食べ物は米と味噌と身欠きニシンがあればいいと言って頓着せずに何日も籠っていたのですが、下男たちに指示して重い石を担がせたまま熟考するため、皆困ったそうです」
現在の山本家には、蓑虫お得意の画題である寒山拾得の掛け軸と、扇子に描いた『百老琴碁書画』という絵と直筆の封筒と手紙が残されている。
「お借りしていた1円を送ります。もしお留守であれば先方に送金してください。送料は私のほうで負担します」
封筒の中にはそのとき借りていた1円札もそのまま残されている。なぜそのままその1円が残されていたのかはわからないが、蓑虫、その生活と変人ぶりからは想像できないほどお金には律儀だったようだ。旅の中の何度かの借金も、その代わりに自分の持っている貴重な書を返礼として渡していたりしている。絵を描き謝礼をいただくことも多かったが、その相場は良心的（※1P　　）。お金に意地汚いという話は調べたところ一つも出てこなかった。

蓑虫山人のすべらない話

今回はいくつか東北での蓑虫のエピソードを披露しようと思う。どれも味わい深いので、ぜひ知ってほしい話ばかりだ。
蓑虫は最後まで旅の中で過ごし、ほとんど色恋や好色な話などは残っていない。結婚もすることも、子を残すこともなかったのだが、実はここ秋田の能代で家庭をもったことがあった。いや「家庭体験」といったほうがふさわしいのだが……。
明治20年、21年頃の話だろうか、その家庭体験の相手は村木スギという女性。蓑虫も世話になっていた表具師・村木惣四郎の未亡人だ。夫が病に倒れ急逝してしまった村木家は困窮し、それを見かねた蓑虫は45日間スギとその



蓑虫山人
（みのむし・さんじん）

本連載の主人公。1836（天保7）年、美濃の国（現在の岐阜県）安八郡結村に生まれる。幕末から明治にかけての激動の時代に、日本60余州を絵筆とともにめぐり、風景から縄文土器の写生など、多くの作品を残した絵師でありアドレスホッパー。夢は日本中の珍物を集めた博物館「六十六庵」の設立

イラスト＝ほちかなた

文＝望月昭秀（もちづき・あきひで）

『縄文ZINE』編集長にしてニルソンデザイン事務所代表。道南縄文応援大使。2015年夏に創刊した、縄文時代をテーマにしたフリーペーパー『縄文ZINE』で、新しい縄文ファンを発掘中。著書に『縄文人に相談だ』（国書刊行会）、『縄文力で生き残れ』（創元社）、『縄文ZINE（土）』（ニルソンデザイン事務所）がある

写真＝田附 勝（たつき・まさる）

1995年よりフリーランスの写真家として活動。2006年より東北地方に通い、撮影を続ける。2011年、写真集『東北』（リトルモア）を刊行、同作で第37回木村伊兵衛写真賞を受賞。近年の代表作に『魚人』（T＆M Projects）、東出昌大写真集『西から雪はやって来る』（宝島社）などがある

気に入った場所があれば、茶を点て一服。蓑虫山人の旅のスタイルに憧れる

『蓑虫山人画記行』（部分）／秋田県立博物館所蔵



「家庭生活というものを一度体験してみたかった」

二人の子どもと生活をともにし、揮毫（※1P　　）など（または自身の持ち物を売却）を積極的に行い村木家に貢いだのだ。スギは昭和13年没、87歳まで生きた。蓑虫は後に「家庭生活というものを一度体験してみたかった」（蓑虫仙人の伝、中村秋香）と、おもしろ話として語っていたようだが、事実はもう少し人情味にあふれていたのかもしれない。ほかにも青森県の鰺ヶ沢に彼女がいたという話が地元に残っていたようだが、真偽は定かでない。

青森での話も多い。少しさかのぼり明治15年頃、当時蓑虫は宮内庁の知り合いを通じて、長慶天皇の古墳の調査をするために浪岡に滞在していた。同じ頃、政府の高官である三条実美（明治22年には内閣総理大臣に任命される）が、天皇陛下の東北巡幸のための実地調査のため東北を訪れていたことがあった。実美はこの地で蓑虫山人の話を聞き、会ってみたいと蓑虫を呼び出したことがあった。そのときのエピソードも奮っている。

いつもの着崩した半僧半俗の着物と変な帽子（※2P　　）であぐらを組みどっかりと座り、三条実美と対面する蓑虫。実美はもともと公卿でもあり天皇に次ぐ高貴な血筋の人物、御付きの者が当然蓑虫を注意する。しかし蓑虫「呼ばれたのはこちらだ。気に入らないなら帰るよ」と、言い放つ。さらに「百人一首のカルタを見てみろ、みんな胡座だぞ」と傲岸不遜。少し前ならあっという間に切り捨てられるであろう案件ともいえる。が、それを聞いた実美が笑って「まあよい、そのままで結構結構」と、なったということが伝えられている。

こんな出来事もあった。青森県中泊での蓑虫、いつものように地元の連中との宴席で、頼まれて、今生天皇との書を書く。床の間に飾ったところ戸長の斎藤清七という人物が、酒に酔い天皇批判をはじめる。その狼藉甚だしく、しまいには部屋の中や窓の外に向けて小便をし出す始末。腹に据えかねた蓑虫は愛用品の　mを超える長煙管で清七の股間を打ってしまった。打ちどころが悪く卒倒し気を失う清七。運の悪いことにその宴席に警察官がいたため蓑虫は捕まってしまう。

この話は紙芝居のように絵日記に描かれている（右下参照）のだが、その顛末を悪口だらけの文章にしているページもありすこぶる楽しい。とはいえこの「しょんべん事件」で蓑虫も反省したようで、股間を打ちつけた自慢の長煙管を中泊の神社に奉納してしまったという（火災により焼失）。

秋田青森ときたら岩手での話も紹介しておきたい。韓人の権東寿と権在寿兄弟にまつわるエピソードだ。明治25年7月10日の東京日日新聞ではこんな見出しが躍っていた。「暗殺者入京の噂」――記事はこう続く。「韓客権東寿なるもの、刻下東海道の旅にあり。彼、大院君（当時の李氏朝鮮国王である高宗の父）の命を受け、金玉均（朝鮮の近代化を目指した活動家）を暗殺せんがため入京するものなりと」。暗殺者が入国という記事が新聞に書かれているのも驚きだが、その暗殺者と何やら楽しそうにしている蓑虫（P2）もどうかしている。結局、権兄弟の指示によってこの暗殺は後に成功し、兄弟は逮捕される（証拠不十分のため釈放）。そしてこの事件は明治27年に起きる日清戦争の導火線となる。

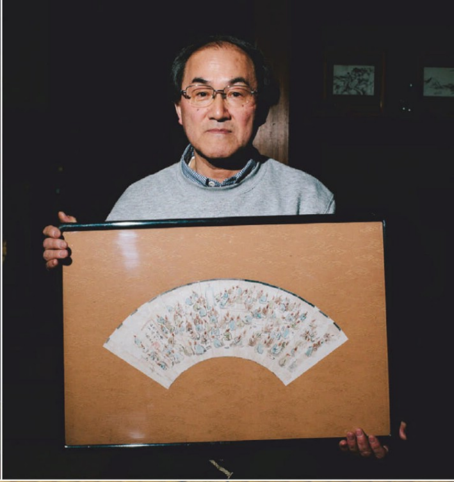
インフルエンサーだった蓑虫

蓑虫が世間に紹介した場所がある。



『津軽富士百景』という名前でまとめられた絵日記から。見よこの傍若無人な斎藤清七の痴態。部屋の中で、2階から小便をまき散らしている。これはひどい。よっぽど腹に据えかねたのか蓑虫は清七のことを、こうこき下ろしてる「屁ヒリテ臭ミヲ知ラヌ津軽者トハコノコトカ」







山本家（上写真）に残された２枚の絵と手紙と一円札（下写真）。内容は「お手紙を差し上げます、寒くなりましたが御安奉の由、お慶び申し上げます。昨年はいろいろとありがとうございます。預けておいた軸など使者に渡してください。近々扇田村でお会いできると思っていましたが、ただいま入り用になりましたのでよろしくお願いします」。達筆過ぎてまったく読めない

キラキラとした投稿ばかりするインスタグラマーとなんら変わらない。

蓑虫山人
MINOMUSHI-sanjin
On the Road





出展：『岩手を旅した絵師の足跡』（岩手県立博物館編）／原資料＝長母寺所蔵

これも蓑虫らしさの詰まった絵日記。岩手の及川右七郎家で正月を迎えるときの話。大みそか、村人たちが集まり蓑虫に面会を求める。口々に蓑虫はほらばかり吹くとんでもない奴だ懲らしめてやる。とか、頼めば絵を描いてくれるようだとか。皆勝手だ。しかし最後には皆で蓑虫の諸国漫遊の話などを聞き大宴会となったということが書かれている。そして村人は帰り、蓑虫と主人の少ししんみりしたよい時間が訪れる



出典：『気仙沼市史』（気仙沼市史編さん委員会／編）

潮吹き岩を遊覧するこの絵に描かれた何人かの人物の一人に、漫才コンビ「サンドウィッチマン」の伊達みきおの先祖・伊達翠雨（すいう）がいる



出展：『岩手を旅した絵師の足跡』（岩手県立博物館編）／原資料＝長母寺所蔵

右側は蓑虫、そして左の二人の人物が、韓人の權東壽（中央）と權在壽（左）兄弟だ。この絵日記が書かれたのは明治27年1月2日。絵日記の上部の文字はこんな意味のことが書かれている。「同じ書を嗜む文人同士、国は違えど楽しいな」ずいぶん呑気な話だ

「猊鼻渓」、岩手県一関市の砂鉄川沿い、日本百景にも数えられ、船頭の猊鼻追分を聴きながらの舟下りで人気の名勝だ。筆者も乗ってみたが、なかなか楽しいひとときだった。蓑虫は地元の名士・佐藤猊巌に頼まれ、猊鼻渓（当時は特に名前がついていたわけではないが）の絵を描き、各地の知識人や文人たちに紹介した。実際にその後から猊鼻渓を訪れる人が増え、いまに至るわけだから、インフルエンサーの役割を担っていたといってもいいだろう。もちろん蓑虫自身もここを気に入り、「これはすごい、かつて見た耶馬渓にも匹敵する」と、大いに感動し、猊巌とともに「東耶馬渓」というキャッチフレーズをつけた。猊鼻渓が現在でも東北の耶馬渓と呼ばれているのは、蓑虫の青春時代の旅が大きく影響している。

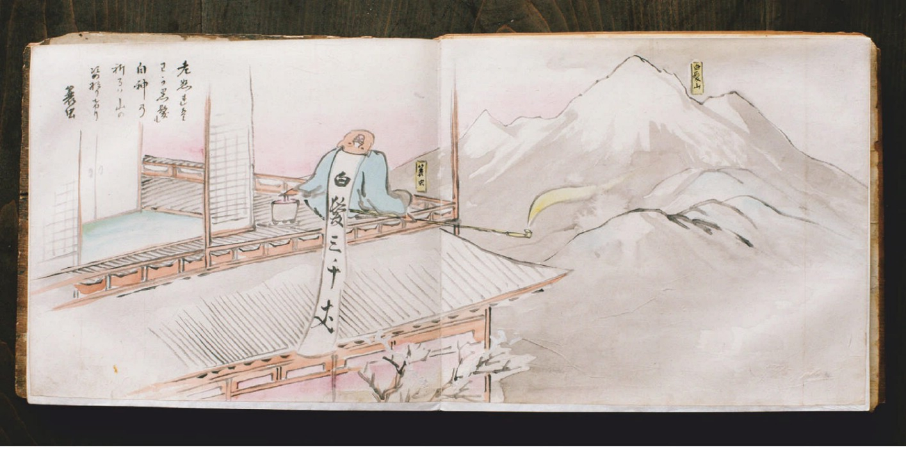
猊鼻渓だけではない、インフルエンサー蓑虫は各地の名勝を積極的に描き続け、それを世間に積極的に紹介し続けていた。当時の蓑虫を知る人の貴重な証言によると、蓑虫は話がおもしろく、またよく通るいい声をしていたということだ。なかなかのプレゼン力があった。

蓑虫は常に自分自身の感動を絵に描き続けていた。特に絵日記では日常の明るい面を描き続けてきた。そういう点でもキラキラとした投稿ばかりするインスタグラマーとなんら変わらない。旅先で出合った風光明媚や人物、驚きと喜び。お世話になった人にはその旅先の風景を掛け軸や屏風絵に落とし込んだ。

よいことばかりを描き続けてきたのにも理由がある。

少年期の家出のきっかけは、母親の病気や死だった蓑虫。その猛烈に攪拌され身体の中に走り回ったであろう若い衝動は、やがて澱となり心の奥底に沈殿していく。14歳からはじまった旅はもうすでに40年を超えた。その間に、岐阜県で職に任命されたり、青森では宮内庁の依頼を受け、岩手県で公園をつくり、各地の名勝の宣伝に尽力し、秋田で小さなだんらんを育んだりもした。地元の名士にも知り合いが多く、その身を落ち着ける機会は何度だってあっただろう。それでも旅を続けた。

蓑虫の生きた時代はいまと比べても、格段に生まれた場所や家柄に縛られていた時代。「軽やかにしがらみを振り払い自分らしく生きた」なんてただのきれい事で、その道程はそれ相当の艱難と辛苦の連続だっただろう。楽しい絵日記のその裏側には、描かなかったこと、描けなかった事柄が道化師の涙



中国の詩人李白の五言絶句「白髪三千丈」が特に気に入っていて、わざわざこんな帽子をつくっていた蓑虫。自分自身の旅の長さや故郷を愁う気持ちでこんな格好をしていたのか、はたまたただのおどけか……。見えるは白神の山々だけど白髪山と表記。ちょっとうまい



能代市の長徳寺所蔵の掛け軸の6連作。テーマはどうやら露天商。瓢箪売り（右写真）、スイカ売り（中写真）、金魚すくいに陶磁器販売の露店等、身近な庶民の暮らしの中からのテーマを見つけ、それを掛け軸に仕上げている。とても楽しい連作

のようにへばり付いている。

思えば絵日記には家族のことは一度も描かれていない。しかし、蓑虫の菩提寺である名古屋の長母寺(ちょうぼじ)が所蔵する遺品の中には自身の母親と父親、父親の正妻の名前の記された簡素な位牌が残されている。家族のことを忘れたわけではなかった。ずっと一緒に旅をしていたのだ。

明治23年5月、蓑虫は東北から再度上京（一度目は3年前、神田孝平に会いに行く）する。東京の上野公園で行われる東京大博覧会（第三回内国勧業博覧会）見物のためだ。蓑虫の夢は博物館をつくること、国のそれとはどんなものか、どれ見てやろうという気持ちもあったかもしれない。前回の滞在同様、東京・神田に20日間滞在し、5月16日に大博覧会を見に行っている。

蓑虫55歳、老境に足を踏み入れながらもまだまだ好奇心と行動力は止まらない。次回は最後の東北の旅になる。

※1 揮毫料（何か描いたとして）としてだいたい50銭ほどで受けていたという。たとえば実際には、「屏風半双、外小襖、あわせて2円」「掛物一枚、外九寸フスマ、合わせて50銭」とかなり良心的な金額だ。当時、実際に蓑虫が泊まった弘前のささき旅館の宿泊料が2食付きで38銭となっている。揮毫料を取らないことも多く、むしろ気に入らなければいくらお金を積まれても描かなかったという

※2 天井のない帽子。蓑虫は自作で天井のない筒のような帽子をよくかぶっていた。これは帽子ではないと言い張り、室内でもどんな貴人の前でも脱がなかったという

「蓑虫山人のオン・ザ・ロード」は隔月連載です。次回は3月号に掲載予定。お楽しみに！

未利用魚を使った五島のフィッシュハムが完成！



さっと焼いて
フィッシュハムステーキに



衣を付けて
フィッシュハムカツに

Tカードのビッグデータを利用し、五島の未利用魚問題に挑む「五島の魚プロジェクト」。小誌でもプロジェクトの発足やメニュー開発の様子を紹介してきたが、このたびついに、未利用魚を活用した「五島のフィッシュハム」が完成し、販売を開始した。

未利用魚とは、サイズが不揃いだったり、魚種がマイナーだったり、一定のロットに満たないといった理由で価値がつかない魚のこと。五島列島は日本でも有数の漁場として知られているが、鮮度保持や輸送コストの問題で都市圏に流通させるのが難しい魚も多く存在する。具体的には「ブダイ」や「ニザダイ」、「アイゴ」などが五島の未利用魚として知られている。

今回の商品は、「ブダイ」をはじめ使われている魚が五島産。つなぎのでんぷんを使わず、さつま揚げやかまぼことはまったく異なる洋風の新食感を実現した。さらにハーブや塩レモン、黒コショウをプラスし、ボローニャソーセージのような風味豊かな美味しさを実現した。袋から出してオリーブ油でさっと焼くだけで、もしくは衣を付けてハムカツにすることで、ビールと相性抜群のプレミアムなおつまみに仕上がる。

サステイナブルな漁業への貢献と、五島の地域活性を目指した「五島のフィッシュハム」。まずはその美味しさを確かめてみては？



11月に行われた新商品発表記者会見の様子。商品開発には、消費者代表T会員、流通、シェフ、生産を担当する五島の食品加工会社など、あらゆるジャンルのプロが参画

素材にこだわった
五島のフィッシュハム

発色剤や保存料、化学調味料、砂糖も無添加。低糖質高タンパクで1個あたり61.1kcalの低カロリー。「マルエツ」や「こだわりや」、浜口水産などで販売。店舗詳細はURLより。https://tsite.jp/r/tcardsocial/goto



焼酎の原型？　『あおちゅう』ってナンダ？

焼酎といえば九州名物のイメージが強いが、伊豆諸島にも味わい深い焼酎が存在する。

江戸時代、薩摩から八丈島に焼酎の蒸留技術が伝えられて以来、伊豆諸島には焼酎造りが根づく。中でも特に独自の発展を遂げるのが青ヶ島の「あおちゅう」だ。

野生酵母を使う酒造りは昨今多くあるが、あおちゅうでは、なんと麹まで野生の菌を使う完全天然発酵。また焼酎が自家醸造されていた時代と製法を同じくするドンブリ仕込で造られており、あおちゅうを知ることは、すなわち焼酎のルーツをたどる側面をもつ。

土地の歴史や風土を知った上で、実際にその土地で飲む酒ほど旨いものはない。特に生産量が少なくめったに島外に出回らない「あおちゅう」こそ、青ヶ島の現地で飲む価値がある。他地域の芋・麦焼酎にはない、花の蜜やフルーツのような香りと強い酸の風味を現地で味わいたい。



1

※培養された種麹や酵母を使う銘柄もある



3



2

1）各家に伝わる製法で造られるあおちゅうには杜氏の名前が冠されたものも。現在杜氏8人が活躍中。2）二重式火山カルデラや美しい星が見える絶景の島として知られる青ヶ島。3）島内に自生する「オオタニワタリ」を利用し麹造りを行う

「あおちゅうツーリズム」プロジェクトが進行中！

青ヶ島の焼酎「あおちゅう」をテーマに島々をめぐるツーリズムはいかが？
その内容はDiscover Japanウェブにて近日紹介予定。
https://discoverjapan-web.com

富山から生まれる最先端

「3　m級の立山連峰と、水深　mの富山湾に囲まれた富山は、まさにアウトドアのフィールドそのもの。リアルな実験場です」

そう語るのは、富山県小矢部市にあるゴールドウインの「テック・ラボ」中村研二部長。ゴールドウインは、ザ・ノース・フェイスなど海外の名だたるブランドの日本展開を手掛ける会社。だが単に輸入をするわけではなく、独自の技術で製品を開発し販売まで行うメーカーだ。

「津澤メリヤス製造所」という富山の町工場からはじまり、　年の東京五輪を機に現社名に改名、ラグビーワールドカップの代表ジャージは、　年から担当する。

「テック・ラボは開発から製造化までに必要な全機能を備えています」

富山から生み出される最先端のものづくりに注目。

原稿は11月26日（火）に日本橋とやま館で開催されたクリエイターズトークより構成





上）会場にはラグビー日本代表のジャージが展示。下）中村さんと限定発売されるクモの糸から着想した構造たんぱく質の素材を使ったダウンジャケット

次回予告

スタジオ地図・プロデューサーが語る細田作品

世界から注目を集める映画監督・細田守氏と、『時をかける少女』（2006）以来、二人三脚で作品制作に取り組んできたプロデューサー・齋藤優一郎さんが今回のゲスト。齋藤さんは、『おおかみこどもの雨と雪』（2012年公開）制作時に細田守監督作品の制作拠点としてつくられた会社「スタジオ地図」の代表取締役でもある。今回は、監督の一番近くを伴走してきた齋藤さんだからこそ知る、作品制作の背景をお話いただく。細田作品は世界からどう評価されているのか？　ファン必聴！



スタジオ地図・齋藤優一郎

クリエイターズトーク Vol.38

開催日：12月20日（金）
時間：19:30 ～ 21:00（予定）
会場：日本橋とやま館　住所：東京都中央区日本橋室町1-2-6 日本橋大栄ビル1F
料金：1500円（富山の地酒とおつまみ付き。定員30名）
http://eventregist.com/e/toyama38

文＝編集部　text: Discover Japan

Discover Japan
ZEKKEI PROJECT

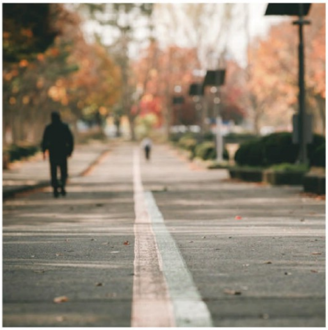
Instagram連動

絶景プロジェクト

あなたの写真が誌面に載るかも⁉

今月のテーマ
「初冬」

月ごとに移り変わるニッポンの景色。Discover Japanでは、Instagramを利用する読者の皆さんに、日本の絶景を撮影した写真を投稿いただくフォトコンテストを毎月開催。まだ見ぬニッポンの絶景を集めます！



Place
岩手県／岩手県営運動公園

@mooomin1130

「変わらない道、変わる風景を写したくて道にピントを当てて撮影しました。さらに寒さが増し、別の表情を見せてくれるときが楽しみです」



Place
長野県／高ボッチ高原

@terada223

富士山の人気撮影スポットである高ボッチ高原。「朝雲に諏訪湖が覆われたその先に、オレンジ色に照らされた富士山が望めて絶景でした」



Place
山梨県／富士山

@miko0201

山間の里山にある桜の老木と、遥かに望む富士山。「冬が間近に迫り、霧の中で朝日を浴びて鈍く輝く富士の様子が、とてもすてきでした」



Place
東京都／青の洞窟
@yu_tern7

「どこまでも続くような青の世界に、思わず見惚れてしまいました。寒空の中人々で賑わう光景が、クリスマスを連想させます」



Place
東京都／国営昭和記念公園
@pucchii_k

昭和記念公園のイチョウ並木は、まさに“黄金のトンネル”。「寒い夜でしたが、そこには温かい雰囲気の絶景が待っていました」



Place
徳島県／奥祖谷
@makoto_brz

日本有数の秘境といわれる奥祖谷の二重かずら橋。「色づいた葉はすでに散り、冷たい風が吹くこの時期は冬のはじまりを感じます」



Place
岐阜県／金華山
@kocatka

標高約200m地点から見下ろす達目洞の森。「雨上がりの朝、山向こうには大雲海が現れ、貴重な地元の絶景を堪能できました」

応募要項

毎月テーマに沿った写真をInstagramで投稿いただき、編集部が選定。
Instagramと誌面にて発表及び掲載させていただきます。

☑ 季節の絶景写真（過去に撮影した写真でもOK）
☑ ハッシュタグ「**#DJ絶景プロジェクト**」を付けて、下記項目とともに投稿してください

- キャプション（その写真を選んだ理由、場所の感想等）60字程度
- 撮影場所
- 撮影月
- 可能な場合は、データサイズ（2.3メガバイトなど）

次回、12月の募集テーマは
「年末年始」

応募締切
2019年12月18日（水）21:00

日本を再発見するためには、旬な情報にも敏感でありたいもの。
知っておきたい耳寄りな情報、お届けします！

FOOD

富山の地酒10種で体験！ 新酒きき酒会



東京・日本橋にある富山県のアンテナショップ・日本橋とやま館にて、10種の地酒を飲み比べするイベントを開催。この時期に首都圏では出回らない富山の新酒を、解説員による話を聞きながら味わえる。日本酒好きならばぜひ参加しておきたい。

富山の地酒（新酒披露）きき酒会

開催日：12月19日（木）　開催場所：日本橋とやま館 バーラウンジ　住所：東京都中央区日本橋室町1-2-6　時間：18:00～19:30　料金：2500円（おつまみ付）　申し込み方法：下記ウェブサイトより
Tel：03-6262-2723　https://toyamakan.jp

FOOD

人生最高のお餅体験を。 絶滅寸前の伝統製法でつくる、唯一無二のお餅





日本を代表する伝統食である餅のアップデートを目指したブランド「THE OMOCHI」が発表された。第1弾は、宮城の老舗餅店の伝統製法を生かし、釜と薪で蒸した餅米からつくられた餅。高級餅のマーケットをつくり、美味しい餅をつくる職人の技術継承を目指す同ブランドのウェブサイトでは、高級餅ならではの食べ方や餅の可能性を広げるレシピも公開中。この年末年始は“究極の餅”を味わおう。

THE OMOCHI

価格：切り餅1320円（10枚入）～
販売場所：オンラインショップ
Tel：022-345-3209
https://theomochi.com

SPOT

文人に愛された稲住温泉が復活 露天風呂で冬景色を望む



秋田県最古の温泉地・秋の宮温泉郷の名宿「稲住温泉」が、新たに上質な湯宿として復活。離れ「天の坐」には源泉かけ流しの客室露天風呂が備わり、四季折々の景色が愉しめる。泉質のよい温泉と目の前に広がる雪景色に、身も心もほぐされて。

秋の宮温泉郷 湯けむりの宿 稲住温泉

住所：秋田県湯沢市秋ノ宮字山居野11
料金：1泊2食付2万4000円～（入湯税別）
Tel：0183-58-1300
www.hotespa.net/resort/hotellist/inazumi

SPOT

新たな都市生活を提案 ミニマルだけど上質な宿泊体験



東京・馬喰町にホテルの在り方を再定義するホテルが誕生。館内はシンプルながらも洗練された雰囲気をまとう。併設する施設では、アートギャラリーやカフェ&バー、不定期でスターシェフによるイベントも実施。宿泊の最先端を体感しよう。

DDD HOTEL

住所：東京都中央区日本橋馬喰町2-2-1
料金：1名1室1万円～
Tel：03-3668-0840　http://dddhotel.jp

EXHIBITION

海抜250mに「天空駅」が出現!? 過去最大級の体感型鉄道展



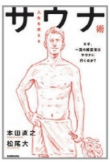
日本各地の鉄道会社が六本木に集結。鉄道が夜空や目の前を走っているかのような体験ができる天空駅や国鉄時代の駅の再現、時刻表や制服の展示、ご当地駅弁など、大人から子どもまで楽しめそうだ。

特別展 天空ノ鉄道物語

会期：～2020年3月22日（日）
会場：森アーツセンターギャラリー&スカイギャラリー
住所：東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー52F　時間：10:00～20:00（火曜日は～17:00）
※入館は閉館の45分前まで　料金：一般2500円、大高生1500円、中学生以下1000円
Tel：03-5770-8600　www.tentetsuten.com

BOOK

ビジネスも、人生も すべてサウナでうまくいく！



世界の食とサウナをめぐって旅をする経営者・本田直之氏と、“ととのえ親方”ことプロサウナー・松尾大氏。“サウナシュラン”の立ち上げなど、今日のサウナブームを先導してきた二人が教える、“ビジネスに効く”サウナ術。

『人生を変えるサウナ術 なぜ、一流の経営者はサウナに行くのか?』

価格：1540円
著者：本田直之、松尾 大
発行：KADOKAWA

SPOT

伝統を受け継ぎながら 新たな風を吹き込むホテル



自然と伝統文化が息づく城下町、佐賀県唐津。その玄関口となる場所に、新たなホテルが誕生した。唐津焼の窯元をめぐったり、映画を観たり、コワーキングスペースで働き、時には海岸や唐津城を散歩したり……。新たな滞在が体験できる。

HOTEL KARAE

住所：佐賀県唐津市京町1783
料金：ドミトリー3500円～
Tel：0955-53-8068　www.hotelkarae.com

SPOT

美食の街・麻布十番で 刺激的な大人の滞在を



飲食店やバーの名店が軒を連ねる東京・麻布十番に、大人を惹きつけるホテルが誕生。東京タワーを望む最上階のメインバーではオリジナルカクテルが楽しめるほか、週末にはDJイベントを開催。スタイリッシュな宿で東京の夜を満喫しよう。

THE LIVELY 麻布十番

住所：東京都港区麻布十番1-5-23
料金：2名1室1万8000円～
Tel：03-6804-3691　www.the-lively.com/azabu

PRODUCT

アシックス×隈 研吾
竹細工の伝統技法に着想を得たスニーカー

アシックスと建築家・隈研吾氏のコラボシューズが発売される。より少ない力でランニングを楽しむことをコンセプトに、環境に優しい建築を目指す隈研吾氏のアイデアを落とし込んでいる。テープ状の素材が重なり合うアッパーは、伝統的な竹細工技法「やたら編み」から着想。内側のニット素材とともに足をしっかりホールドするよう設計されている。ミッドソールの木材由来の素材が、柔らかなアクセントを添える。



メタライド アム

発売日：12月20日（金）　価格：3万9600円　サイズ：23.0～29.0㎝（0.5㎝刻み）、30.0㎝、31.0㎝
販売場所：アシックス原宿フラッグシップ、大阪心斎橋、大阪リンクス梅田、オンラインショップ
問：アシックスジャパン　Tel：0120-068-806　www.asics.com

PRODUCT

国産カモミールが
家族の肌を優しくいたわる

国産カモミールを使用したスキンケアブランド「華密恋」から、デリケートな赤ちゃんにも安心して使える新ラインが登場。カミツレエキス100％の沐浴料とシアバターや植物オイルを配合した保湿乳液は、家族みんなの肌を優しく整えてくれそうだ。



華密恋 カミツレンベビー

価格：バスエッセンス1760円、ミルクローション2860円　対象年齢：0ヵ月～　販売場所：華密恋オンラインショップ、八寿恵荘　問：カミツレ研究所
Tel：0120-57-8320　www.kamitsure.co.jp

PRODUCT

ロウ加工で"雪化粧"
土屋鞄の限定コレクション

1965年創業の土屋鞄製造所がクリスマス限定コレクションを発売。白い雪のように表面を覆うロウと革の豊かな表情が特徴のレザーアイテムは、年に一度の特別な時間に彩りを添える。ロウが馴染んでいくことで生まれる表情の変化を楽しんで。



フロスチア

価格：Lファスナー1万3200円、ファスナーペンケース1万3200円、ブックカバー1万7600円
販売場所：土屋鞄製造所 各直営店、オンラインショップ　Tel：0120-907-647
www.tsuchiya-kaban.jp

PRODUCT

産業廃棄物で作る
レザーウォレット

革製品を中心としたブランド「エイチ.カツカワ」から、新シリーズが登場。食肉加工の過程で出る牛や豚の原皮を天然由来のなめし剤で仕上げた"ニベレザー"を使用。自然のものと対極にあるPVC端材と組み合わせた。ニベレザーの独特な風合いを楽しんで。



ニベレザー 産業廃棄物 ウォレット スモール

価格：8800円
カラー：ベージュ、ホワイト、ブラック
販売場所：ブリフトアッシュ、オンラインショップ
問：ブリフトアッシュ
Tel：03-3797-0373　https://brift-h.com

BOOK

日本が誇る鹿の楽園
奈良公園の奇跡に出合う

年間約1300万人が訪れ、"DEER PARK"の愛称で海外観光客からも親しまれている奈良公園。めくるめく季節の中、1000年以上もこの場所で鹿たちは人間と共生している。鹿と自然が織りなす情景から、奈良公園の魅力が伝わる一冊。



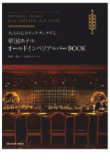
『DEER PARK 世界でここにしかない奇跡の場所』

著者：佐藤和斗
価格：2970円
発行：青菁社

BOOK

大人の心をメンテナンスする
オールドインペリアルバーの軌跡

50周年を迎える帝国ホテル 東京館内の「オールドインペリアルバー」。近代建築の三大巨匠の一人、アメリカ人建築家フランク・ロイド・ライトが設計した帝国ホテル旧本館の歴史をひも解きながら、現在に至るまでの物語を紹介した一冊。



『～大人の心をメンテナンスする。～
帝国ホテル オールドインペリアルバーBOOK』

著者：内野一郎　価格：1980円
発行：プレジデント社

BOOK

新たな東京を知る！
奥東京人たちのポートレート

"変わらない東京"を求めて東京の周縁へ逃げ込むと、東京の奥地もまた、あらゆる面で変容していた。変わりゆく風景の奥底に見つけた、東京の変わらない部分とは？　知っているようで知らなかった東京の魅力を探る。



『奥東京人に会いに行く』

著者：大石 始
価格：1870円
発行：晶文社

BOOK

天空の集落を撮り下ろした
写真家のまなざしに注目



瀬戸内国際芸術祭の公式カメラマン・宮脇慎太郎氏が、日本三大秘境のひとつとされる徳島県祖谷の景色とそこで生活する人々を記録した作品集。霧の中の風景に光を求めた写真家の、美しくも懐かしさを感じる写真が満喫できる一冊だ。

『霧の子供たち』

著者：宮脇慎太郎
価格：2420円
発行：サウタージ・ブックス



写真家 荒木則行

鳥取県大山町

No.012 風 景 を 研 ぐ ―――― 凍てつく夜に瞬く光



各地の絶景写真が
アプリで見られます

PROFILE

あらき のりゆき

愛媛県生まれ。東京工芸大学卒業。カメラマンアシスタントを経てフリーランスに。現在、写真雑誌を中心に活動中。名所旧跡から自然風景、ドローン撮影まで精力的に行う

標高の高い山々は、冬の気配を“積雪”によってふもとの人々に知らせてくれる。私が冬の訪れを感じるのは、中国地方の最高峰・大山の初冠雪を目にするときだ。この写真は、秋の終わり、寒気の流入を知って大山へと向かい撮影したもの。車を走らせ標高を上げていくと、森は徐々に色を失い、冬を感じさせてくれる。車を止め外に出ると、空気は冷え込んでいた。白い息を吐きながら山の峰を見てみると、月明かりに照らし出された初冠雪の大山。それを見つめるように星々が瞬いていた。

お菓子研究家　福田里香の

民芸お菓子巡礼

第85回　石川県金沢市
落雁 諸江屋の「福徳煎餅」

文＝福田里香　写真＝馬場わかな
text: Ricca Fukuda　photo: Wakana Baba

福田里香（ふくだ・りか）

お菓子研究家。書籍や雑誌を中心に活躍。8年間にわたり続いている本連載をまとめた書籍『民芸お菓子』が小社より発売中







上）12～1月上旬限定販売。打ち出の小槌、福袋をかたどった煎餅。右）土人形の打ち出の小槌、布袋さん、狛犬、福鳩、お稲荷さん、加賀八幡起上り。金華糖の勇み鯛、招き猫、大黒さん。下）宝船の熨斗紙。9個箱入り2970円

data

落雁 諸江屋

住所：石川県金沢市野町1-3-59
Tel：076-245-2854
営業時間：9:00～19:00
定休日：元日
http://moroeya.co.jp

「落雁　諸江屋」の「福徳煎餅」は、金沢の伝統的な正月菓子です。おめでたい俵や打ち出の小槌、福袋をかたどった煎餅皮を割ると、中には金華糖や土人形などのミニチュア版民芸玩具が入っていて、そのモチーフは約30種類と多彩。新春の席で楽しむ遊びの要素が色濃く、皆で割れば、祝賀気分が盛り上がること請け合い。割った煎餅はお汁粉に入れたり、チーズを塗っても美味しい。

実は諸江屋は民藝運動にも縁が深いのです。民藝の創始者の柳宗悦、陶芸家の濱田庄司に続いて、日本民藝館の代目館長に就任したインダストリアルデザイナーの柳宗理は、木製の菓子型に用の美を見出しました。宗理は在任中　回も民藝運動の機関誌『民藝』で「「世界の菓子型」、「日本の菓子型」などの特集を組み、大規模に菓子型を集めた企画展も開催しました。

年　月号の巻頭特集は「加賀の菓子型」でした。これらの特集や展示に協力し、数多くの菓子型を貸し出したのが諸江屋です。菓子型を展示した本店隣の「諸江屋落雁文庫」も必見。

次号予告

世界に愛される ホテル&名旅館を 知っていますか？

いま日本はホテルの開業ラッシュ！　アマン京都、パーク ハイアット 京都、ハレクラニ沖縄など話題に事欠きません。個性際立つスモールホテルにも注目です。
また、日本の美意識が凝縮した宿泊形態・日本旅館の神髄について迫る企画も収録。
ホテルや旅館に泊まることを目的にした旅のスタイルは広がっていっています。
そんな日本の“泊まる”を愉しむためのヒントが満載の特集になります。

2020年1月6日発売予定

統括編集長
高橋俊宏　Toshihiro Takahashi

プロデューサー
林　尚史　Naofumi Hayashi

別冊編集長
吉田健一　Kenichi Yoshida

副編集長
今　智子　Tomoko Kon

CAP
渡邉一平　Ippei Watanabe
武山直生　Naoki Takeyama

編集部
中野和香奈　Wakana Nakano
中森葉月　Hazuki Nakamori
髙橋香織　Kaori Takahashi
田中理世　Rise Tanaka

コンテンツプロデュース
吉住悠佑　Yusuke Yoshizumi
小穴啓介　Keisuke Oana
横山　凜　Rin Yokoyama
佐藤　萌　Megumi Sato
宮地菜月　Natsuki Miyaji

Business Development / PR
鈴木悠希　Yuki Suzuki
別府大河　Taiga Beppu

Art Director
千葉直樹　Naoki Chiba
Ophelia Design Studio.

Designers
村上圭以子　Keiko Murakami
市川沙耶　Saya Ichikawa
曽根優可子　Yukako Sone
麻生愛　Ai Aso
鈴木みゆ　Miyu Suzuki
PEACS Inc.

千葉美穂　Miho Chiba
Ophelia Design Studio.

DTP Section
大野如子　Naoko Ono
PEACS Inc.

Proofreader
伊藤剛平　Takehira Ito
山田佑美　Yumi Yamada
松浦まゆ　Mayu Matsuura
PEACS Inc.

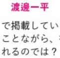
発行人
齋藤健一　Kenichi Saito

発行・発売
株式会社ディスカバー・ジャパン
〒108-0073　東京都港区三田3-4-18 二葉ビル11F
代表　Tel：03-6812-9791
編集部　Tel：03-6812-9793
コンテンツプロデュース部　Tel：03-6812-9792
販売　Tel：03-6804-3028

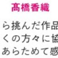
印刷所　大日本印刷株式会社
Printed in Japan

編集部では皆さまからの情報・ご意見・
ご感想などをお待ちしております。
https://discover-japan.co.jp

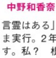
編集後記



渡邉一平
今回、幾度となく双雲さんに取材をさせていただいたのですが、いつも元気で笑顔な姿で出迎えてくれました。小誌で掲載している作品（P16～）の迫力もさることながら、彼の人間性に人々は引き寄せられるのでは？　かく言う僕もその一人……。



髙橋香織
「楽」、「感謝」。この1カ月、パワーみなぎる双雲さんのアート作品を目に焼きつけ、ときに気持ちを奮い立たせながら挑んだ作品ページ（P163～）は、本当に多くの方々に協力いただきました（泣）。いまあらためて感謝の気持ちでいっぱいです。



中野和香奈
双雲さんとは4年前、「夢」をテーマにした取材（P24）でお会いしました。当時「実現したいことは紙に書くといい、言霊はある」と双雲さん。私と同僚はすぐさま実行。2年後、同僚は見事に夢をかなえます。私？　根拠はありませんが来年あたり。

Discover Japan

Discover Japan

◀◀本ページ以降は左開きです。
最終ページからお読みください。



作品番号 7036

作品名は「楽月（ラッキー）」。月が造形として際立っているが、右に花びら、裏側には口がたくさんついており、「楽」の“白”の横にある二画分を表現。Souun♡はよく喋る。ということは、これも自画像か。そういえば墨生もいる。（プロデューサー）

サイズ：SP
参考価格：550万円



作品番号 **7059**

タイトルは七福神ならぬ「七楽神」。独特な双雲ブルーを絶妙な色使いで分ける。左奥から、楽観、お気楽、極楽、楽勝、音楽、道楽、快楽の神と屏風を添えて。

サイズ：SP　参考価格：385万円



作品番号 **7053**

上から見ると「楽」という文字になっている。アブストラクトの文字は二次元だけでなく、三次元になっても限界がない。そもそも「書」の時から、立体（三次元）を意識して書いている。奇妙な「楽」の陶器の物体は、いまも増殖し続けている。（プロデューサー）

サイズ：XL
参考価格：198万円

陶芸

Pottery

双雲ブルーで表現する立体的なアート作品

Souun♡が陶芸作品を制作したら、どんなものが生まれるのだろうか。そんな疑問から2018年から制作をはじめたという陶芸作品は「触ることのできる文字」として、色だけでなく、かたちにもとらわれない書が誕生した。

Souun Blueとは

心を癒す藍色をほうふつとさせる日本独特のブルー。地球、宇宙（そら）、空、海にも現れる、深く、優しい青に「雲」や「波」のようなかたちのない白が混じる、それがSouun Blueである。



作品番号 7068

アート作品を描いていた際に自然にでてきたという、Souun♡自身の姿を現したキャラクター「墨生くん」が立体的な陶芸作品として誕生。サイズはＳ～Ｌの4種類を展開。

サイズ：墨生Ｌ
参考価格：55万円



作品番号 7009

陶芸は現代アートのSouun♡ではなく、武田双雲としてはじめた。陶芸の作品化は、これまで培ってきた双雲ブランドを守るという覚悟がいるチャレンジ。そうして「覚悟の山」という作品が生まれた。（プロデューサー）

参考価格：要問合せ

スーパー書画

Super calligraphy

書と美術の融合作品

日本美術において、源氏物語などの作品は「書画」に位置づけられる。Souun♡はそこに新たな時代性としてアニメソング、キャラクター、セリフ、メッセージの4要素を取り込み、誕生したのがスーパー書画なのである。



作品番号4937



作品番号4940



作品番号4934

上の作品は「スーパー書画」開発においてのトライアル。いずれも、Souun♡自身が楽しむために描いた作品だ。そのためスーパー書画に〝オクシモロン〟というシリーズコンセプトも誕生した。オクシモロンとは、たとえば「公然の秘密」といった相反する2つのことが同居することをいう。武田双雲はサンプルがあれば、筆で一発描きでも完璧にまねる。しかしそれがないとその造形は脳裏から消え去るのだ。それぞれが何かのキャラクターなのだが、驚くほど下手くそだ（笑）。上手いのに下手。ヘタウマではない、正真正銘の両者。（プロデューサー）

非売品



作品番号 118

きらめきをまといながら、優雅に美しく女性が舞う。楽しい楽しい、と喜びの舞を舞う。金粉と墨汁、ペンキが三位一体となり、極上の舞になる。楽の真骨頂がここに。

個人蔵



作品番号 375

「星の誕生」。吹き付けたスプレーが星をちりばめたような宇宙感を際立たせる。漆黒のブラックホールは吸い込まれそうなリアル感。天空を漂う文字たちに願いを込めて。

個人蔵



作品番号 62

「月でダンス」。海外旅行をするように気軽に月へ行ける未来が見えている。無重力の月で、クレーターを舞台に踊ってみたい。お相手は、ウサギ？　それとも宇宙人？

個人蔵



作品番号 374

暗黒の空に浮かぶ、象形文字のようなぼんやりとした三日月に、神秘的なラピスラズリの日が寄り添う。タイトルはズバリ、「日P月で明」。暗い夜空が、ぱぁっと明るくなった！

個人蔵



作品番号 78

大好きな場所。七里ガ浜の丘から見た大海原、夕日。それらを見てともに感動してくれる仲間をイメージ。色を立体的に重ね、新たな夢も広がりそうなエネルギーに満ちた一枚。

サイズ：F20（727×606㎜）
参考価格：132万円



作品番号 353

植物のもつ力、不思議さにインスパイアされて描いた作品。最新の科学技術をもってしても、植物はわからないことだらけ。植物は一生好奇心をもって見ていられる存在なのだ。

サイズ：M30（910×606㎜）
参考価格：198万円



作品番号105

周りに合わせていつも人の目を気にしている自分自身。きれいな色だけを重ねて、何となく楽しいという方向へ！　花まるは子どもの頃から全肯定してくれた両親への気持ち。

サイズ：F8（455×380㎜）
参考価格：66万円



作品番号91

水性顔料インクのサインペンや水彩絵の具、ラメなど多彩な画材でひたすら点を描いた。カラフルシュガーをちりばめたアイスクリーム？　タイトルは「咲き誇る楽」。

個人蔵



作品番号96

「楽しいがいっぱい」。ミクロとマクロが交差する異文化の世界観。赤人も黄色人も緑人も万歳したり、肩を組んだり、手をつないだり……どこか楽しげな世界。

個人蔵



作品番号367

床に絵の具がこぼれてしまったら、まずは上からキャンパスを被せて混ぜてみる。遊び心から生まれた「楽山登山」。文字通り、楽に楽しく山登りができそうだ。

個人蔵



作品番号345

あの日の花火。彼女と一緒に見た花火。そのとき、人生ではじめてプロポーズをしたあの日をイメージしたという唯一の作品。中央には「楽」の文字に「好きだー」の書が。

サイズ：F8（455×380㎜）
参考価格：66万円



作品番号197

楽細胞の末端にある小さな素粒子を濃淡のあるカラフルなサインペンのみで描いた「楽の素粒子たち」。賑やかにくっついたり離れたり。ファクトリーに行く準備はできている。

個人蔵







作品番号 63

「植物の根」。黄色と赤の太陽と、地球のエネルギーを受ける植物が緑の大地に根を張る。3色の配置が、どっしりとした安定感を与え、みなぎるパワーに圧倒されそうだ。

サイズ：F20（727×606㎜）
参考価格：132万円

作品番号 424

優しかったあの雄大な景色、楽しかった思い出を描いた作品。はっきりした色を用いながら、それはおのずと海や夕焼け、空をぼんやりと連想させる。

サイズ：F40（1000×803㎜）
参考価格：264万円

作品番号 277

僕らの中に眠るエネルギーはとんでもない。僕らは可能性の塊であることを一枚に。アクリル絵の具をダイナミックにキャンバスにぶつけ、はじけ飛ぶエネルギーを金箔で表現。

サイズ：F30（910×727㎜）
参考価格：198万円







作品番号 120

水の大循環をテーマに雲をイメージした作品。水しぶきを上げて流れ落ちる滝が渓流へ注がれる。赤や青などの絵の具に、ラメの輝きが異彩を放ち、幻想的な世界へ導く。

個人蔵

作品番号 70

どんどんヒラメキが誕生するときをイメージ。あらゆるアイデアや希望が次々と浮かび上がり、世界に広がってゆくさまを、花火のような「楽」の文字で示している。

サイズ：F20（727×606㎜）
参考価格：132万円

作品番号 468

テープを用いて描いた直線を生かした作品。部分ごとに色や素材を変え、直線と自身の手のひらで模様をつけるなどの方法で、「楽」の無限ループを表現している。

サイズ：F40（1000×803㎜）
参考価格：264万円







作品番号２３３

世界中が地球を舞台に感謝の踊りで過ごす日を表現。アクリル絵の具を上から垂らしたり、手で直接キャンバスに色をつけてみたり。さまざまな「愛」が舞い踊っているかのよう。

サイズ：F30（910×727㎜）
参考価格：198万円

作品番号３２１

タイトルをつけるならば「一粒万倍」。ひと粒から一万の実を実らせる生命体をイメージし、小さな一歩は偉大なる道へつながっているんだというメッセージが込められている。

サイズ：F50（1167×910㎜）
参考価格：330万円

作品番号４０９

気持ちよく、リラックスできているときの感覚を一枚にしたという作品。自分と自分以外の境界線が消えていき、エネルギー体として次元を超えていく感覚を多彩な色使いで表現。

サイズ：F8（455×380㎜）
参考価格：66万円







作品番号３５２

何色もの画材を、メイクブラシなどのいろいろな筆を駆使して表現した「楽の多様性」。小気味よいテンポの作業が楽しくて、いつやめるべきか悩ましかったほどの力作。

個人蔵

作品番号２１７

不確定性原理を表現。愛を認識した瞬間に粒子は現実として確定することを、中央の赤い丸で表しており、かすれたように塗られた七色と強弱をつけたコントラストが素晴らしい。

サイズ：F50（1167×910㎜）
参考価格：330万円

作品番号９４

アクリル絵の具と墨汁を指で重ねていった作品。（Souun♡）モネのよう。モネは水面とそこに浮かぶ水連を描きましたが、これは楽園に浮かぶ「楽」。（プロデューサー）

サイズ：F6（410×318㎜）
参考価格：55万円

七色

Seven colors



作品番号 130

江の島の橋から見える不思議な夕焼けを見たときの情景をイメージ。全身鳥肌が止まりませんでしたとSouun♡。本当に天使が現れたように感じたという気持ちを、縦横無尽に描かれた線で表現。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円



作品番号 74

空を赤く染めながら群青の海に沈む太陽を描いた「七里ガ浜の夕暮れ」。海と空と太陽がひとつになる瞬間は、自然界が織りなす偶然の美。美しくもはかない日没の瞬間をとらえた作品だ。

サイズ：F20（727×606㎜）　参考価格：132万円



作品番号 87

「妻・レイコ」。おとなしく控えめな妻の新しい側面を、生け花をモチーフに描いた作品。妻はものすごいエネルギーを秘めている。そんな妻を自分だけが知っているのが楽しくてたまらないのだ。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円



作品番号 223

森の力、エネルギーを象徴する緑色は、癒しの色。まるでスポーツをするように、果敢に激しく刷毛で挑む。何度も何度も重ねて生み出された色には魂が宿る。そんな作品タイトルは、「全身全霊」。

個人蔵

緑

Green



作品番号 162

木製キャンバスに描かれた見返り美人。うっすら赤みを帯びた流し目に、すましたようなおちょぼ口。うっとりと恍惚感に包まれた美人画のタイトルは、「最幸」。三部作のひとつ。

個人蔵



作品番号 79

「楽波紋」。円が重なり合って輪になるように、目に見えないけれど楽しさで心が広がっていく様子。子どもの頃から大好きだった、水たまりに小石を落とすときの感覚のようだ。

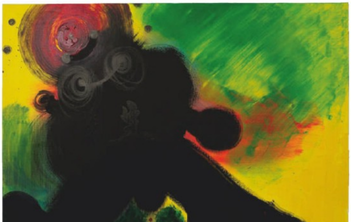
サイズ：F20（727×606㎜）
参考価格：132万円



作品番号 328

テーマは地球における生命誕生。銀河系の端っこにある小さな星、地球で起きた奇跡。下部分は土、上部分は空、緑の部分は木を連想させ、壮大なる物語が一枚に。

サイズ：P50（1167×803㎜）
参考価格：330万円



作品番号 216

黒い謎の生命体が、大地を踏みしめている。それは、大いなる志を抱いて愛の種を落としているのだ。書道家ならではの力強い「払い」が見事。うっすら顔も描かれており、その姿が愛くるしい。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円



作品番号 364

有限な世界しか知り得ない人間にとって、無限とは一体どういうことなのか。他分野から考察の対象とされる無限大問題がテーマ。限界をもたない楽しい世界が墜ちていく……。

個人蔵



作品番号 97

山や空、雨などの自然の大循環がテーマ。黄色と墨汁を混ぜた黄土色の大地から、ニョキニョキと空に向かって伸びる森羅万象。ネガティブな感情を自然に受け入れる。

サイズ：F8（455×380㎜）
参考価格：66万円



作品番号 189

太い一本の字に、光が集まっているかのような一枚の絵。自我は消え、光と一体になるイメージ。ゴールドのペンキで描かれた背景と白、黒の組み合わせがエネルギッシュ。

サイズ：F50（1167×910㎜）
参考価格：300万円



作品番号 101

「希望」。闇と光を表現した、黄色から緑色、墨色へのグラデーション。闇ではエネルギーの種が、光に満ちた希望の魂を吸い取り、養分をため、丸々と太っている。

個人蔵



作品番号 349

有彩色の中で一番明るいといわれる黄色。見ているだけで心弾む黄色の朗らかさをイメージした「愛の種」。卵黄のようなこっくりとした黄色の中で、真っ赤に燃えている。

個人蔵



作品番号 361

「感謝とNOTICE」。誰しも言葉に出さなければ伝わらない思いがある。いまの自分があるのはなぜだ、どうして自分はここにいる？　と、気づけば感謝がわいてくる意味をもつ。

サイズ：F10（530×455㎜）
参考価格：77万円



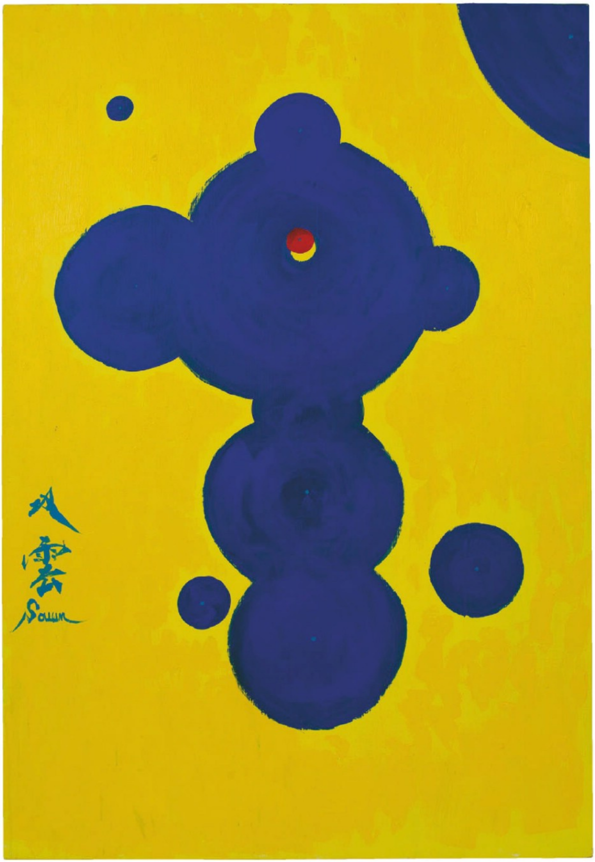
作品番号 00

茶色の額縁付きのこの作品は、色紙に油絵の具で描いた作品。「叶」の文字を連想させる模様と、ベースに黄色を使うことで、確定性原理における幸せの確定を表現している。

個人蔵

黄

Yellow



作品番号 224

青と黄のコントラストが美しい作品。イメージは「楽」分子が体中を泳いでいる様子。細胞も菌たちもみんな喜び、平和になる。その調和エネルギーはさらに周りの人々を楽しませ、楽にしていく。

サイズ：P50（1167×803㎜）　参考価格：330万円　「P」

Producer comments

フォルムが明確であるにも関わらず、文字はアブストラクトという、傑作。そして、擬人化もされている「楽」は、なぜか少し上を見ている。しかし、「何も考えていない」ことだけは確かだろう。鑑賞者に「何も考えさせない現代アート」は世界初かもしれない。まさに安楽にさせる「楽」を揮毫している。Souun♡ならではの「楽」だ。



作品番号３８１

馬鹿にされようが、否定されようが、僕は、僕の楽道を進み続ける。そんな怒りや悔しい気持ちを一枚に。

サイズ：P50（1167×803㎜）　参考価格：330万円



作品番号２３５

何度やっても結果が表れない。それでもまだまだ愛をもって続けていると、いずれそれは花となり実となる。赤のモデリングペーストを何度もキャンバスに落とせば、花に見えるように。

サイズ：F30（910×727㎜）　参考価格：198万円



作品番号２２７

大好きだという、とあるゲームからインスパイアされたという作品。〇も×も楽しい。夢中になって遊べる人生。ならば〇も×もない世界はどんな世界だろうかと妄想が膨らんでいく。

サイズ：F40（1000×803㎜）　参考価格：264万円　「P」



作品番号 232

テーマは楽の歴史。受け継がれてきた「楽」。未来へ紡ぐ「楽」を表現し、一度黒く塗ったキャンバスに赤が際立つよう重ねて塗り上げている。

サイズ：F30（910×727㎜）　参考価格：198万円



作品番号 80

「情熱的な人々が集まってコラボレーション」。重くダークな背景とは裏腹に、ひらめきが飛び交う楽しい集会が繰り広げられている。耳を澄ませば、ひひひ、ふふふと、笑い声が聞こえてきそうだ。

個人蔵



作品番号 1

自分が情熱と一体になるほどの夢中で描いたという作品。赤と黒が入り混じるキャンバスの中で、ほとばしる「楽」の文字が、燃え上がる気持ちを表現している。

サイズ：F20（727×606㎜）　参考価格：132万円



作品番号 184

この真っ赤に燃え上がる情熱は、すさまじい福をもたらすであろう。そんな思いを込めて金色のペンキで中央に描いた「福」。その下には墨汁で「楽」の文字も描かれている。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円　「P」



作品番号 58

調和したい！　癒されたい！　不安や怖さがないまぜになって渦巻く社会への「チャレンジ」を指だけで描いた自己啓発的作品。10本の指で絵の具を混ぜるのは、パレットになった気分で楽しい作業だ。

サイズ：F6（410×318㎜）　参考価格：55万円



作品番号 210

「情熱の中のゆるさ」。朱墨の美しさに取りつかれ、塗っては重ね、また重ねてを繰り返し描かれた作品。背景との濃淡で生まれる"情熱とリラックス"という相反する感覚は、Souun♡自身と重なる。

サイズ：F20（727×606㎜）　参考価格：132万円

赤

Red



作品番号 320

感情は、かたちとなり、万象を形成する。楽しいという感情は楽しい物象へ変換されることを実証すべく、目を引くピンクの色をベースに表現した。

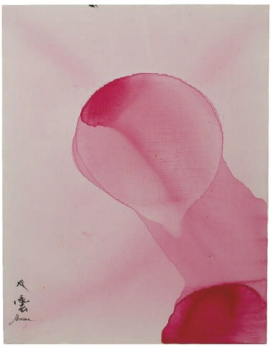
サイズ：M50（1167×727㎜）　参考価格：330万円



作品番号 230

パンッとはじけた「楽のクラッカー」。血潮のごとくに吹き出た、高揚の赤とエキサイティングな黄色の楽気体。こつぜんと浮かび上がる“Relax & Enjoy”は、存在を誇張しているかのようだ。

個人蔵



作品番号 218

erection。受精。生命の誕生を表した作品。Soun♡の作品では珍しい水彩画のようなタッチが特徴。

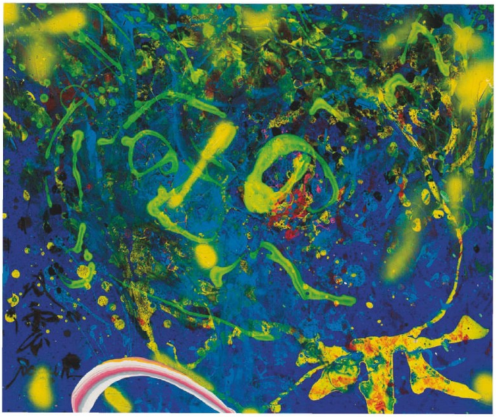
サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円



作品番号 124

花はなぜ咲くのだろう。どのようにして咲くのだろう。なぜあんなにも美しいのだろう。なぜ僕の心は魅了されるのだろう。そう考えながら手に取った筆は白い「心」と黒の文字を描いていた。

サイズ：F30（910×727㎜）　参考価格：198万円



作品番号 438

息子の無邪気な姿をイメージ。自身も子どもの頃によく書いていたという「へのへのもへじ」をモデリングペーストで立体的に描き、墨や金粉で明るく元気な様子を表現している。

サイズ：F8（455×380㎜）　参考価格：66万円



作品番号 276

空中で静止する瞬間をとらえた「ハチドリ（ハミングバード）」。筆を使わず指先の微妙なタッチで羽の動きを表現している。高速で羽ばたく羽音が聞こえてきそうな、臨場感あふれる作品。

サイズ：F20（727×606㎜）　参考価格：132万円



作品番号２０４

アクリルや金箔で描かれた海と砂浜。オーガニッククコーヒーの粉が振りかけられている太陽からは、香ばしいアロマが漂ってきそうだ。湘南の水・光・海のエネルギーが、創作意欲をかき立てる。

個人蔵



作品番号２４１

「富士山」。緑や青を重ねた陰影が、雨にも晴れにも見えるご来光シーンをほうふつさせる。不動の美しさをもつ日本一の山を目の当たりにすると、めでたい、富士山はめでたい！　と叫びたくなる。

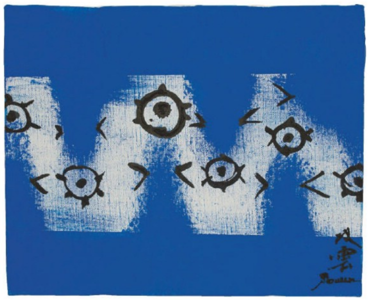
個人蔵



作品番号４０６

湧き水からインスパイアされた、海や空をイメージした大自然界が描かれている。闇の海底から雲が広がる空まで優しい光が差し込み、天まで沸き上がるエネルギー＝情熱を表現した作品。

個人蔵



作品番号４０８

「楽細胞ファクトリー」。次から次へと生み出される楽細胞たちが、ベルトコンベアで運ばれているようだ。彼らを待ち受けている未来は楽しいのかな？　苦しいのかな？　想像してみよう。

個人蔵



作品番号 1 3 9

「水の神さまが僕をいつも見守ってくれている気がする」。とSouun♡。心を潤し、浄化し、流してくれている水の神さまをイメージしながら描いた作品。俯瞰してみると、「楽」の文字が浮かび上がってくるよう。

サイズ：F50（1167×910㎜）
参考価格：330万円

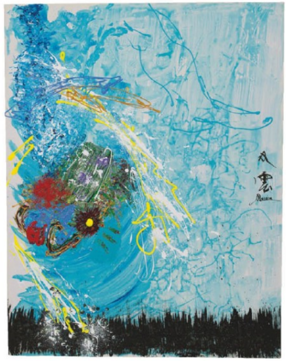


作品番号 4 4 9

アリストテレスやコペルニクスなどが、地球が丸いことや、太陽の周りを回っていることに気づいたように、僕らもまだまだ気づけることがあるのではないかと、考えながら描いたという作品。

サイズ：F50（1167×910㎜）
参考価格：330万円





作品番号 142

100㎝を超えるキャンバスいっぱいに描かれた、圧倒的なエネルギーがほとばしる「水の神様」。筆を使わず、大胆にも指で描く技法には、書道家としての経験が存分に生かされている。

個人蔵

作品番号 180

これは常識に縛られてがんじがらめになっている人へのメッセージ。壊そう、抜け出そう、楽になろう。にっこりと笑う顔とも見える縦横無尽の模様が語りかけてくるようだ。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円





作品番号 201

宇宙に星の赤ちゃんが生まれた！「星の誕生」には、絵の具やペンキのほかに小石もちりばめられ、控えめな立体感が美しい。フォーカスされたキャンバスの小宇宙に、笑（顔）が見える。

個人蔵

作品番号 228

テーマは「Love and Peace」の樹。「楽」の原子が集まり、大木になり、神風が吹き、その種は世界中へと飛び立つ。そしていつか世界が平和になるように、そんな思いも込めて。

サイズ：F40（1000×803㎜）　参考価格：264万円



作品番号 231

幼い頃から水に潜ったり、浮かんだりしていることが大好きだったというSouun♡。あるとき、故郷である熊本県の阿蘇の奥にあった湧き水に魅了され、感動した気持ちを、思いのまま青一色で染め上げた。

サイズ：M40（1000×652㎜） 参考価格：264万円

青

Blue



作品番号 140

僕らはどこから来てどこに還るのでしょうか。命はなぜ誕生するのでしょうか。そんな疑問を自身に問いながら、母なる宇宙、海、子宮。愛で満ちたエネルギーに包まれている安堵感、命のはかなさを表現した作品。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円

Producer comments

サブタイトルとして、「Strange word “Raku” than Paradise」というべき作品。『Stranger than paradise』というカンヌや全米の賞を獲得したフィルムがある。英語で「楽」は、Paradise、Heaven、Easy、Lucky、Happy……と、多様でStrangeな言葉「楽」をブルーの泡で表現した。人影らしきものは、バブルの中で“踊る”何かだ。



作品番号 256

雪崩のごとく流れる光の滝にスッと浮かび上がる「愛の光」。宇宙からのパワーを存分に浴び、エネルギーを蓄えた、崇高で揺るぎない温かさや慈しみの精神を表現している。

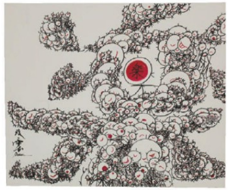
個人蔵



作品番号 238

落ち込むこともある。自信がなくなるときもある。でもだからこそ愛に気づく。生まれただけですごい、というメッセージを込めて、お腹の中にいる胎児をイメージした作品。

サイズ：F30（910×727㎜）
参考価格：198万円



作品番号 209

“楽細胞”が結合し、“楽ボディ”を形成する。サインペンのみで描かれた「楽細胞の調和」。サインペンは、コンビニで目に飛び込んできた赤ペンに魅了されて以来のお気に入り。

個人蔵



作品番号 336

「紆余曲折愛」。一見奔放だが、墨を濃くすればするほどに起きるひび割れ＝クラッキングの技法で、楽して“楽”にはたどり着けない、複雑な道のりが想像される。

個人蔵



作品番号 360

滲み出る内面の美しさと優しさを表現した女性の肖像画。背後に浮かぶ“貧”とは裏腹に、隠された文字とは……。油絵のように、凹凸感のある混ざり合う画材が印象的だ。

個人蔵



作品番号 404

ペンキや墨汁にメディウムを加え、独自の色味を引き出した「木楽」。木にぶら下がるさまざまな文字の実の中心に鎮座する情熱の天。まるで漢字の成り立ちを見ているようだ。

個人蔵



作品番号１３２

皆を楽しませる、そして楽にするオーラを出せる人間でありたい。そのために自分自身が楽エネルギーあふれる人間でいること。そんな気持ちをモデリングペーストで大胆に。

サイズ：F50（1167×910㎜）
参考価格：330万円



作品番号１３８

大銀河系の渦に飲み込まれないようにと、果敢に挑むかのごとくに立ちはだかる「巨楽木」。モデリングペーストでごつごつ感を出し、金粉と墨汁を思うがままに塗り付けた。

個人蔵



作品番号１３７

「カーボンナノチューブで楽」。チューブ状の炭素原子の集合体は、構造によって金属にも半導体にもなるという特性をもつらしい。どちらになるかは見る人次第。

個人蔵



作品番号１７５

世界平和が地球を包み込むイメージで「楽」を描いた作品。白をベースに、モデリングペーストを何重にも重ね、立体感を生み出し、世界平和へのイメージを膨らませる。

サイズ：F20（727×606㎜）
参考価格：132万円



作品番号１７７

楽の大樹を表現。空まで届くほど、そして世界を変えるほどの巨大な大樹は、「楽」の文字を軸にして、情熱的にそびえている。アクリルインクを大胆に用いて、臨場感をプラス。

サイズ：F30（910×727㎜）
参考価格：198万円



作品番号２０３

まるで「楽」の象形文字から現在の感じ「楽」へ変化するさまを描いたような独特なフォルムが特徴。

サイズ：F20（727×606㎜）
参考価格：132万円



作品番号346

「貧」の字を「豊」が食べている。血や情熱の赤、大自然の緑、エネルギーの黄色は栄養素の色であり、国旗に使われる色でもある。いつの時代も人は豊かさと貧しさ両方を感じて生きている。

個人蔵



作品番号16

楽園を表現した。朱色の巨木「楽」が幹となり、人々があらゆるポジティブなエネルギーを生み出している。「魂」を中心に、左右の払いには幸・感謝、木には腐・枯・未来などが見える。

個人蔵



作品番号427

「幸」。幸せになる覚悟を決めた作者が、未来に向かって武者震いするような胸の高鳴りを表現した。墨と金粉や絵の具が反応し、色彩豊かに発光している。羽ばたく鳥のようにも見える。

個人蔵



作品番号88

ときめく「楽」（Spark Joy, “Raku”）を表現。感動すると人の脳細胞は活性化し、身体がSparkして喜ぶ。世界でときめく片づけを実践する近藤麻理恵さんご夫妻が購入した。

個人蔵



作品番号 4 1 2

遊園地がテーマの「楽」。岩絵具やアクリル、墨汁などさまざまな染料で大観覧車「楽」ができた。花まるのワゴンも見える。毎日が遊園地でありたいというSouun♡の願いだ。

サイズ：F8（455×380㎜）
参考価格：66万円



作品番号 4 0 5

天職との出合い「楽」。濃淡に広がる墨は地上だろうか。「天」から金の種が落ちているが、地上の人間はわからない。恵みに気づいて種を拾うことから天職がはじまる。

個人蔵



作品番号 4 0 7

ハートいっぱいの「楽」。シンデレラが乗るカボチャの馬車をイメージして描いた。「運ばれてくる幸運に乗っていますぐ旅に出よう！」という作者のお誘いが聞こえるようだ。

個人蔵



作品番号 4 2 1

Souun♡の自画像のひとつ。
中央の黒い丸部分が自身の顔であり、青い部分が髪の毛。「楽」の“白"部分にも見える。

サイズ：P30（910×652㎜）
参考価格：198万円



作品番号 4 4 8

人類の起源をイメージ。どのようにして高次元の存在とつながったのか。ますます興味がわいてくる。そんなことを思いながら「楽」の文字と象形文字を連想させる記号を描く。

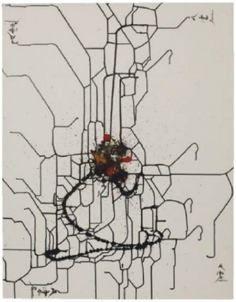
サイズ：F50（1167×910㎜）
参考価格：330万円



作品番号 7 1

口に十と書いて「叶」の文字が完成する。この漢字からインスパイアされてできた作品。プラスのエネルギー、言葉にすることの力を、墨汁のみでキャンバスいっぱいに表現。

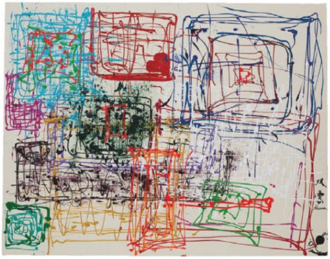
サイズ：F20（727×606㎜）
参考価格：132万円



作品番号 133

全方向にサインが描かれた、「全方向パラダイス」。どの道も楽園。上下左右楽園。神経もニューロンも血管もおのおのが協力して働いている。世界中がインターネットでつながった時代を連想させる。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円



作品番号 82

インターネット革命を表現。人々はつながったが、国と国の境界線はあいまいになってゆく。争いは増えるのか、調和に向かえるのか。それならば、愛の種を描いていこう、と決意した作品。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円



作品番号 125

凜と佇む「楽」。黒一色で勝負してきた作者が色と出合った初期の頃の作品。色の美しさや化学変化に感動しながら仕上げたという。書道洋品店で購入できる彩液（水溶性インキ）や金粉を用いた。

個人蔵



作品番号 126

ドライブが大好きだというSouun♡。日本縦断、アメリカ横断もした経験から、そこで出合って感動した景色たちにインスパイアされ、一枚のキャンバスに描いたという作品。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円





作品番号423

かないそうもない、とんでもなく大きな夢を抱いていく。そんな気持ちをまるで心臓を連想させるような、青と赤のインクで情熱的に、ダイナミックに描かれている。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円

作品番号64

時代を切り裂く「楽」。楽の巨木が爆発し、あらゆる物質を巻き込んでさらに大きくなっていくように見える。作者の筆一本からはじまった書の世界観が、すさまじいエネルギーで時代を凌駕する。

サイズ：F20（727×606㎜）　参考価格：132万円　「P」





作品番号129

ずっと眺めていたら涙があふれてきたという、妻がふと生けてくれた花がモチーフに。これまで気づけなかった愛がたくさん見えてきたのかもしれませんね、とSouun♡は語る。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円

作品番号451

「楽」食卓シリーズのひとつ。ダイニングテーブルを囲み、すべての花まるに笑顔が見える。楽の渦から流れる「恵」は湯気や水のようでもある。みんなで囲むごちそうはなんだろうか。

サイズ：F20（727×606㎜）　参考価格：132万円



作品番号 390

どんなに物質的に豊かになっても、心が豊かでないと苦しいだけ。貧しさを知ることも大切だと思うとSouun♡は語る。そんな思いを金墨汁でシンプルに描く。

サイズ：F30（910×727㎜）　参考価格：198万円　「P」



作品番号 416

かなう夢が豊か過ぎた。想像を超える豊かさが実った。一見か細く描かれた「豊」の文字は、想像を超えて人々の心の中に大きく育っているのだ。

サイズ：M50（1167×727㎜）　参考価格：330万円



作品番号 379

のんびりとしたエネルギーで夢がかなうのが一番幸せ。ワクワクビジョンをのんびりしながら想像するだけで夢は実現に向かっているということを、自身のキャラクター、墨生くんで表現。

サイズ：M50（1167×727㎜）　参考価格：330万円　「P」



作品番号 414

原子は開かれた。「楽」の文字を覆う原子、素粒子たち。彼らの奏でる音楽は、僕を楽園へ誘ってくれるんだ。

サイズ：P50（1167×803㎜）　参考価格：330万円



作品番号 386

無邪気に生きると決心した日のSouun♡の自画像。ルンルンとした気分を大事に生きていくという決意を「楽」の文字を自由に、大きく。中央の金粉がその意志の強さを表現している。

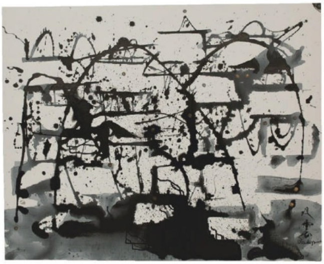
サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円



作品番号 384

君は種をまいてるかい？　決してあきらめてはいけない。種はいつか花を咲かせ、必ず実を結ぶから。そんなメッセージを一文字に込めて。種が実を結ぶ生命誕生のループが口の部分にも表れる。

サイズ：F40（1000×803㎜）　参考価格：264万円　「P」



作品番号 387

乳房と女性器、男性器。街は生きている人々であふれている。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円



作品番号 389

こんなにも豊かさは身の回りに輝いて存在してくれているのに、そこに気づかない、気づけない。豊かさを感じる感性を、墨と金粉のみでダイナミックに描いたという作品。

サイズ：F30（910×727㎜）　参考価格：198万円



作品番号 325

何色ものインクをチューブで勢いよく描いた「楽」。いつのまにか楽しい気持ちが楽園へと連れて行ってくれた。はじけるような明るい気持ちが表れた作品。

サイズ：F30（910×727㎜）　参考価格：198万円



作品番号 350

抽象画「楽」。重力を用いて色とりどりの線が引かれ、一番右には作者自身の手で墨汁の線が書かれた。人の一生には無数の選択肢がある。進む道すべてを楽しいと感じられるかは自信で決まる。

個人蔵



作品番号 378

どんなにつらくても、うまくいかないときでも、豊かな心は奥に眠っているだけ。眠っていた豊かな心が目覚めた瞬間を、渋柿を発酵させた塗料「柿渋」を用いてダイナミックに描いている。

サイズ：F30（910×727㎜）　参考価格：198万円



作品番号 462

個性の花が咲き誇る世界を「楽」で表現。どんな色にも混じることのない赤、青、緑、黄を一画一画に大胆に使うことで、誰とも比べることのできない、個性を表している。

サイズ：F40（1000×803㎜）　参考価格：264万円





作品番号 274

愛情と花まるで埋め尽くされた「楽」。向かって左には「愛」、右には金墨で「楽」とある。「楽」の中心に花まるが描かれ、大地を潤す雨のごとく広がりを見せる。親から子への愛を表現した。

サイズ：F20（727×606㎜）　参考価格：132万円

作品番号 278

大いなる何か、偉大なる力はいつも光を届けてくれている。じっくり観ること。観られていることを観ること。そんな第六感を意識しつつ、手のひらを使って千手観音をイメージ。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円





作品番号 279

自分の心と書いて「息」。（Souun♡）「書」とアートが混在する作品。実は、肖像画だ。青の部分が目鼻口になっていて、書は場所に合わせて存在している。（プロデューサー）

サイズ：F40（1000×803㎜）　参考価格：264万円

作品番号 322

テーマは楽と雨。愛情たっぷりの雨。外に出て雨を浴びにいこうというメッセージとともに、自身を表したという墨生くんのキャラクターが哀愁を漂わせている。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円





作品番号 191

先祖から、親から受け継いだ命。自分をもっともっと肯定していきたいものです。「大切に自分を育てていきましょう」という言葉を「楽」の文字にのせて。

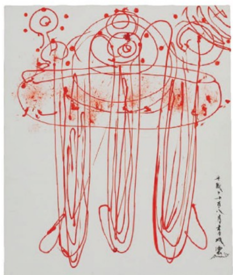
サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円

作品番号 213

石を落とすというアート実験で生まれた、抽象画「楽」。自宅2階から庭に落とした砂利が金粉と膠で反応し、淡く鮮やかな青が出現した。偶発を楽しむ「自然の産物」ブルーと名づけたくなる。

個人蔵





作品番号 229

キャンディーポップな「楽」。鮮やかなピンク、オレンジ、黄といった暖色が使われ、彩度の高いカラーリングが印象的である。食事や歯磨きなど日々の習慣にも心ときめく作者の自画像でもある。

サイズ：P40（1000×727㎜）　参考価格：264万円　「P」

作品番号 68

「楽」。花まるな人々がテーブルに集まり食事をしている、あるいは庭でダンスしているようにも見える。黄色みがかった暖かな赤色は喜びだろうか。太陽や自然、虫も祝福しているようである。

個人蔵



作品番号 186

神の経。神経。分泌されるあらゆる分子たちは、生命を維持するだけでなく、生きる喜びまでもたらしてくれる。そして外部とつながる媒介ともなり、喜びがさらに大きな喜びとなって返ってくる。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円



作品番号 190

この絵のタイトルは「楽の実」。実は落ち種をまき、土に根ざし、成長しまた大樹となる。「楽しい」という気持ちで人と接していれば、自然とその種は成長していて、大きなかたちで現れるのだ。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円



作品番号 188

「楽しい」の力はすごい。楽なのに、楽しいだけなのに、ものすごい力を発揮する。人の「気」というものがまさにそうで、粒子がまるで太陽のコロナのように動いている。そんな瞬間を表現。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円



作品番号 207

女性の肖像画「楽」。凜とした女性が正面に向かい闊歩している様子。笑顔は墨の油分と膠で光放ち、身体には愛や情熱がほとばしる。未来に突き進む女性にすさまじいエネルギーを感じるという。

サイズ：F20（727×606㎜）　参考価格：132万円



作品番号 1 3 4

木を通して人間の一生を描いた。赤や白色に塗った下地に墨を入れ筆圧で動かすと、アカマツの樹皮のような木肌の筋が現れた。水、美、菌、虫、希望、闇、死……。木と人の生涯が重なる。

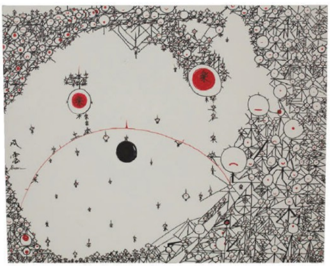
サイズ：F8（455×380㎜）　参考価格：66 万円



作品番号 1 4 3

墨職人・伊藤亀堂氏の青墨を使用。「素粒子の標準模型の作用」＋「アインシュタイン・ヒルベルトの作用」。人類がたどり着いた、宇宙のすべてを記述できた数式を描いた、最高傑作のひとつ。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330 万円



作品番号 1 7 8

楽しいが楽しいを引き寄せ、集まっては高め合い、ついには大波に進化を遂げた。原子や分子の性質にインスパイアされたというこの作品。顔が描かれていると思いきや、よく見ると「楽」の文字が。

サイズ：F40（1000×803㎜）　参考価格：264 万円



作品番号 1 8 5

愛のビッグバン。まるで血しぶきのように描かれる朱赤とそれを覆うかのように伸びる黒。生命誕生のループをシンプルに、ダイナミックに描いた作品。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330 万円



作品番号 76

これだけ飛び跳ね、ぐるぐると回り続ける円を携えた“文字”は「書道家・武田双雲」では描けない。円が「楽」を構成していて“歓喜”にあふれ、アートならではの動きがある。(プロデューサー)

個人蔵



作品番号 85

躍動する「楽」。太筆の一文字で魂が揺さぶられる作品。墨と白で描かれた気迫すさまじい「楽」からは魂の鼓動が鳴り響いてくるようだ。作者の字を書く喜び、アートする喜びが伝わってくる。

個人蔵



作品番号 83

「楽」。世界平和を願う作者が、世界で最も動向が注目される夫婦を描いた。左は米トランプ大統領、右はメラニア夫人でそれぞれ「楽」でワンペアとなった。エロス、ハートも見られる。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円



作品番号 106

「異」。究極の線質であるという重力を使って表現した。墨を垂らし「異」を拡張すると大小の窓ができ、次元が広がる。幼少期から感じていた人と異なるという孤独や違和感が宝物になった作品。

サイズ：F8（455×380㎜）　参考価格：66万円



作品番号 172

「楽」。超純粋で無垢な心を抽象化して描いた。光の加減で立体感ある弧線や液体を垂らした跡が見える。白は自然の雪や雲、聖母マリアや観音像でも見られる色である。人々が心のよりどころを求める色ともいえる。

個人蔵

白

White



作品番号 187

快便「楽」。チューブ型のモデリングペースト（盛上材）を思いのままに絞り出した。人間の身体には細胞のみならず、何兆個もの細菌が生きている。うんちは菌活動の便りでもある。墨文字で小さく「運」、「心」とある。

個人蔵



作品番号 2 5 1

美人画「楽」。凜とした女性の立ち姿を宇宙に重ね合わせて描いた。楽の中心となる胸のあたりから、こちらに語りかけてくるようである。女性の雰囲気を醸す柔らかな円は宇宙の星々にも見える。

個人蔵



作品番号 2 6 8

抽象画「楽」。キャンバス下部には墨の山々がそびえる。墨は滲んで金粉と混ざり合い、巨大な宇宙に向かってエネルギーを放出している。作者の故郷である熊本・阿蘇山への愛も感じられる。

個人蔵



作品番号 3 7 6

女性画「楽」。女性が見せるとてつもないうつわの大きさ、母性に感動することがあるという。笑顔が見え、相手を包み込むような黄色い光。赤は女性の情熱、子宮の象徴だろうか。

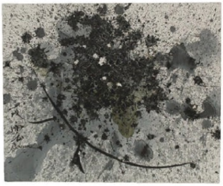
個人蔵



作品番号 3 5 4

「空」。壮大な宇宙のエネルギーを大胆に表現した。闇夜に仰げば無数の星が輝いて見える。ある日は轟音と閃光が走り、稲妻が空を切り裂くこともある。どちらも「空」という宇宙で起こる。

個人蔵



作品番号200

誕生の喜び「楽」。墨と膠で何かが生まれる喜び、エネルギーを表現した。一つひとつの滲みが重なってできた「楽」は星の誕生のようだ。誕生の連続で宇宙は広がり続ける。

個人蔵



作品番号206

白という字がトンネルのように奥へと続き、全体で「楽」をなしている。終着点にも楽がある。「木」の地点は過去または現在だろうか。時間軸に沿って「楽」が永遠と続く。

個人蔵



作品番号324

万歳しているかい？　天に向かって手を伸ばしているかい？　人間一人ひとりのもつ力は無限大。大いなる何かとつながろう、という思いが込められた作品。

サイズ：P50（1167×803mm）
参考価格：330万円



作品番号240

宇宙の星々は遠く離れているのに、互いに影響し合っている。そんな時空を超える何かに日々感動している中、自然と描いていたのは、小さな小さな星と赤い愛の印。

サイズ：F30（910×727mm）
参考価格：198万円



作品番号247

Souun♡の自画像のひとつ。ワクワクしているときの自分と、未来へのビジョンを考えているときの自分。不安がワクワクに切り替わる瞬間をキャンバスへ。

サイズ：F8（455×380mm）
参考価格：66万円



作品番号250

無限大問題「楽」。世界の数学者を悩ませる「無限とは何か」という問いに神さまがキスした瞬間を描いた。楽には神さまの唇があり、木には鉛筆で描かれた無限大（∞）も。

個人蔵







作品番号 393

自画像「楽」。消極的だったSouun♡が積極的に生きる宣言をした作品。筆に含んだ墨と金粉で白地のキャンパスを塗り変えていく。自らの殻を破る内面的作業の記録でもある。

サイズ：F20（727×606㎜）
参考価格：132万円

作品番号 395

自画像「楽」。墨の黒一色で消極的人間による積極的宣言を描いた。楽の中心からは何かが渦巻いて爆発しているようにも見える。陰と陽が調和して「楽」を開く。

サイズ：F20（727×606㎜）
参考価格：132万円

作品番号 469

人類の感謝祭のはじまりをイメージして描かれた作品。人類がはじめて3次元以上の存在に気づいたとき、この上なく舞い上がったに違いない。そんな思いが筆に込められている。

サイズ：F40（1000×803㎜）
参考価格：264万円







作品番号 426

大自然と一体化した「楽」。海を照らす月や太陽、芽吹き出すひと粒の種、または大地に根を張る一本の木にも見える。作者の愛する湘南の風景が楽の一文字に溶け込んでいる。

サイズ：F50（1167×910㎜）
参考価格：330万円

作品番号 264

「豊」二部作のひとつ。木のキャンパス一面を墨で塗ると暗闇が広がる。黒色のチューブを指で勢いよく押し出し、一文字「豊」を書いた。普段見ていなかった豊かさが表れる。

個人蔵

作品番号 265

漢字の存在感を放つ「豊」二部作のひとつ。作品の一方は天へ向かい、もう一方は大地を這うように「豆」の線が伸びている。天と地へ、森羅万象への感謝が込められている。

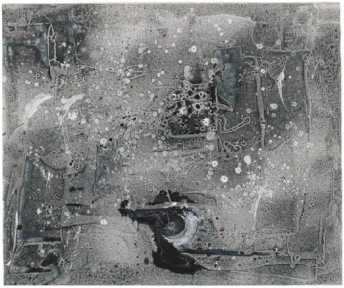
個人蔵



作品番号 1 2 1

「楽」の文字に花火のごとくはじけ、舞い散る金粉。エネルギーに満ちた作品。(Souun♡) まさに花火のごとく。このはじけている顔は、人によっても極端に変化する。(プロデューサー)

サイズ：F20 (727×606㎜) 参考価格：132万円



作品番号 3 5 7

楽園への扉「楽」。楽園につながるまでの道やその手前にある世界観を表現した。「楽」の中の白という字は、枠線のように描かれ幾層にもなって続いている。苦楽ではなく、楽楽で扉が開く。

個人蔵



作品番号 3 6 2

白い昇り龍のように上へ向かおうとする「夢」。龍に号令をかけるがごとく、“GO!”と鮮やかな赤色を重ねた。渦巻いていた作者の夢、人々の夢がスタートダッシュする瞬間のようである。

サイズ：F8 (455×380㎜)　参考価格：66万円　「P」



作品番号 2 2 0

原子核と電子。宇宙と銀河と太陽系をイメージして描いたもの。(Souun♡)「楽」のポートレート。“顔"の正面にあたる“白"だけが浮かび上がっている。(プロデューサー)

サイズ：F50 (1167×910㎜)　参考価格：330万円



作品番号 280

「無」とは何かというひとつの考察を墨で描いた。縦横の線は宇宙の時空間、人間社会、脳細胞の巨大なネットワークのようにも見える。背景から光や明るさが感じられる。編集者・箕輪厚介氏購入。

個人蔵



作品番号 225

漆黒の中に浮かび上がってくる「楽」の文字。未来への不安。過去の傷。そんなことさえも楽しむんだと、自分自身に問いかけてくるような、はかなくも勇気を与えてくれる作品。

サイズ：M50（1167×727㎜）　参考価格：330万円



作品番号 239

「楽園にかかる虹」がテーマ。レインボーカラーではなく、キャンパスの地の色を生かしつつ、墨独特のグラデーションをつけている。指の腹で描いた花びらも自然と「楽」の文字に見えてくる。

サイズ：F30（910×727㎜）　参考価格：198万円



作品番号 377

宇宙「楽」。スプレーを手に身体を動かしてみるとキャンパスに宇宙「楽」が誕生した。地球から見えない星の数、銀河系の姿は計り知れない。宇宙への愛と大いなる畏敬の念が込められている。

サイズ：F8（455×380㎜）　参考価格：66万円



作品番号 111

仏教の根本教理「色即是空」を表現。光と影。暗闇の向こう側。色と空と無。そして希望。実は絵の中に書で「色即是空」という言葉も描かれていて、角度を変えると見えてくる。

サイズ：F8（455×380㎜）　参考価格：66万円　「P」



作品番号 355

「豊」。黒地に黒で描かれた「豊」は観る者と一緒に見えない豊かさを見る、というアートでもある。ものの数や大きさだけでは人は豊かさを感じ続けることは難しい。日常にある豊かさを見続ける。

個人蔵



作品番号 219

量子のもつれ。エンタングルメントの強い力。僕らは原子、宇宙レベルでも、時空を超えてつながっていることを表現しました。でもそれらは愛の力かもしれない。そんなことを思いながら。

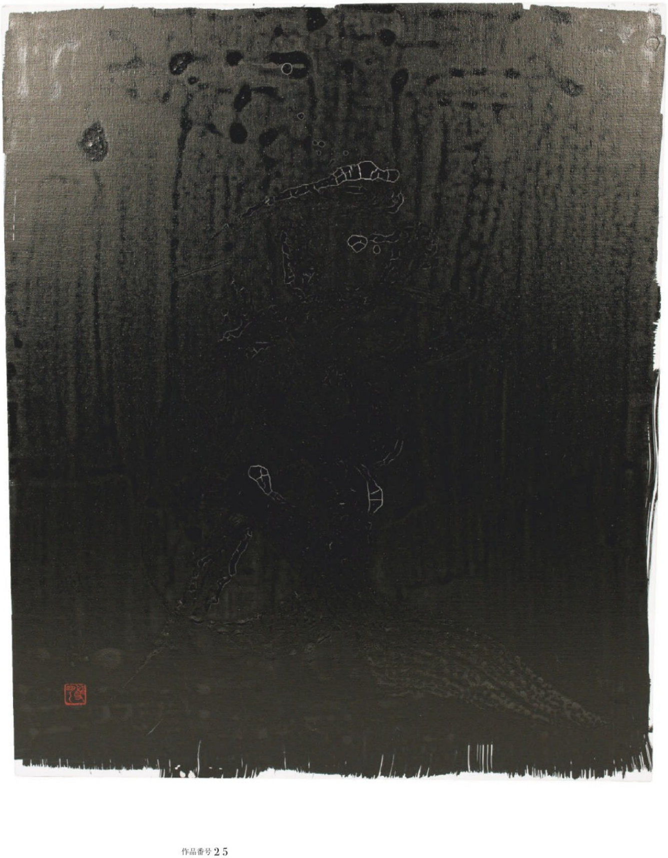
サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円



作品番号 253

楽園に向かう物語。緑や黄色の柔らかな線の集合体は、自然や人間の営む地球だろうか。その星を宇宙から俯瞰すると、暗闇から情熱の赤色をまとった希望 “hope in the Dark” が浮かび上がった。

サイズ：F8（455×380㎜）　参考価格：66万円　「P」



作品番号 25

全面黒のキャンバスに描かれたのは大きな「愛」。あなたの愛は目では見えないけど、ちゃんと感じています。愛しています。愛をありがとう。愛しています。という気持ちを込めた作品。

サイズ：F20（727×606㎜）　参考価格：132万円

黒

Black



作品番号 84

この作品のテーマは「ビッグバン」。素粒子は引き合い原子をつくり、原子はさらに集まり星をつくると、そこに生命が誕生し、僕が生まれた。そうして命は紡がれる。生命誕生というビッグバンなのである。

サイズ：F50（1167×910㎜）　参考価格：330万円

Producer comments

これも「楽」と書かれているが、中央にある“白”の左右それぞれの二画が、途方もなく多い。“木”にあたる部分もそうだ。しかし、画数に関係なく、漢字を知る人は、そのフォルムから「楽」を読み取ることができる。書き順を知っていれば、音楽のメロディのように流れがわかるはずだ。この「楽」を見ると、かなりRockである。

書道家・武田双雲が、現代アーティスト・Souun♡として活動を開始したのは2018年から。その作品点数はすでに約500点を超え、2020年2月4日には自身初の個展「ピカソ、ごめん。」展が控えている。そんな貴重な作品の一部を小誌で特別にご紹介します。

※渋谷PARCO「Discover Japan Lab.」で展示・販売予定の作品は、データ欄に「P」と記載しています。



作品番号 215

宇宙が加速膨張していると知ったとき、皆飛び上がるくらい驚いた。だが、いまの科学ではどこにそんな力があるかわからず、僕はそれをダークエネルギーと名づけた。Souun♡にとってこのダークエネルギーは希望なのだ。

サイズ：F50（1167×910㎜） 参考価格：330万円

Producer comments

珍しい「引き算」の作品。ほかの「楽」作品はポジティブだが、この作品の「楽」は、高潔な白の内側に潜んでいる。垣間見える"グレー"が「楽」なのだ。Souun♡はダークエネルギーという表現をしているが、それは見えないだけに、よりパワフルに感じられる。ダークエネルギーは黒ではなく、なぜか白によって隠されている。

現代アーティストとしての個展に向けて、ひと足早く大公開！

Souun♡の“読める”現代アート

文＝相磯法子、中野貴子、宮崎沙織、編集部　写真＝森田大翔、工藤裕之（P119）
text: Noriko Aiso, Takako Nakano, Saori Miyazaki, Discover Japan　photo: Taisho Morita, Hiroyuki Kudo



作品番号 382

原子番号83番ビスマス「楽」。専門家立ち会いの下重金属ビスマス（蒼鉛）を鍋で加熱して液体化し、キャンバスへ一気に流し込んだ。闇に浮かぶ「楽」は色ではない。表面の酸化膜が光に干渉して見せる構造色である。

個人蔵

Producer comments

金属を流し込み、その金属がまるで生きていて、育つように立体化した、そして外部環境（光）によって色を変える前代未聞、双雲の真骨頂たる作品。これは思い通りにならない社会などの外部と関わりのようでもあり、自分で変えることが可能な自己の意識のよう。「楽」の文字は、丸みを帯びた輪郭で、本人の自画像のようでもある。

問：武田双雲アートプロジェクト事務局　souunart@gmail.com　作品についての問い合わせは作品番号をお知らせください。
また、掲載作品については2020年2月からの個展「ピカソ、ごめん」展にてご購入いただけます。個展については、武田双雲ウェブサイトwww.souun.netをご確認ください。

書道の書き順のように、アート作品の描きはじめと描き終わりを想像するのも楽しさのひとつ。



リンクル　代表取締役
川崎祐一
（かわさき・ゆういち）さん
1984年生まれ。2011年インターネットの広告代理店・リンクルを創業。アートコレクターとしても活動しており、700点以上の作品をコレクションしている

川崎：そのほうがいいと思います。

——なぜ、そう思われるのですか。

川崎：歌手やタレントがアートの作品を発表しても、アート業界でアーティストとして認められる人は少ないですよね。それは兼業だから。双雲さんも「書道家・武田双雲」を知る人たちの目線を変えさせることは、とても重要なことだと思います。

「書がアート」の進化する可能性

高橋：双雲さんの作品のどんなところにおもしろみを感じますか。

川崎：書道って書き順がありますよね。だけどアートにはない。長年、書き順を守ってきた双雲さんだからこそ、アート作品の“描きはじめと描き終わり”を想像しながら見たらおもしろそうです。

高橋：日本人独特の視点ですね。外国人は書が絵のように見えるから、フォルムが重要になります。だけど、日本人は漢字が読めるから、書き順がわかる。たしかに、書き順をイメージすると、音楽のようにリズムやメロディーが浮かびますよね。しかも作品によってリズムが違う。それを感じることも、作品のおもしろさでもあると思います。

——高橋さんが感じている、双雲作品のおもしろみは何でしょう。

高橋：僕が双雲さんに惹かれた理由のひとつは、楽という言葉をテーマに選ぶセンス。非常に中庸的な言葉ですが、嫌いな人はいないですよね。

川崎：双雲さんの作品のテーマはすべて「楽」なんですか？

高橋：400点以上ある作品の95％は「楽」です。ただ、双雲さんは描く瞬間の感情を基に表現しているので、テイストはバラバラ。それは、双雲作品の特長のひとつです。

川崎：おもしろいですね。

高橋：双雲さんのアーティストとしての可能性は、どう思われますか。

川崎：アーティストとして振り切って活動するほうが、才能がより大きく開花するような気がします。書からアート、アートからの書へのループで、双雲さんの書は進化し、現代アートとして評価される可能性もあるはず。「武田双雲って昔は書道家だったらしいよ」なんて、語られる日も来るかもしれませんね。

書道家からアーティストへ。オーディエンスの目線をいかに変えさせるか。

書からアートへ。アートから書へ。そのループで書もアートに進化するはず。

The Charm
of Souun♡ Art

4

アートの専門家ではないからこそできる 現代アーティスト・Souun♡のプロデュース

武田双雲アートプロジェクトのプロデューサーを務める高橋邦忠さんと、IT企業の代表取締役であり、アートコレクターで客員教授としても活動する川崎祐一さんが、現代アーティスト・Souun♡の活動や魅力、可能性について語り合った。

プロデュースの仕掛け方

METHOD FOR PRODUCING Souun♡'s ART

プロデュースは、企業や商品のブランドマーケティングと同じ戦略。

Souun♡アートのプロデュース

——高橋さんは、ブランドマーケティングの手法で双雲作品のプロデュースをしています。まず、その概要を教えてください。

高橋：私はアートの専門家ではなく、日頃は企業のマーケティングやブランディングを手掛けています。その経験を基に、双雲さんのアート作品のプロデュースを行っているんです。その手はじめとして、2019年2月に開催する個展のスポンサー企業とともにコラボ企画を実施し、双雲さんの露出を増やしていきます。狙いは、書道家として「圧倒的なナンバーワン」に押し上げること。それと並行して、双雲さんのアート作品を「アブストラクト カリグラフィ」と定義しブランディングも行っています。この手法のメリットは、効率的で効果的なことです。



川崎：ギャラリーに所属し、何年もかけて売り出すことが一般的ですからね。2月の個展では、書も展示されるのですか。

高橋：まだ計画段階ですが、書道家としての書は展示しない予定です。

非常に中庸的な「楽」という言葉を選ぶセンスも独特でおもしろい。

一般的なアーティストの売り方とは異なる独自路線。効率的なコミュニケーション。

The Charm of Souun♡ Art

3

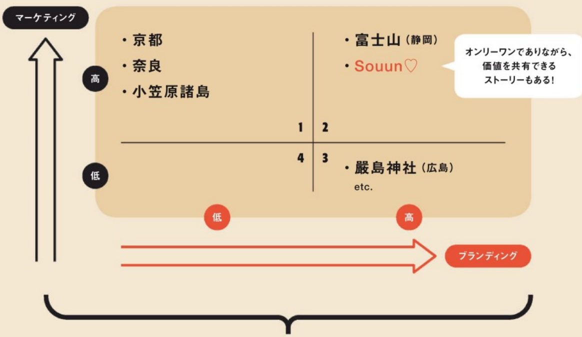
ブランディングのメカニズムとアートの高い親和性
Souun♡を「富士山」にしたい！

Souun♡の1stゴール

Souun♡'s First Goal

現代アートは「思考を楽しむアート」といわれている。その思考のもとが、コンテクストだ。コンテクストとは、作品を説明する文脈のこと。作品を通じて「アーティストが問いかける何か」を鑑賞者が楽しむという考えだ。こうした現代アートのメカニズムは、ブランドマーケティングと共通する部分がある。そのひとつが、ブランドの価値は目には見えない無形資産が多くを占めている点。顧客がブランドの価値を判断するとき、利益よりも好きという感情のほうが圧倒的に強い。そのため、ブランドマーケティングの成功のポイントは、顧客と「強い感情の絆」を結ぶこと。それに欠かせないのが、ストーリーである。高価格でも売れるブランドは、No.1であり、オンリーワンの価値を伝えるストーリーをもっているのだ。それはマーケティングもブランディングのどちらも高次元であるということ。日本にある世界遺産でたとえるなら、富士山だ。富士山は日本一の山であり、信仰の対象や美の源泉というストーリーもある。そのため、日本最強の観光地であることは世界でも認められている。そんなブランドマーケティングのノウハウで、Souun♡をアート市場における富士山にしようと考えている。

日本にある世界遺産をブランドとマーケティングの軸に分けると……



Souun♡を富士山にするプロセス

マーケティングの戦略として実施しているのが、書道家・武田双雲さんのプロモーションだ。個展のスポンサー企業とのコラボイベントなどを次々と仕掛け、体験の機会を増やしている。狙いは、あらためて武田双雲さんの認知を高め、圧倒的ナンバーワンのポジションを確立すること。それと並行して、Souun♡のオンリーワンの価値を伝えるブランディングを行っている。



The Charm of Souun♡ Art

2

Souun♡作品の世界観をかたちづくるストーリー

ブランドストーリー

BRAND STORY DEVELOPMENT

STORY_1 日本にあるふたつの"美"の感性

縄文文化

岡本太郎／棟方志功

etc.

縄文時代につくられていた土器や土偶などは、動的でアーティスティックな装飾が施されているものが中心だ。上記のアーティストの作品も、独特なタッチや色使いに特徴があり、縄文の美と共通する部分が多い。

弥生文化

長谷川等伯／千利休

etc.

弥生時代に誕生したものは、静的で無機質、優美なデザインが多い。双雲の書は力強い筆致ではあるが、書自体を縄文時代か弥生時代、どちらかの文化にカテゴリー分けするならば、弥生の美であると考えられる。

双雲さんの作品は両方兼ね備えている！

Souun♡と作品のブランディングを強化するために開発したのが、縄文文化と弥生文化のどちらにも属するという文脈だ。「日本の美の源泉である縄文と弥生、双方の魅力を兼ね備える天才」というストーリーを作品から読み解いた。

STORY_2 Souun♡と武田双雲のバリュープロポジション

プロダクトアウト ⟷ **マーケットイン**

感情の絆は、まず感動から。
Souun♡の魅力はまさにコレ！

プロダクトの開発には、マーケットインとプロダクトアウトというパターンがある。ブランドの構築に必要なのは、誰も気づいていない潜在的ニーズを掘り起こすプロダクトアウトなのだ。詳しくは企業秘密。

STORY_3 ブランドのクレドとコーズマーケティング

シンボルは「感謝雲」というタイトルで、Souun♡の理念を表現した。「ふたつ（双）の無限（∞）につながるハート（心）の雲」は、感謝からはじまり、幸福や平和へと導いてくれるというストーリーだ。たとえば、移動手段は徒歩から車、飛行機と発展し、人は大きなパワーを手に入れている。そのパワーを幸福に転換する方法は、感謝すること。そこにある感謝すべきことに気づけば、そのパワー以上の幸せが感じられる。それが、Souun♡の考えだ。感謝は幸せを生み出す力がある――そんなシンボルの「ハート型のふたつの雲」の意味を、現代アートを通して世界に問いかけていく。



©武田双雲／TSWWアートプロジェクト

The Charm of Souun♡ Art

Souun♡が現代アートのメインストリームとなる 1 つのエレメント

アブストラクト カリグラフィー™の構成要素

ABSTRACT CALLIGRAPHY's COMPONENT

アートのモチーフは「言葉」

Souun♡作品の最大の特徴は、「文字」がモチーフであることだ。モチーフである文字を抽象的に表現しているため、意味にとらわれることがない。要するに、抽象画のように言葉を感じることができる、世界ではじめての書でありアートなのだ。それを「アブストラクト カリグラフィー™」と定義し、ブランディングを行っている。

「書」で極めた構図

書道家である武田双雲さんは、当然だが字がうまい（笑）。作品のモチーフには抜群の文字なので、構図の取り方が書と同様で、安定感がある。絵でいえば、基礎のデッサン力があるということだろう。アート作品の「余白」や「間（ま）」の取り方も独特で、それも書の構図と融合している。作品の圧倒的な迫力も、書で培ったものだ。

パワーとテクニック

通常、画家はキャンバスを立てて作品を描く。だが、Souun♡は書道と同様に、キャンバスを床に置いて描いている。その描き方もユニークで、手で描いたり、頭で描いたりもする。書は一発勝負なので、キャンバスに向かう時も、迷いがない。勢いがすごい。それは作品の迫力として見るものを惹きつけ、余白をも制圧している。

無限のバリエーション

Souun♡にとって書の原点のひとつが「大」という文字。文字のルーツが「人」であると教わったとき「人の数だけ大があると感動した」という。つまり、Souun♡がイメージする文字のかたちには、限界がないということ。そのため2D、3Dをも問わない。だから、鑑賞者は心を揺さぶる“奇跡の一枚”に出合ってしまう。

1 文字のはじまり



3 完成した文字にさらに“感情”をプラス





2 文字の完成

楽

文字の無限ループ

完成した文字に感情を加え、抽象化。その流れは文字のルーツである象形文字に回帰しているようにも見える。アブストラクト カリグラフィーは、世界中に漢字ブームを巻き起こすかも⁉

Souun♡は、作品のモチーフに「楽」という言葉を選んでいる。感情によって「楽しい」であったり「ラク」であったり、意味の変化はさまざま。そんな言葉の魅力は、いわれてみれば気づく“潜在的ニーズ”だ。それを無意識に、何の躊躇もなく選ぶSouun♡は、技術だけでなく、直感的に描くべきものを察知する嗅覚にも長けているアーティストともいえる。平面作品は、無垢だけど芯のある清潔感のある少女がイメージ。この一点でアブストラクトカリグラフィーのループが感じられる代表的作品（個人蔵）。

平面作品



立体作品



上の作品の解説はP117

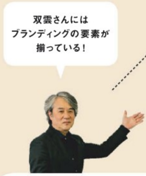
アートプロジェクトの仕掛け人、高橋邦忠氏が語る

The Charm of Souun♡ Art

Souun♡ アートの魅力

武田双雲さんのアート作品の可能性にいち早く気づき、アーティスト活動のプロデュースを手掛けている高橋邦忠さん。現代アーティスト・Souun♡の生みの親でもある高橋氏に、あらためてSouun♡作品の魅力や独自性について解説してもらった。

文=西山 薫　写真=山平敦史
text: Kaoru Nishiyama
photo: Atsushi Yamahira



武田双雲ワールドワイド
“感謝”アートプロジェクト事務局
エグゼクティブプロデューサー
高橋邦忠（たかはし・くにただ）さん

ブランドマーケティングの専門家。一般的なアートのアプローチではなく、マーケティングとブランディングの手法で、現代アーティスト・Souun♡のプロデュースを行っている

Souun♡アートを語る上で不可欠な要素

1 ► **アブストラクト カリグラフィー™の構成要素**
ABSTRACT CALLIGRAPHY's COMPONENT

2 ► **ブランドストーリー**
BRAND STORY DEVELOPMENT

3 ► **Souun♡の1stゴール**
Souun♡'s First Goal

4 ► **プロデュースの仕掛け方**
METHOD FOR PRODUCING Souun♡'s ART

そもそも……アートとは、生活を豊かにするもの

アートは、地球上の生物の中で人間だけが楽しめるものだと考えられている。アーティストは、国や人、歴史によって培われた文化などを、自らの“知”によって変換し、さまざまな手法で表現している。

武田双雲さんは、「書」の在り方を革新してきたパイオニアだ。長年にわたり、文字の素晴らしさを多くの人に再認識させてきた。そんな稀代の天才アーティストがいま、もち得る感性を投じ、次々と現代アート作品を完成させている。

ただ、アートに対して、高尚なイメージをもっている人も少なくないだろう。どうやって楽しめばいいかわからなかったり、買う基準や価値が不明瞭だと思われていたりもする。だが、アートの価値を決めるのは、鑑賞者であり、最も優先すべきことは「この作品が好き」、「心地よい」という感覚である。気に入った作品と暮らす、だからこそアートは、生活を豊かにしてくれるのだ。



ハートを大事にしながら
ビジネスも成功させている
経営者にやっと出会えました。

双雲：偶然過ぎるし、狙ってできることでもない。このことは、僕にとってエポックメイキングな発見となりました。僕がやるべきことは、ただ機嫌よく過ごすだけ。本当にそれだけでいいと確信しています。

――塩田さんにとってアートはどんな存在ですか。

塩田：アートを見ることは、ニュートラルに感情を戻すきっかけにもなります。会社では、考えている（think）時間がほとんど。だけどアートは感じるもの（feel）なので、考え（think）のスイッチが自然と切れるんですよね。

双雲：たしかに、富士山を見るときは、考えないで感じますよね。

塩田：そうそう。アートを見るのは自然を見ることに近い。そもそも、双雲さんは自然体ですよね。作品に描かれている「楽」をそのまま生きている印象があります。

双雲：いまは思考を限りなくゼロにする実験中です。その結果どんな表現が生まれるのか試しているところなのですが、何も理想とせずに描くので、常に失敗する。たとえ失敗しても怒らず、なんでそんなことしちゃったのーって自分に笑いながら言ってます（笑）。論理的に考えず、とことんワクワクする方向に向かっていますね。



1



2

ピンときた！　直感で選んだ作品

1は大胆な色使いと動きに惹かれたという。2は、「波や流れ、海といったイメージで、動きがありつつも、ゆったりした印象もあり目に留まった」と塩田さん

各作品の解説はP153～124

簡単に感じられるようになってきました。

双雲：わかります！　楽しくなればなるほど楽になる。だから僕は「楽」を描いているんです。思い込みをなくして、自分の感情を大事にしながら、この瞬間を楽しんで過ごしていれば、誰でも楽になるし、勝手にうまくいくようになるんです。そのことをいくら伝えても「双雲さんは特別だもんね」、「双雲さんは天才だから」ってなっちゃう。経営者に伝えても、「株主がいるし、利益を上げなくちゃいけない。そんなの無理だよって」。僕だけでは説得力がないんです。感情を大事にするって言葉にすることは簡単だけど、実践することは難しい。それがわかるからこそ、ビジネスの世界で挑戦して結果を出している塩田さんは、僕にとってヒーロー。僕はアートの世界で証明していきたいと思っています。

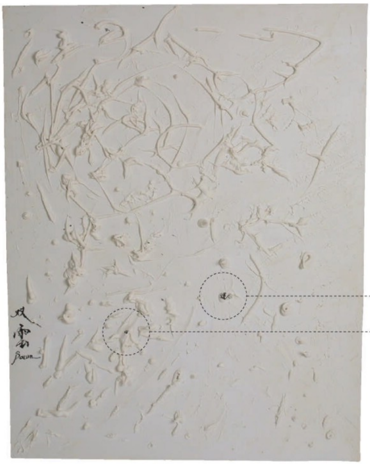
偶然過ぎる出来事

――塩田さんは双雲さんの作品を3点購入されました。

塩田：白い作品は自分でも「なんでこれなんだろう」って思ったのですが、不思議なくらい心が揺さぶられました。だけど、驚くべき事実があったんですよね。僕が購入を検討していると言ったら、双雲さんが作品の説明をしてくれて、絵の中に小さく「心」と「運」という文字が描かれていることがわかりました。そのとき「心（heart）」と「運ぶ（drive／driven）」で「ハートドリブン」。本当に驚きました。

双雲：いま、思い出しても鳥肌が立ちますね。しかも、実はその作品は「うんこ」をモチーフにしているんです。そのことも一応、伝えておくべきだと思って話したら、塩田さんが「アカツキ、うんこミュージアムを手掛けているんです」って。二人でさらに「えー！」ってなりました。

塩田：本当に何も知らずに選んだので、衝撃でした。





「運」

「運」という文字は「運を運ぶ」というイメージで描かれたものだ。作品のモチーフである「うんこ」の「うん」でもある



「心」

「心」と「運」で「ハートを運ぶ」というメッセージも込められている。「そのことを知らずに選んだ。意味を知って鳥肌が立った」と塩田さん

塩田さんが購入した作品

作品の中にハートドリブン!?

絵の中に小さく「心（heart）」と「運ぶ（drive ／ driven）」という文字が描かれている。偶然にも塩田さんの著書『ハートドリブン』と読み取ることができる



出会った瞬間、意気投合！ 共通テーマは「心」と「運」

アカツキのオフィス内には土足ではなく、靴を脱いで入る。左ページの写真の撮影場所は、SHINE LOUNGEと称したフリースペース。200名ほど収容できる広々とした空間で、壁にはアートも飾られている



描かれている「楽」は自然体な双雲さんそのもの。作品を見た瞬間、心に響きました。

アートと経営の共通点

――お二人はまだ出会ったばかりで、今回、会うのは2回目だとうかがいました。

双雲：塩田さんの著書『ハートドリブン』（幻冬舎）を読んで、僕が感想を送ったことが出会いのきっかけです。起業家の本なのに「魂」とか「目に見えないものを大切にする」といった言葉を使っていることが気になって、読みました。その内容に共感することがあまりにも多かったんです。失礼な言い方かもしれませんが「僕が求める経営者がいた！」と思った。まずは、この感動を伝えたくて、面識もないのにいきなり連絡しちゃいました。

塩田：FacebookのMessengerで連絡が来て、驚きました。もしかしたら武田双雲さんの偽アカウントじゃないかって（笑）。

――双雲さんは塩田さんのどこに一番惹かれたのですか。

双雲：軽やかさです。これまで数々のトップ企業の経営者の方々にお会いしてきましたが、醸し出すオーラーがまったく違う。その理由は、感情やハートといった目に見えないものを軸に、ビジネスを展開されているからだと思います。実際、ハートが大事だと語る経営者は少なくないですよね。ただ、それを実践してビジネスを大きく成長させている人は、僕が知る限りだとほとんどいないと思います。

塩田：僕もかつては「恐れドリブン」だった頃もあるんですよ。そのときは、成長がすべてを癒すと思っていましたから。経営者は、壁にぶつかって苦しくても乗り越えるパワーがあるから、なかなか立ち止まれない。だけど、僕は立ち止まるきっかけがあったんです。自分が苦しいことに気づき、ネガティブな感情も受け入れたら楽になった。経営もどんどん

18+

WHAT IS AVAXHOME?

アカツキ
代表取締役CEO
塩田元規（しおた・げんき）

1983年生まれ。横浜国立大学卒業。一橋大学大学院MBAコース修了。新卒でディー・エヌ・エーに入社し、広告事業に従事。退職後、2010年6月に香田哲朗氏とアカツキを創業



実は会えたのは今日で2回目（笑）。
目黒のオフィスにお邪魔してきました！

文＝西山 薫　写真＝山平敦史　text: Kaoru Nishiyama　photo: Atsushi Yamahira



双雲さんが描く世界のエネルギーに惹かれています。

藤野　開始当初から作品もずっと見ていたし、夢中になっていく様子も伝わってきて、「これだよね」と思いました。好き・嫌いという軸と、できる・できないという軸を考えたときに、好き・できるが一番いいに決まっているし、嫌い・できないことはやらないほうがいい。でも好き・できないは、好きなんだから絶対できるようになる。双雲さんにとって、アートってきっとそういうことなんだろうなと思ったんです。僕はもともと、双雲さんって、マイルス・デイビスやピカソに近いと思っていた。二人とも、大きな世界観は最初から変わらないんだけれども、色やかたち、方法などの表現が時間によって変化している。それは双雲さんにも共通していると思います。

双雲　藤野さんは、僕がいままで言葉で表現していたものをアブストラクトで表現してもわかってくれる。僕は、アートを理解してその道に進んだわけじゃなくて、勢いで進んでいるから、藤野さんのように感性の高い人に僕の感動をわかってもらえることはとても心強いし、自信につながります。

藤野　今度の個展のタイトルは「ピカソ、ごめん。」展だけど、先日、パリのピカソ美術館に行ったとき、先に謝っておきました（笑）。将来的には、「ピカソって誰？」という質問に対して、「昔の武田双雲」と答える日が来ると思いますよ。

双雲　すごいこと言いますね（笑）。「ごめん」にはいろいろな意味があって、時代に恵まれているという想いもあるし、僕は人に恵まれる運がとんでもなく強い。藤野さんともそうだし、最高のタイミングで最高の人と出会える。そういう運の強さに対する「ごめん」もあります。

藤野　双雲さんの強みは、時間や空間を含め、あらゆる束縛から解放された人生観だと思います。そういう次元にとらわれていない。「毎日がパラダイス」も、痛みやつらさもあるけど、痩せ我慢するんじゃなくて、「そういうこともあるよね」と肯定してこそのパラダイスでしょう。双雲さんの現代アート作品も、双雲さん自身がそうであるように自由だし、「みんな楽しく生きようぜ」という感覚から生まれたもの。そうした作品が普及することが、分断された世界を救うことにつながると思います。



熱した蒼鉛（ビスマス）という金属で“楽”を表現

「光によってあらゆる表情を見せてくれる。はじめて見た瞬間、“楽”に込められたさまざまな感情が伝わってきました」（藤野さん）



1



2

藤野氏の別邸にて、特別対談が実現！

投資家として、相手の人となりやエネルギーを見ることに長けている藤野さんから見た双雲さんの魅力とは？

“楽”の文字をモチーフにした「楽園シリーズ」

“楽”の文字を材料、かたち、色、技法を変えてさまざまに表現。1）書で使う朱墨を主に使った作品で、記号とも読み取れる模様と、ほとばしる筆先が想像できる。2）鮮やかなコントラストに目を奪われる傑作のひとつで、擬人化されている「楽」

藤野さんは人を、そして気の流れを見る達人です。



きっかけは一冊の本から

――お二人の出会いのきっかけを教えてください。

双雲　僕がたまたま藤野さんの本を読んであまりに感動したから、SNSを通じて一方的にメッセージを送りつけた（笑）のがきっかけです。

藤野　ちょうどその頃、会社を引っ越すにあたって、縁起のあるものを用意したいと思っていたんです。僕たちの主力商品である「ひふみ投信」の名前には、「火風水土心」という裏の意味もあるんです。それで、それぞれの文字を5つの会議室の名前にしよう、せっかくのご縁だから、双雲さんにその書をお願いしようということになりました。そのために、私を含め創業メンバー全員で双雲さんを訪ねたんです。かなり緊張して出掛けたんですが、部屋に入ってすぐ「毎日がパラダイス」という書に全員が心を射抜かれた。「そうだ、人生ってそういうことだ！」と、意気投合しました。そして実際に書いてもらい部屋に掛けたら、不思議なことに、とてもしっくりとはまったんです。

双雲　それはとてもうれしい。書道家はもともとシャーマン。目に見えない神の言葉を文字にして亀の甲羅などに刻んでいたわけです。その文字が波動（エネルギー）を整える。だから書は、いい文字をただ書けばいいんじゃなくて、どういうイメージをしながら書くかが重要なんです。

現代アーティストSouun♡の魅力と可能性

――双雲さんが現代アーティストとして制作活動をはじめたと知ったときは、どう思われましたか。

に魅せられて

2017年より現代アート作品の制作に取り組むSouun♡。これまで書で表現していた想いを転じた作品には、彼ならではの世界観が投影されている。その作品に魅せられた方々にお話をうかがいます。



レオス・キャピタルワークス
代表取締役　最高投資責任者

藤野英人（ふじの・ひでと）

国内・外資大手投資運用会社でファンドマネージャーを歴任後、2003年独立・創業。主に日本の成長企業に投資する株式投資信託「ひふみ投信」シリーズを運用。一般社団法人投資信託協会理事。

このビスマス作品を購入いただきました！

現代アーティスト・Souun♡



文＝成田美友　写真＝山平敦史　text: Miyu Narita　photo: Atsushi Yamahira



現代アート＝カオスが快感と感動を生む

双雲さんのアトリエ。床には、画材だけでなく日用品も無造作に転がる。それらも含め、目についたものを使って作品を仕上げる

書とアートは表裏一体の存在

壁に掛けたキャンバスに向かったかと思うとおもむろに刷毛で色を塗り出す。と思えば、チューブを力強く振って絵の具をキャンバスにまき散らす。次の瞬間には、手のひら全体を使って色という色を混ぜ合わせる。その動きには一切のためらいがない。双雲さんは、頭の中でどんな完成形を思い描いているのだろうか。

「何も考えていません（笑）。ただただ、いいエネルギー体になることに集中する。あとは流れに身を任せるだけ。そうすると身体が勝手に動くんです。そのとき、自分が思うのとは逆の方向に進みます。いかに未知の領域に踏み込むか。つまり、自分を裏切り続ける。双雲らしくないを続けた先に、双雲らしさが生まれるんだと思う。アートは、それができるから楽しいんです」

“楽しい”を含む“楽”は、書道家として独立した際に掲げた人生におけるビジョン。書道家としてはもちろん、アーティストとしても欠かせないテーマになっている。

「“楽”には、1.自分が楽をする、2.自分が楽しむ、3.人に楽をさせる、4.人を楽しませるという4つのマトリクスがあります。僕が目指すのは、自分が楽で楽しくて、世界中の人にも楽をさせて楽しませること。それを実現するものがアートなんです」

双雲さんがアートに目覚めたのは約2年前。きっかけは、約束を守ったごほうびとして、娘さんが色鉛筆を貸してくれたことだった。

「色鉛筆でカラフルに書いた“魂”という文字をSNSに上げたら、その反響がすごかったんです。『あ、こういうことも許されるんだ』と思って、そこからはまりました」

実は、双雲さんは、子どもの頃から絵を描くことが苦手だったという。

「いまでも『上手に描きなさい』と言われたら嫌だけど、自由に描くのは楽しい。それに比べると書では、自分を抑えている部分があります。でもアートだったら、リンゴを黒く塗ってもいいでしょう？　僕は、そういう答えのない世界が好き。しかも、それで人に感動してもらえるなんて、こんなに楽しいことはありません。でも、自由だからこそ、アート作品には、書よりも内面が如実に表れてしまう。だから人間性を高めたいと思っています。それは、いい人間でいるというよりも、気持ちよく、上機嫌に生きるということ。楽しいを極めていれば、自由にしてもいい波動、エネルギーが出てくると信じています」

そんな双雲さんにとって、書、そしてアートとは？

「書は心を整えるもの。クールで乱れない。それに対してアートはエクスタシー。自分の本性をむき出しにしたらどうなるかという実験に近いかもしれません。たとえるなら、結婚するなら書で、火遊びするならアート（笑）。どちらも自分にとって快感なんだけど、その方向性が真逆。とはいえ共通点もあるし、陰陽のように、お互いがバランスを取り合っている存在でもあります」

アート作品の多くは、“楽”という文字がモチーフで、一連の作品を総称して「楽園シリーズ」という。

「僕は『毎日がパラダイス』と思って生きています。もちろん、楽しいだけの世界があるとは思っていません。つらいことや悲しいことなど、いろんなことを踏まえた上でのパラダイス。戦争とか環境破壊とか、これだけぐちゃぐちゃな世の中だからこそ、僕みたいにポジティブなことを言う人間が必要だと思うんです。そのために超気持ちのいいエネルギー体になって、人類にそういういい影響を与えられる存在になりたい。そうなるための表現、それが僕にとってのアートです。とはいえアートにこだわっているわけでもないですが、とにかく楽に、楽しく。書でもアートでも人生でも、それが僕の個性であり、オンリーワンの存在になり得る理由だと思っています」



「旧字体“樂”の幺部分は神事などで使う鈴を表すから“楽”の字には感謝も入っていると思う。僕は迷ったら感謝する。触れるもの、見るもの、すべてに感謝の無差別攻撃（笑）。世界中に感謝を広げていきたいですね」



絵画でも陶芸でも、刷毛などの道具を使わず、手で作品を仕上げることが少なくない。「書道家としてはあり得ない行為だけど、アートなら許される。色を直に感じる、その感覚が気持ちいい」

制作中は、Souun♡自身、そして
アトリエ全体が現代アートと化す



作品は、半年かけて完成するものもあれば、数日で完成するものもある。いずれにしても「生命が生まれるような感覚。子育てと同じで、どう仕上がるのかは最後までわかりません」

ARTIST

Souun♡

いまなぜアートなんですか?

書道家・武田双雲さんが現代アートの世界へ。
既成概念はもちろん、自身の思考にすらとらわれず、
これまでに約500点の現代アート作品を生み出している。
すべての作品に共通する概念は、
無理せず“楽”に、そして自由に“楽”しく。
“楽”は、双雲さんの人生におけるビジョンであり、
目指すは、自分の“楽”で世界中に“楽”を届けること。
双雲さんにとって、その想いを表現する現代アートとは?
そして書との関係は?
現代アーティスト・Souun♡の世界観に迫ります。

そううん♡

1975年、熊本生まれ。書道家として活躍しながら2018年より現代アート作品の制作を開始。1年半の間に制作した作品は絵画、陶芸など約500点。2020年2月4日から代官山ヒルサイドフォーラムにて「ピカソ、ごめん。」展を開催予定。“楽”という文字をモチーフにした「楽園シリーズ」をはじめ、数百点の作品を販売・展示する



双雲さんにとって書が“静”なら現代アートは“動”。理性ではなく、本能をもってして作品制作に臨む

 文=成田美友　写真=近藤 篤　text: Miyu Narita　photo: Atsushi Kondo



自身のアトリエでアート作品制作に取り組む双雲さん。完成形を思い描かず、気の流れに身を任せ、身体の動くままに制作を進める



Souun♡のアート現場へ潜入——